加茂市文化財調査報告（3）

東部地区遺跡詳細分布調査報告書

～国営加茂東部地区総合農地開発事業周辺地域～

1987

新潟県加茂市教育委員会

はじめに

昭和60、61年度の２ヵ年間にわたって進めてまいりました加茂東部地区遺跡詳細分布調査が予定どおり終わり、このほどその報告書をまとめることができました。加茂東部地区国営総合農地開発事業に備えて、あらかじめ地域内の遺跡分布状況を把握しておくのがこの調査の目的ですが、 1,044haに及ぶ広範囲な地域であるだけに、現地調査や資料整理などで、従事者延べ 560人余、調査日数約70日間を数えております。すでに周知されている遺物包含地をはじめ、城館址、石塔、寺院址、塚などを約 130地点で調査、はるか原始のころから中世・近代へと幅の広い時代区分となっており、七谷地域における遺跡の分布図はさらに厚味を加えたことになります。東部地区開発事業は郷土の生いたちを探る好機でもあり、学術的にも貴重な数多くの資料を得ることができました。

雨天や猛暑の中、調査にあたられた諸先生方をはじめ、聞き取り調査での情報提供や現地の案内などいろいろご協力をいただきました地元の皆様方に厚く御礼申し上げ、発刊のごあいさつといたします。

昭和６２年３月

加茂市教育委員会教育長
小　林　知　二

例　　言

1. 本書は新潟県加茂市内における、加茂東部地区国営総合農地開発事業の計画に伴う遺跡及び石造物等の詳細分布調査の報告書である。
2. 当開発が、農地、山林を含む 1,044haに及び、且つその法線の把握が難しいため、当調査においてはその開発予定地域周辺を含めて調査範囲とした。
3. 調査は加茂市教育委員会が、東部開発地域内遺跡詳細分布調査団を結成して実施した。
4. 調査は昭和59年度の準備企画に始まり、60年度には西山、宮寄上、及び高柳地区の調査を行い、61年度には大谷、土倉、長谷及び黒水地区の調査を行った。
5. 調査は周知の遺跡（既存の遺跡）の再確認をはじめ、遺物包含地、山城、館趾、要害、塚、中世石造物、近世石造物を範疇とした。
6. 調査に当たっては調査団員が三班を編成し、担当の地域を同時に踏査し、その結果を持ち寄った。
7. 本書の記載について、遺跡等の位置図は特に記入のないものは5000分の１である。また、説明事項は、1 加茂市における既存の遺跡No.、2 遺跡の種類、3 遺跡所在地、4 遺跡の立地、5 遺跡の規模、範囲、或いは遺構、6 出土遺物または石造物等の形態、7 遺跡、遺物等の時代、8 所有者または保管場所、9 参考文献、10 備考、である。本文ではスペースの関係上これらを省略した。
8. １のNo.のない遺跡は当分布調査によって発見、または取り上げられたものである。
9. 石造物等の計測は、〈高さ〉×〈幅〉×〈厚さ〉の順であり、欠損または土中に深いものは数値を括弧内に入れた。
10. 本書の編集に当たり山城関係のうち薬師山城址に関しては県教育委員会の原図を基にしたが、その他は不備な点もあるが総て調査員の原図によるものである。
11. 遺物整理、図面作製、編集作業は調査員の援助のもとで杉本恵子、佐藤正子が当たった。
12. 本書作製の他、埋蔵文化財包蔵地調査カードを作製し、60年度調査結果についてはすでに提出済みである。
13. 本書では予算の都合上挿図及び図版説明等を省略した。
14. 本書の執筆はⅠを小柳陽一、Ⅱを長谷川昭一、Ⅲ及びⅣを川上貞雄が担当した。

調査団名簿

団　長	小林　知二	加茂市教育委員会教育長	
担当者	川上　貞雄	日本考古学協会会員	
調査員	木村　宗文	元県文化財保護指導員	
	松井　　寛	〃	
	古川　信三	加茂市文化財調査審議会委員	
	長谷川昭一	〃	
調査員補	鈴木　弥生	加茂暁星高校講師	
	宇之津昌則	新潟大学考古学専攻卒	
	金井　　勇	越後考古研究会会員	
	中川　俊男	〃	
調査協力	波塚　十一	郷土史研究家	
	片岡　典雄	三条商業高校教諭	
	平野　智子	川瀬ひさ子	五十嵐真由美
	渡辺　朝子	樋口真由美	岸木　佳子
	杉山くみ子	高橋　征子	藤田　美子
	青野　知恵	西村　和子	石綿　牧子
	熊倉　知子	坂下ともみ	青木佐代子
	安達　朝子	金子　才子	益田　一子
	小柳かおる	長沢　恵美	中村　　恵
	吉田　直美	五十嵐朋子	今井美佐子
	上田加奈子	菊池　知子	志賀さおり
	永井　雅子	青山　洋子	古川　有理
	今井　和代	大竹　美雪	田巻規江子
	外山　幸子	高橋　敬資	古俣　貴史
		（以上三条商業高校生徒）	
	若杉　俊章	考古学愛好者	
	井浦美由紀	〃	
地元協力者	大橋　三郎	外山　　登	菅家与三郎
	小柳　一男	林　　武雄	中野善一郎
	高橋　貞二	外山　敏夫	小柳一次郎
	田浦　富雄	今井　徹夫	田浦　信樹
	鶴巻　武雄	波塚　　惇	大橋亀太郎
	亀山　知章	坂上　清一	茂岡勇太郎
	菅家　留吉	珊瑚庄次郎	伊藤　景昭
	鶴巻　健吉	中野　文平	
事務局	小柳　陽一	加茂市教育委員会社会教育課長	
	中沢　　皓	同副参事	
	前田　玲子	同主査	
	青柳　芳樹	同主事	
	斎藤　　淳	〃	

目　　次

Ⅰ　調査に至る経緯 …… 3

Ⅱ　調査地域の自然的環境と歴史的環境 …… 4

Ⅲ　東部開発地域周辺の遺跡・遺物 …… 7

Ⅳ　小　結 …… 108

Ⅰ　調査に至る経緯

加茂市街地から加茂川沿いに遡って約６kmの地点に狭口地区がある。その名のとおり両側から山が迫り、わずかに加茂川と県道のみが通る、地形が狭まったところである。

狭口を過ぎると視野は一挙に拡がり粟ヶ岳を中心とした七谷地区の山脈が展開する。旧中蒲原郡七谷村で、七つの谷あいに集落が散在している。県道の行きつく所は粟ヶ岳(1,293m)であり、村松町や下田村方面へ通ずる道路はあるが、四方を山岳に囲まれた地理的条件にからんで幾多の文化的遺産が分布し、継承されてきた。

粟ヶ岳山麓にある水源地ダム建設工事では縄文土器や石器類が出土しているし、昭和60年度に発掘した黒水地内国道 290号線の工事では縄文後期の遺構や石箆、土器類も確認されている。

中世のころの城館趾も七谷地域に散在し、それにまつわる伝承も数多くあって興味をそそる。まさに、歴史のロマンが数多く秘められている地域であると言っても過言ではない。

同地域の面積は 80.68ｋ㎡。昭和29年11月、加茂市と合併時に 4,700人余を数えていた人口はその後漸減を続け 3,300人余に落ち込んでいる。かつて盛んであった林産、薪炭、製紙、農業は時代の変遷とともに衰退し、若年層の流出や地域外への就労者が増加した。

山岳地帯であるだけに、農家１戸当たりの経営耕地面積は 0.7haで、加茂市須田地区の1.6ha、下条地区の 1.5haなどと比較して地域差は大きく、農業所得の低さは当然否めない。

効率のよい農業経営を目ざし、地域の活性化に結びつけるために浮上してきたのが東部開発事業である。計画面積は 1,044ha（農地開発 715ha、土地改良 329ha）で、地域内を結ぶ環状路線の整備や、総貯水量 290万㌧の農業用水ダムを建設する大規模なプロジェクトで、宮寄上、上高柳、上大谷などの奥地山岳地帯を除く七谷地区のほとんどに開発計画のアミがかぶせられた。市内では有数の埋蔵文化財包含地である七谷地域であり、開発事業着手の前に遺跡の分布状況調査に取組んだ。

調査にあたっては県文化行政課から数々のご指導をいただくとともに、東部開発事業の主管課である市農林課と事前協議を十分に行いながら計画を検討した。

なお、２年間の調査に要した事業費は 418万円で、このうち 238万円が国県補助で充当されている。２年間にわたった調査の努力が実って、七谷地域の史実がいっそう明確化されたことは喜ばしい限りである。

Ⅱ　調査地域の自然環境と歴史的環境

（１）　自然環境

加茂東部地域は、新潟県のほぼ中央に位置する加茂市の東南部にあって、信濃川水系加茂川の上流流域に発達した山間の集落で、七谷地区（旧中蒲原郡七谷村）に属す。周辺は中蒲原郡村松町、南蒲原郡下田村、加茂市の下条と狭口地区に接し、市街地から地区の中心部下高柳集落まで約10㎞の距離にある。面積は約81ｋ㎡で加茂市全体の約61％を占めるが、その約84％は山林で耕地は約５％にすぎない。

地区の南から東にかけては、古世層の岩石を基盤とした粟ヶ岳、権ノ神岳、白山など千メートル級の山々が屏風のようにそびえ、それから北西部に向って新三紀に形成された50～400ｍの丘陵地帯がしだいに標高を下げながら広がる。丘陵地帯の地層はほぼ10～40度傾斜の単斜構造を示し、世界的に知られている七谷層の灰色泥岩・土倉火山角礫岩及び西山層泥岩の分布地帯である。粟ヶ岳(1,293m)に源を発し地区を南東から北西に貫流する加茂川とその支流が谷をつくり、それに沿って13の集落と耕地が散在する。加茂川本流と高柳川流域は河川の氾濫によって形成された礫層が中心であり、大谷川、西山川の流域および土倉地区は粘土系の地質である。

気象的には、年平均気温12℃、年間降雨量2400㎜だが、周囲が山に囲まれているため“風知らず”と言われるほど風が少なく、特に夏は高温多湿である。冬期の積雪は加茂市内では群を抜いて多く、最高積雪が３ｍ近くなることもめずらしくない。11月に初雪を見、４月上旬までの四ヶ月間は雪中の生活を強いられる。

（２）　歴史的環境

七谷地域における縄文時代の遺跡の存在は戦前から確認されていた。大正７年発刊の「中蒲原郡誌」に宮寄上字興野、下高柳字川向、上高柳字金平、黒水字岩野の４箇所が記されている。戦後、新たに発見された遺跡や遺物については、加茂市が昭和50年に発行した「加茂市史」で詳細に報告されている。このうち発掘がされたのは、昭和30年の水源池遺跡と昭和60年の七谷忠魂碑遺跡の２箇所のみである。いずれも建設工事にともなう一部分の発掘で、遺跡の全容を知ることができず残念である。水源池遺跡からは土器やイロリ跡が出土し、復元された３個の土器は市の民俗資料館に展示されている。本格的な発掘調査が行われた七谷忠魂碑遺跡は縄文中期の配石遺構などで、調査報告書が加茂市教育委員会より発刊されている。このほか、タタラ（熔鉱炉）か鍛冶場などの遺跡でないかとされる“カナクソ”の出土地、“ランガマ”と呼ぶ横穴や中世の山城の跡、古墳らしき塚などの遺跡が前記「中蒲原郡史」に記述されている。昭和54年に新潟県教育委員会がまとめた新潟県遺跡地図によれば七谷に23の遺跡がある。

このように七谷の地域に古くから人々が生活をしたことは確かであるが、現在の集落の開発年代は明らかでない。宮寄上の長瀬神社が『延喜式』神明帳に記す長瀬神社との説もあるが、同市八幡の長瀬神社との関連で判然としない。その後七谷の集落は菅名荘と青海荘の荘域に含まれていたが、その境界は明確にできない。なお、大正時代からこの地が紙屋荘であったといわれていたが、その後の研究によって紙屋荘は三島郡越路町付近の荘園であったことが明らかにされている。南北朝期に越後の南軍と北軍が菅名荘（村松）金津保（新津）あるいは加茂市陣ヶ峰などで戦ったことが「越佐史料」に見える。この頃、新田義宗が宗良親王を奉じて各地を転戦したが、岳山城や高柳城が新田氏ゆかりの城という伝説がある。

慶長３年(1598)豊臣秀吉は上杉景勝を会津に移した。七谷郷はこの時から寛永16年(1639)まで村上藩の領地となり、“七谷組”と呼ばれて一つの行政単位をなしていた。ただし、下土倉村のみは“菅名組”に組込まれて、村上藩の重臣堀主膳の知行地であったことが「堀家文書」で明らかである。慶長５年(1600)関ヶ原合戦の前哨戦ともいうべき越後一揆が起り戦いは加茂七谷方面に広がった。寛永16年安田藩３万石が創立され七谷はその所領となり、正保元年(1644)領主が村松に移って村松藩と改称され、それ以降幕末まで村松藩領で下土倉を除いて七谷組として黒水村にあった大庄屋の支配下にあった。この間、寛文10年(1670)から２年間総検地が実施された結果、大谷村が上・中・下の３ヶ村に、高柳村が上・下の２ヶ村に分離されて、現在の大字に対応する村の構成が成立した。明治維新に下土倉村が七谷の行政区域に加わり、明治22年(1889)中蒲原郡七谷村となり、昭和29年11月に加茂市に併合されて現在に至る。

江戸時代以前に起源をもつとされ、かつては県下最大の生産量を誇り七谷の主要産業であった和紙の生産は、現在１戸が細々と伝統を守っている。宮寄上地区の鉛鉱山は江戸時代中期の開鉱で佐渡金山の精錬にも使用されるなど幕末期に活況を呈したが、明治初期に廃鉱となった。

○	原始時代	▲	塚　類	●	近世の石造物
△	古代中世	✡	中世の石造物		
■	城館跡	□	その他の遺跡，史跡		

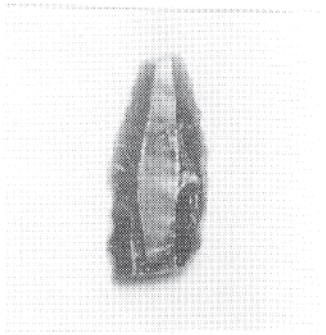
Ⅲ　東部開発地域周辺の遺跡・遺物

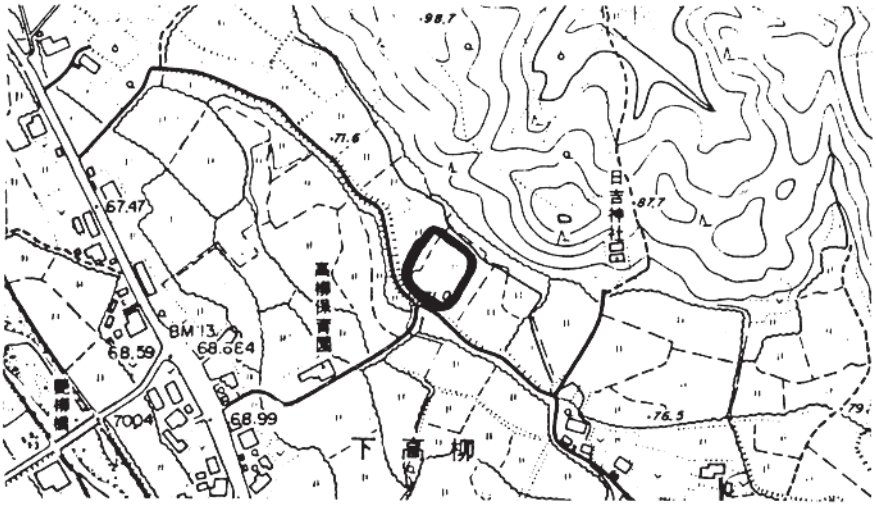
目　次

1. 山王原遺跡
2. 下土倉遺跡
3. 岩野原Ａ遺跡
4. 岩野原Ｂ遺跡
5. 岩野新田Ａ遺跡
6. 弥次郎遺跡
7. 岩野新田Ｂ遺跡
8. 岩野遺跡
9. 牛ヶ沢Ａ遺跡
10. 牛ヶ沢Ｂ遺跡
11. 水源池遺跡
12. 松ヶ沢遺跡
13. 金平遺跡
14. 広田Ａ遺跡
15. 広田Ｂ遺跡
16. 七谷忠魂碑遺跡
17. 三場Ａ遺跡
18. 三場Ｂ遺跡
19. 三場Ｃ遺跡
20. 岩野原Ｃ遺跡
21. 田中屋敷遺跡
22. 蚊口田遺跡
23. 刈干場遺跡
24. 草生津遺跡
25. 岩野原Ｄ遺跡
26. 上黒水遺跡
27. 川向遺跡
28. 諏訪神社前遺跡
29. 賢聖寺跡
30. 寺屋敷跡
31. 善興寺跡
32. なかん沢遺跡
33. 石五郎屋敷遺跡
34. 御所平遺跡
35. たて屋敷遺跡
36. 岩野古銭出土地
37. 岳山城址
38. 薬師山城址
39. 石高山城址
40. 石山城址
41. 出土塁柵
42. 木戸口塁柵
43. 高柳城址
44. 下大谷城址
45. 上土倉城址
46. 西山城址
47. 西ヶ峯城址
48. 西ヶ峯塁柵
49. 西ヶ峯砦址
50. 陣場跡
51. 伝下屋敷館跡
52. 七聖１号塚
53. 七聖２号塚
54. 七聖３号塚
55. 七聖４号塚
56. 七聖５号塚
57. 芹沢の塚
58. 灰　塚
59. 上黒水１号塚
60. 上黒水２号塚
61. 谷地田の塚
62. 寺下の塚群
63. 菅ノ谷地の塚
64. 笹淵の塚
65. かご掛松の塚
66. 行　塚
67. 広田の塚
68. 上の田の板碑Ａ
69. 上の田の板碑Ｂ
70. 中丸の板碑
71. 善興寺の石造物
72. 段の坂の石造物
（新田義宗一族の墓）
73. 小乙鉱山
74. 爪切り不動尊
75. 小乙の宝篋印塔
76. 広田の石塔群
77. 宝興寺の石塔群
78. 薬師堂の宝篋印塔
79. 旧墓地の石塔残欠
80. 菅の谷地供養塔
81. 三柱神社供養塔
82. 三柱神社石塔群
83. 岩野原の庚申塚
84. 草生津の石塔群
85. 草生津の寒念仏
86. あきどおりの地蔵尊
87. 出土の地蔵尊
88. 金華様
89. 鳥越の不動尊
90. 鳥越の地蔵尊
91. 十二様
92. 田中の地蔵尊
93. 稲荷神社の石造物
94. 上大谷の石塔群
95. 金平の石仏
96. 湯殿山碑
97. 明毛の庚申塔
98. 御前清水の石造物
99. 日吉神社の石塔群
100. 牛転坂の石塔群
101. 太古原の石塔群
102. 乃木神社の祠
103. 寺屋敷の石塔群
104. 沢通りの石塔群
105. 嶽山寺の石塔群
106. 嶽山寺の庚申塔
107. 善興寺の石塔
108. 西山の庚申塔
109. 賢聖寺門前の石塔群
110. 賢聖寺門前の石造物
111. 谷泉寺の石塔群
112. 粟ヶ岳神社の石塔残欠
113. 日限地蔵尊
114. 七聖の石塔群
115. 丸山の庚申塔
116. 茂野家の山の神祠
117. トリアゲの地蔵尊
118. 丸山の塚
119. ナメ坂の塚
120. 中大谷の石祠
121. 旧街道と花立峠
122. 十二神社の石塔群
123. 道祖神
124. 旧宝生院の石塔
125. 宝生院跡
126. 本都寺の石塔
127. 二左衛門山の墓址群
128. 上道の石塔群
129. 朴坂の庚申塔
130. 六部塚
131. その他の遺物

1　山王原遺跡

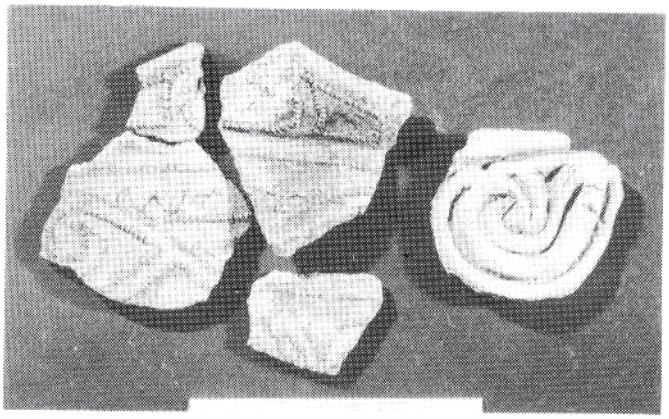
2　遺物包含地
3　下高柳字山王原　420～425
4　加茂川右岸の南西向き台地上。
　現況は畑地で背後は丘陵斜面、
　前面は低地の水田である。
5　約50×50m
6　ナイフ型石器
7　先土器時代
8　高橋貞二氏所蔵
10　昭和59年地主笠原浩二氏が採
　集したもの。

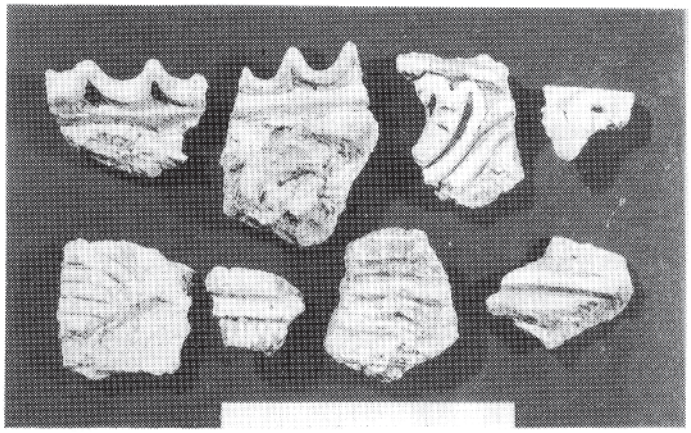


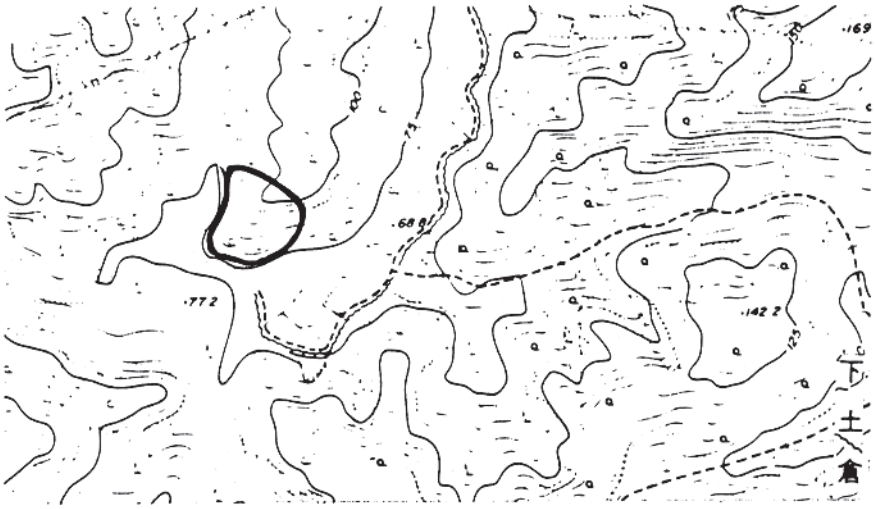


2　下土倉遺跡

1　No.1
2　遺物包含地
3　下土倉字中の倉628 他
4　村松町に近い山麓の台地。深い沢の奥部に張り出した平坦地で現況は山林である。
5　60×70m
6　縄文土器
7　縄文時代前期～中期
8　加茂市教育委員会
9　「加茂市史（上）」
10　村松町渡辺渡氏の所有地。伊藤景昭氏によって発見された。別名かまの口遺跡。

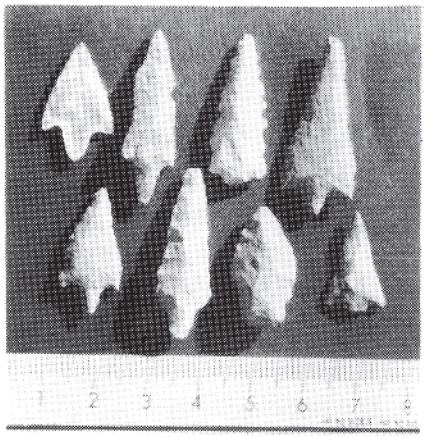






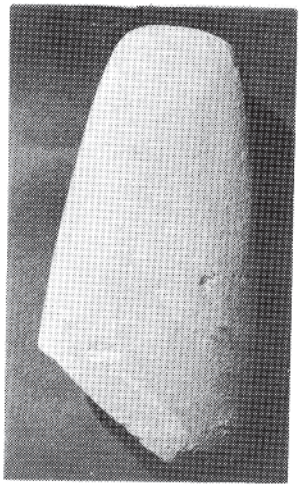
3　岩野原Ａ遺跡

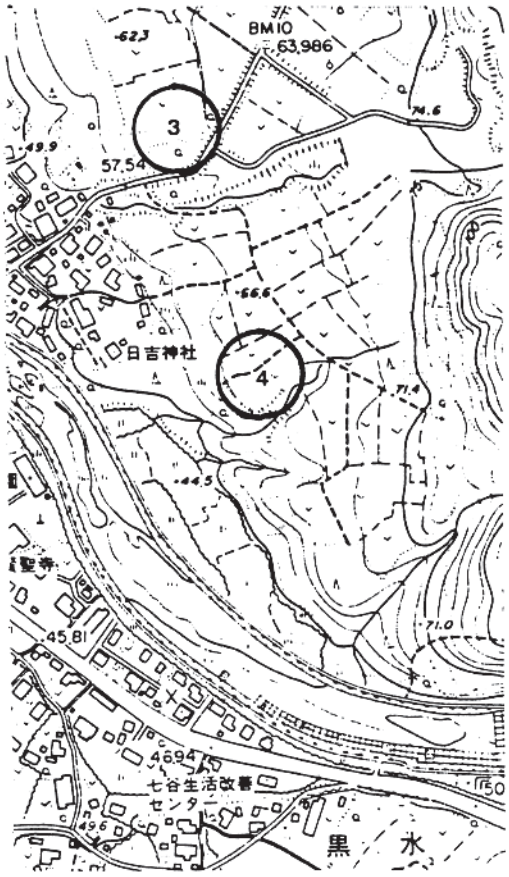
1　No.9
2　遺物包含地
3　黒水字岩野原 275-1～296
4　薬師山西方に広がる広大な台地の一画。現況は畑地。
6　縄文土器、石器（石鏃）
7　縄文時代中期
8　加茂市教育委員会
9　「加茂市史（上）」
10　桜井文作氏の畑を中心とする地点



4　岩野原Ｂ遺跡

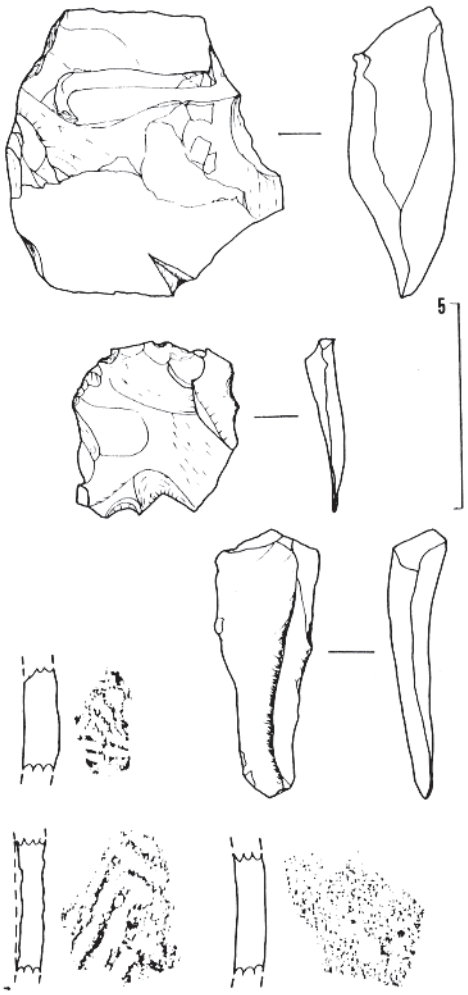
1　No.10
2　遺物包含地
3　黒水字岩野原 361-1～361-130
4　薬師山西方の山麓台地で加茂川右岸段丘上に当たる畑地。
6　縄文土器、石器（磨製石斧）
7　縄文時代中期
8　加茂市教育委員会
9　「加茂市史（上）」

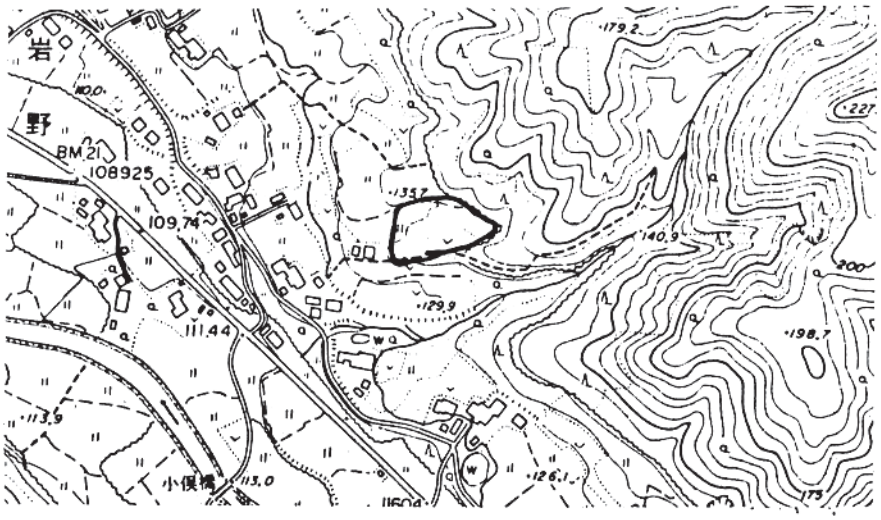




5　岩野新田Ａ遺跡

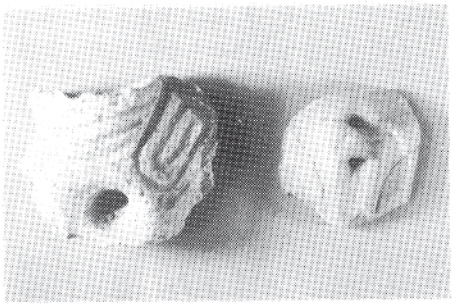
2　遺物包含地
3　宮寄上字長瀬1157-1,6,14,15、1091、1093-1,2
4　山麓台地上。畑。
5　東西90m、南北40m
6　縄文土器、石器（不定形スクレイパー、剥片）
7　縄文時代中期～後期
8　加茂市民俗資料館

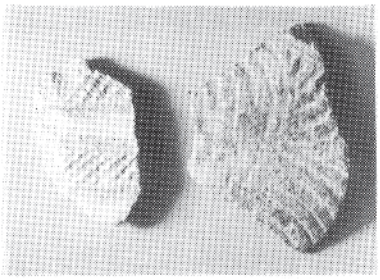


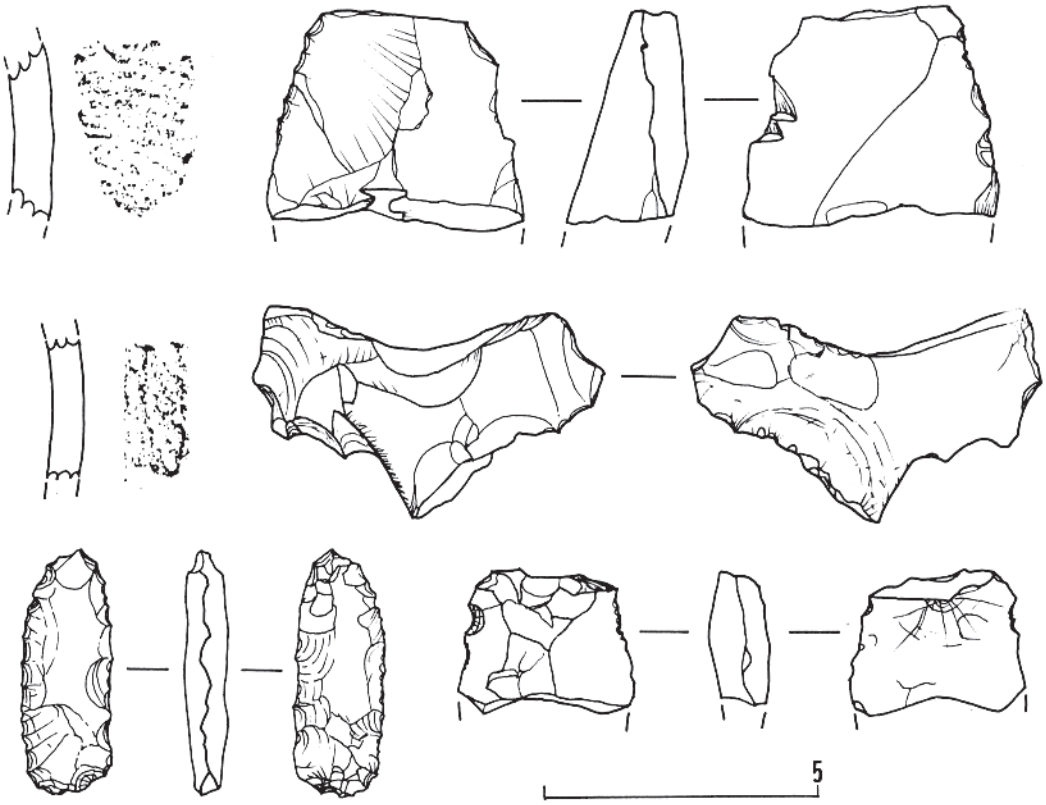


6　弥次郎遺跡

1　No.8
2　遺物包含地
3　宮寄上字長瀬1095
4　加茂川右岸の河岸段丘上。畑。
5　東西10m、南北20m程
6　縄文土器、石器（石鏃、スクレイパー、くぼみ石、剥片）
7　縄文時代中期～後期
8　加茂市民俗資料館
9　「加茂市史（上）」
10　別名“勇次郎遺跡”。位置図は次ページ参照。

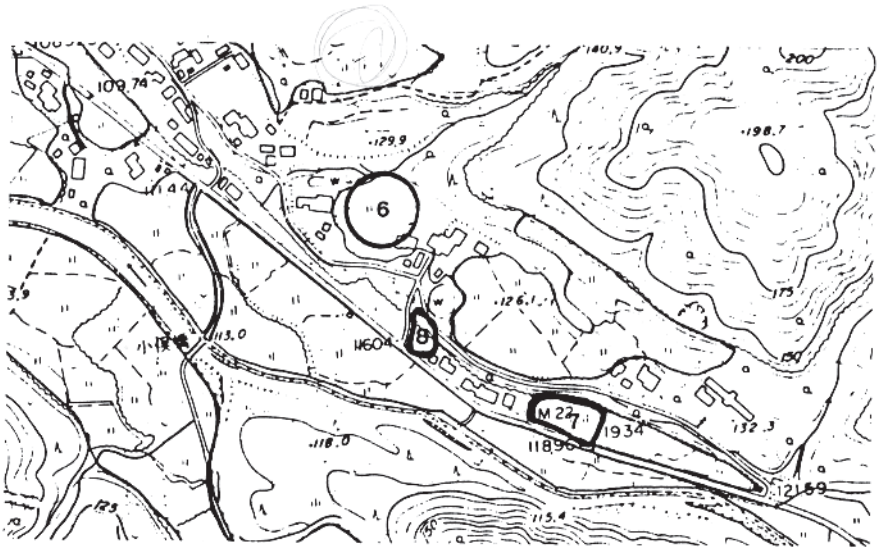






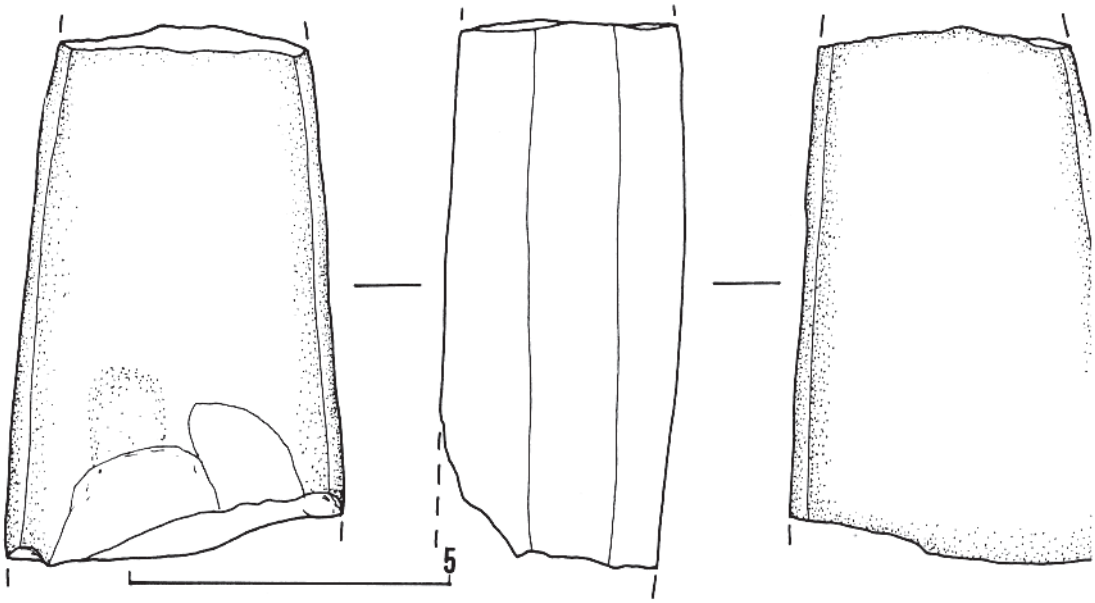
7　岩野新田Ｂ遺跡

2　遺物包含地
3　宮寄上字長瀬1157-1,6,14,15、1091、1093-1,2
4　加茂川右岸の河岸段丘上。畑。
5　南北30m、東西50m程
6　縄文土器
7　縄文時代
8　加茂市民俗資料館



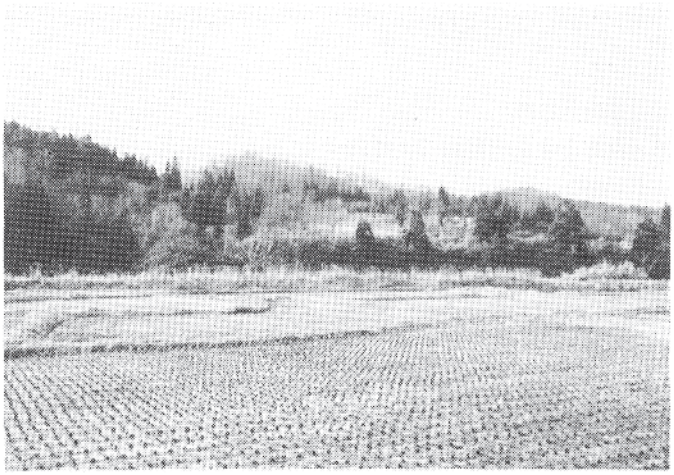
8　岩野遺跡

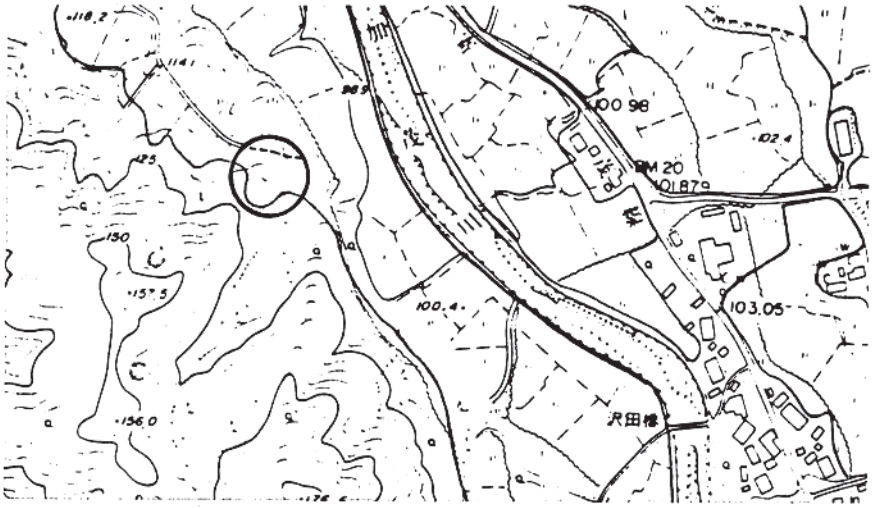
2　遺物包含地
3　宮寄上字岩野1122、1123-2
　　1093
4　加茂川右岸の河岸台地。畑及び宅地。
5　畑地は20×30m程である。
6　石器（磨製石斧）
7　縄文時代
8　加茂市民俗資料館
9　位置図は前ページ参照。



9　牛ヶ沢遺跡

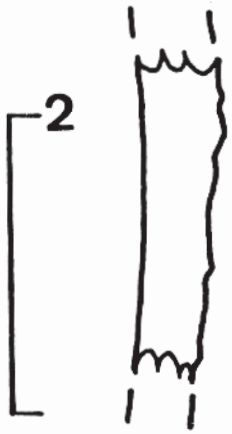
1　No.2
2　遺物包含地
3　宮寄上字牛ヶ沢1894～1898
4　加茂川左岸の山麓台地上。畑。
6　縄文土器
7　縄文時代
9　「加茂市史（上）」
10　戦後の山村開墾時点で土器を検出したというが、その所在が明らかでない。

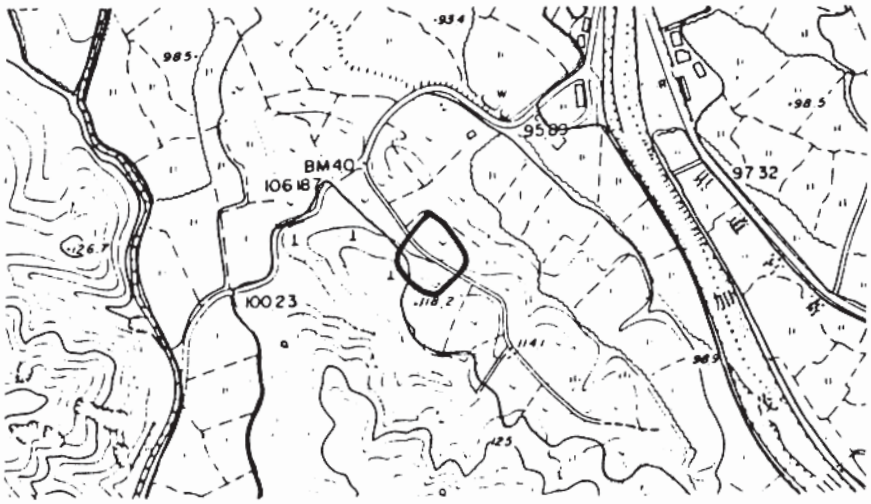




10　牛ヶ沢Ｂ遺跡

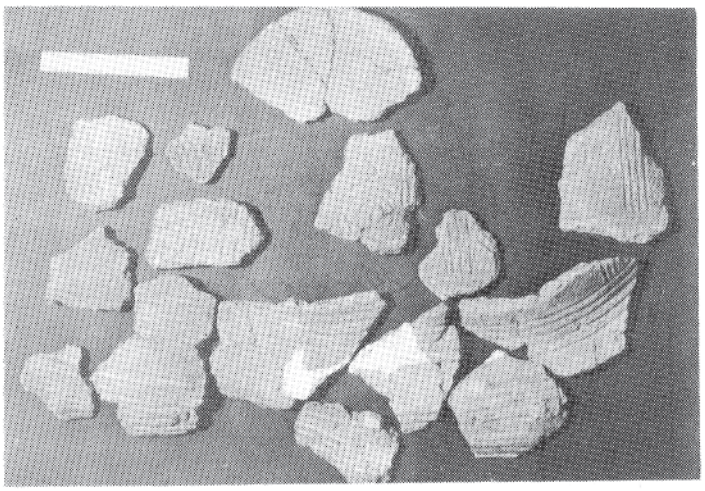
2　遺物包含地
3　宮寄上字広田1999-2、2568～2569
4　山麓台地の畑。
5　60m四方程と推定される。
6　縄文土器、剥片（フレーク）
7　縄文時代
8　加茂市民俗資料館

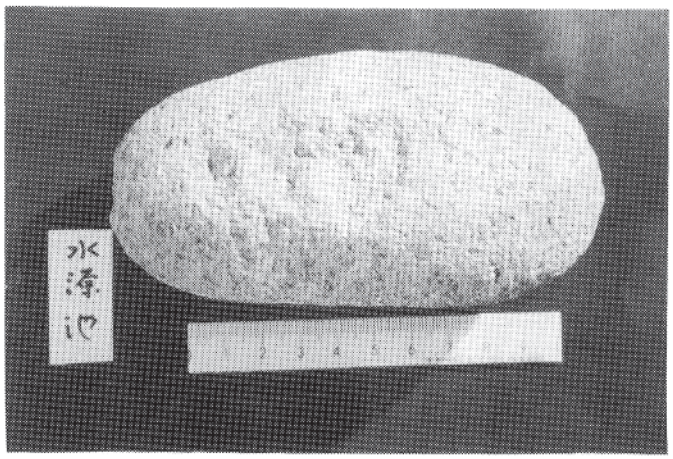


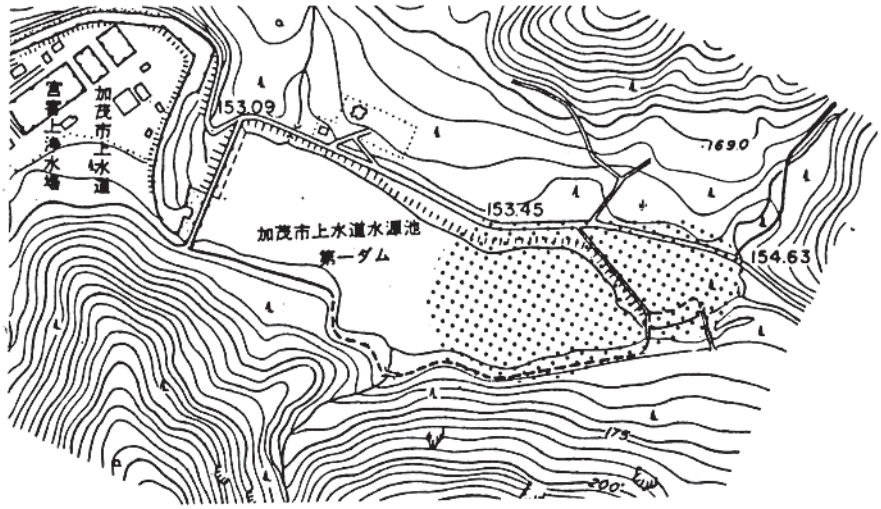


11　水源池遺跡

1　No.2
2　集落址
3　宮寄上字長瀬（田の畔）
4　山麓、河岸段丘。現況は大部分がダムの湖底となった。
5　範囲は 100× 300m程
6　縄文土器、石器（石斧、くぼみ石、石棒）、石組炉址
7　縄文時代中期
8　加茂市教育委員会
9　「加茂市史（上）」
　「ふるさと歴史散歩」
　「加茂市の文化財」
10　昭和30年 8月上水道水源としての貯水ダム建設中に発見し、一部が立会い記録された。

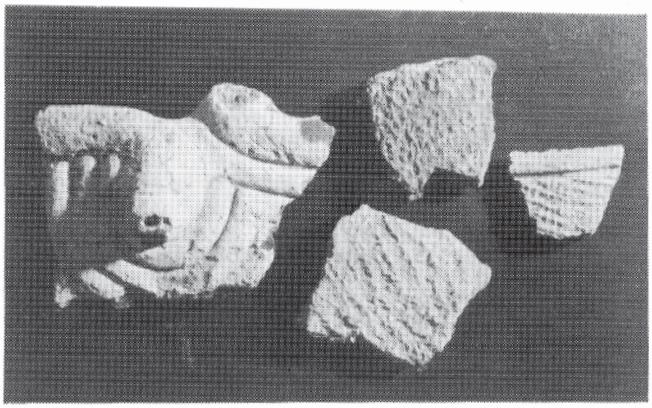


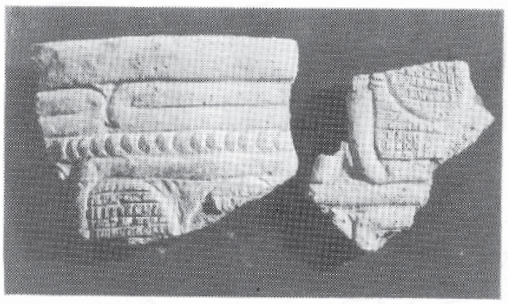


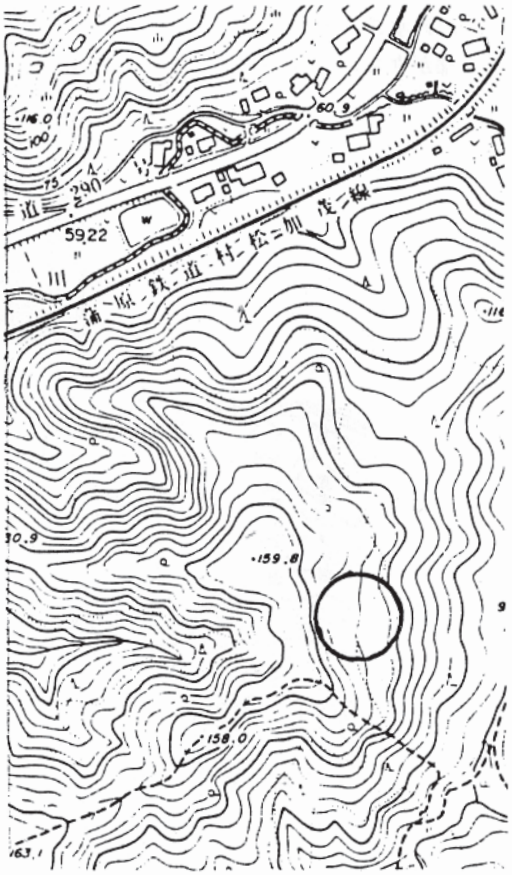


12　松ヶ沢遺跡

1　No.5
2　遺物包含地
3　長谷字鼻ノ下25-1
4　薬師山北側の山麓に近い緩斜面の台地。
6　縄文土器
7　縄文時代中期
8　加茂市教育委員会
9　「加茂市史（上）」
10　玉木金次郎氏が畑の耕作中に発見した。

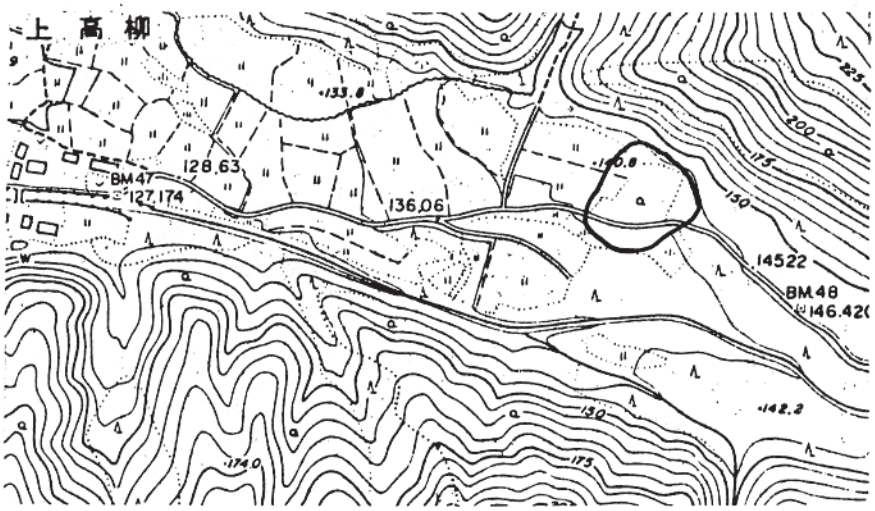






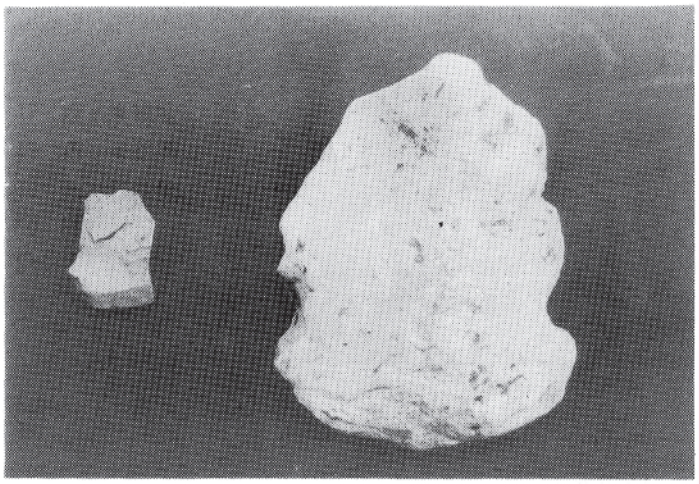
13　金平（カナビラ）遺跡

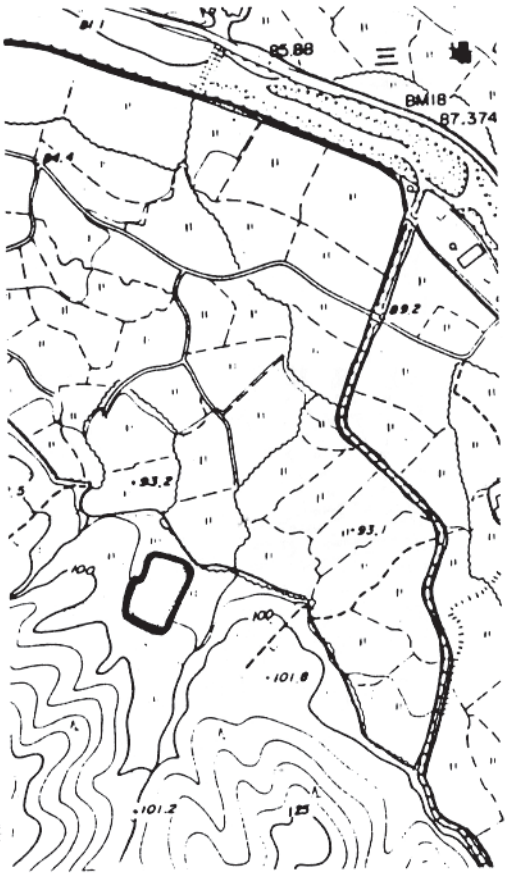
1　No.4
2　遺物包含地
3　上高柳字金平64　他
4　山麓末端の南向台地上の畑、水田、及び一部山林に広がると推定される。高柳川右岸の河岸段丘。
5　90m四方
6　縄文土器、石器（磔石斧、磔器、石皿、他）
7　縄文時代中期
8　加茂市民俗資料館
9　「加茂市史（上）」



14　広田Ａ遺跡

2　遺物包含地
3　宮寄上字広田2368～2399、2558～2563
4　山麓の北東向き舌状台地。
5　40×60m
6　フレーク
7　縄文時代
8　加茂市民俗資料館

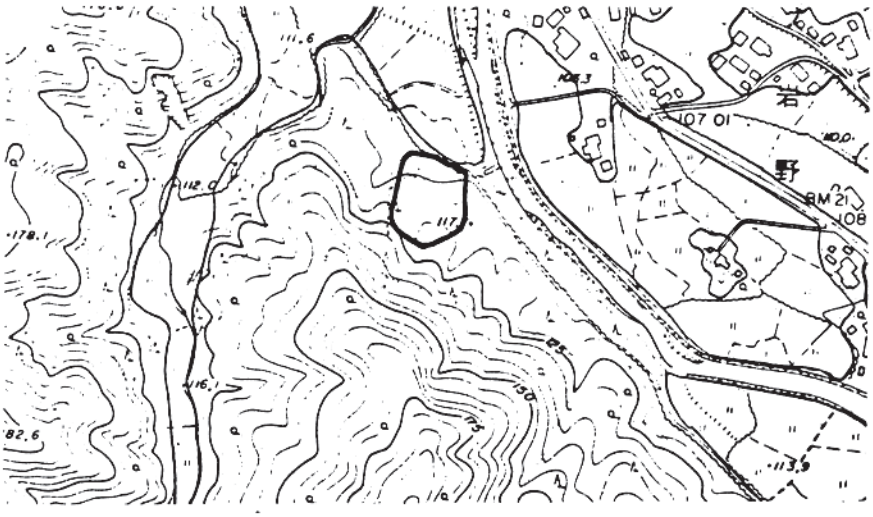




15　広田Ｂ遺跡

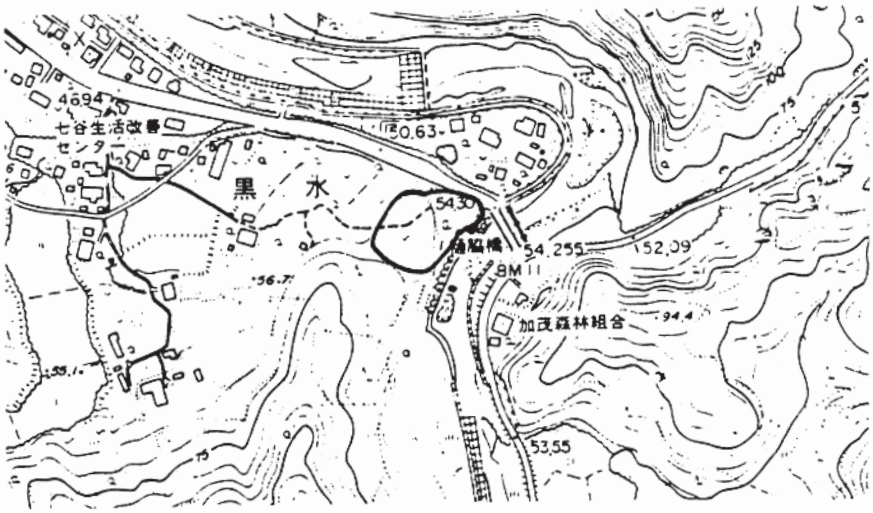
2　遺物包含地

3　宮寄上字広田2753～2757
4　加茂川左岸の河岸段丘。北向きの台地畑。
5　60ｍ四方程と考えられる。
6　縄文土器
7　縄文時代
8　加茂市民俗資料館
10　広田Ａ遺跡とはかけはなれた位置にある。



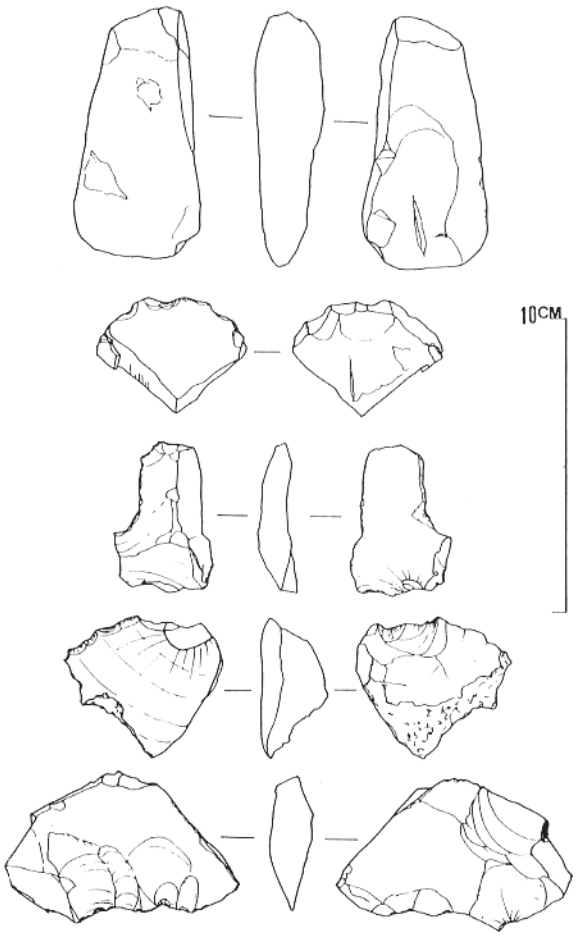
16　七谷忠魂碑遺跡

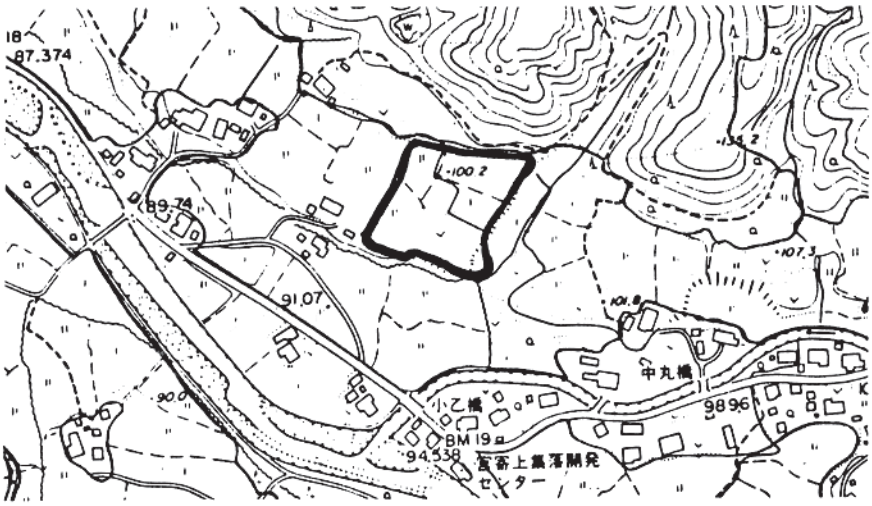
1　No.11
2　祭祀遺跡　他
3　黒水字丸山756-1 他
4　加茂川左岸の河岸段丘上。公園及び畑地。
5　70×　100m　配石土坑、集石遺構　他
6　縄文土器、石器（石鏃、石斧、環状石斧、石篦、礫器、くぼみ石、面取石、他）
7　縄文時代中期～後期
8　加茂市教育委員会　波塚健太郎氏
9　「七谷忠魂碑遺跡」
　「加茂市史（上）」
10　昭和60年、国道改良工事に伴い一部の緊急発掘調査がおこなわれた。



17　三場Ａ遺跡

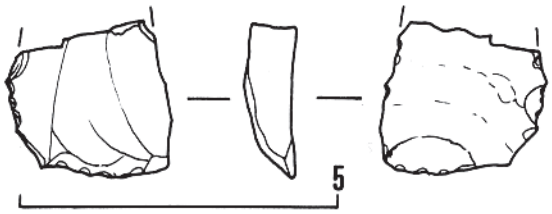
2　遺物包含地
3　宮寄上字三場 188～191-子、174 、175-1 、67-3、及び南側隣接地
4　加茂川右岸の段丘上。南向きの畑、水田。
5　約90ｍ四方
6　石器（礫石斧、不定形スクレイパー、フレーク）
7　縄文時代
8　加茂市民俗資料館

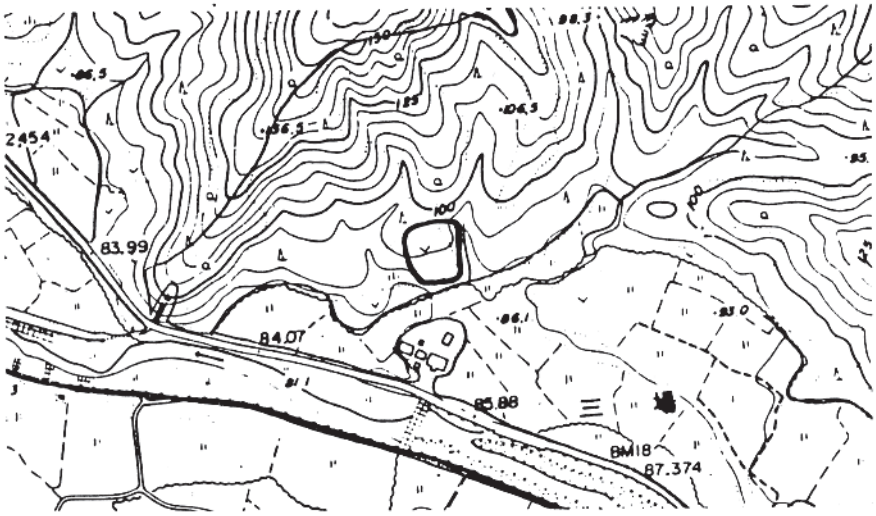




18　三場Ｂ遺跡

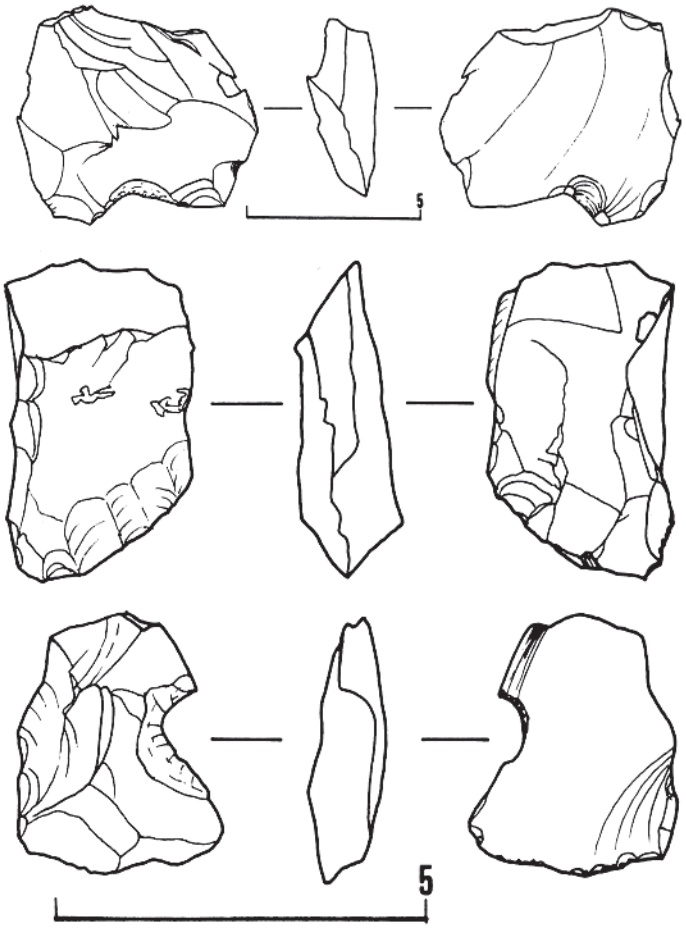
2　遺物包含地
3　宮寄上字三場71、72、2535～2539
4　山麓台地、南向きの緩斜面。現況は畑、山林。
5　20×70m程と推定される。
6　石器（スクレイパー、フレーク）
7　縄文時代
8　加茂市民俗資料館

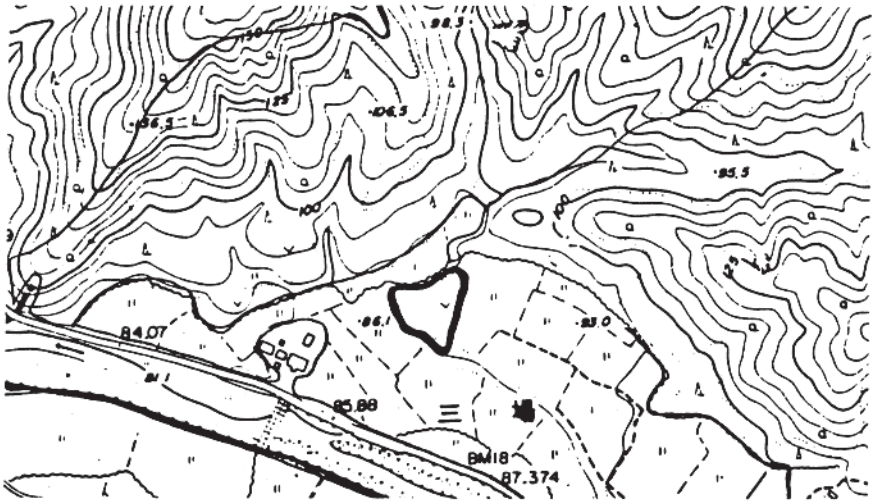




19　三場Ｃ遺跡

2　遺物包含地
3　宮寄上字三場70、90、91-1
4　加茂川右岸の河岸台地。南西に張り出した南向きの緩斜面の畑地。
5　50×50m程と思われるが、なおも東側に広がる可能性あり。
6　石器（スクレイパー、フレーク）
7　縄文時代
8　加茂市民俗資料館





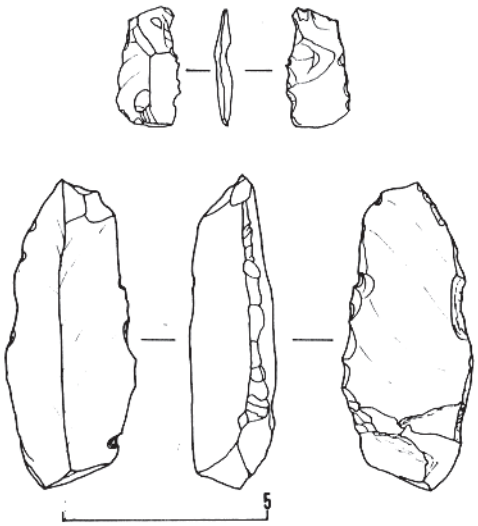
20　岩野原Ｃ遺跡

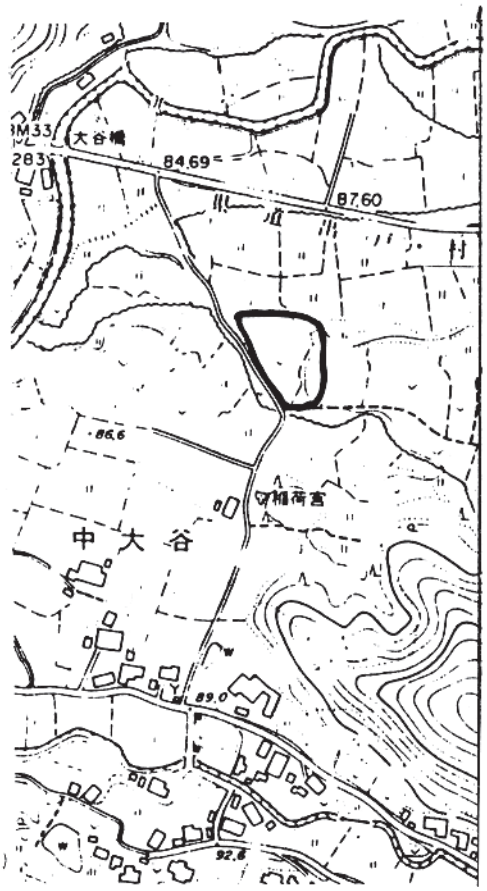
2　遺物包含地
3　黒水字岩野 233-2、 236-2、237-1,2 、238-1,2 、239 、239-2 、240-1 、241-1,2 、242
4　加茂川右岸の段丘上。いわゆる岩野原台地の麓に当たる宅地内。
5　不確実だが60×80m程が考えられる。
6　縄文土器、石器（石鏃、スクレイパー、くぼみ石、面取石、他）
7　縄文時代後期～晩期
8　加茂市教育委員会
10　採土工事により周辺の各地に客土され、あちこちに遺物が分散している。現在でも多量の遺物が散在している。

10CM

21　田中屋敷遺跡

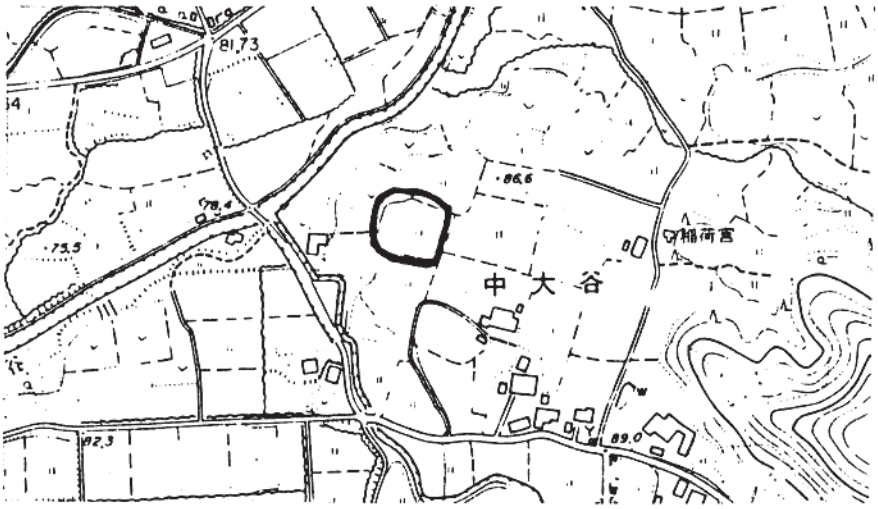
2　遺物包含地
3　上大谷字鳥越 370-1～376
4　山麓に続く丘陵上。畑地。
5　100× 200m
6　スクレイパー、フレーク
7　縄文時代
8　加茂市民俗資料館





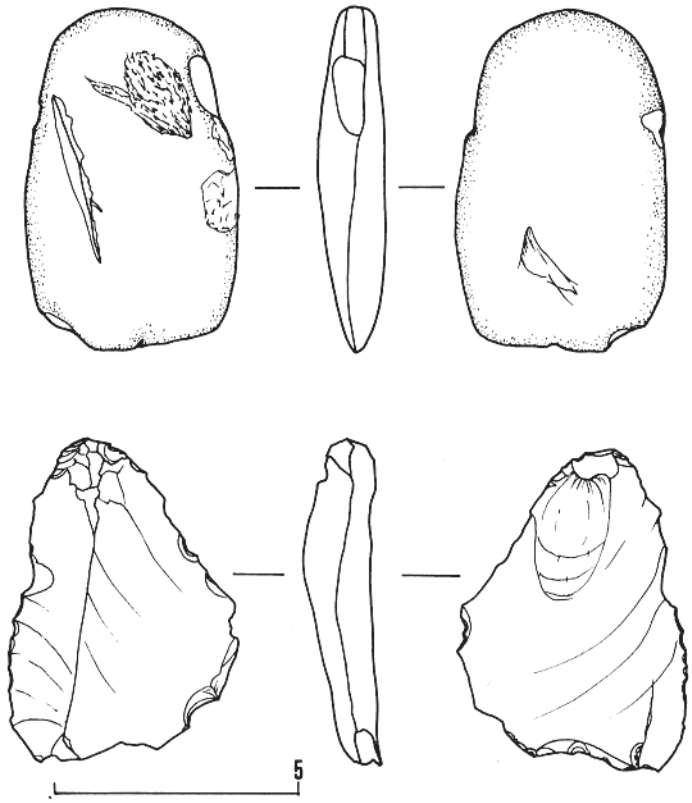
22　蚊口太遺跡

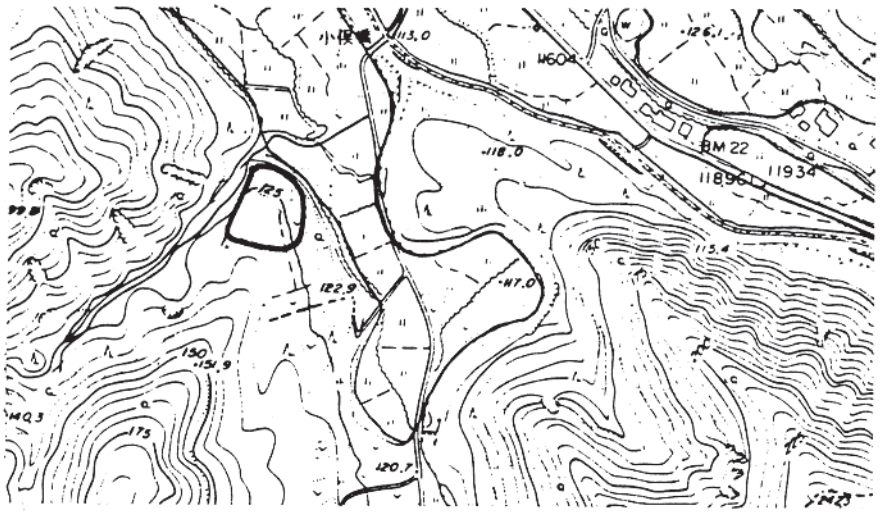
2　遺物包含地
3　中大谷字升沢 339～345
　　〃　字蚊口太 329～337
4　山麓に続く丘陵端。畑地。
5　不確実だが60m四方程と考える。
6　縄文土器
7　縄文時代
8　加茂市教育委員会
10　田中屋敷遺跡の南西 250m。



23　刈干場遺跡

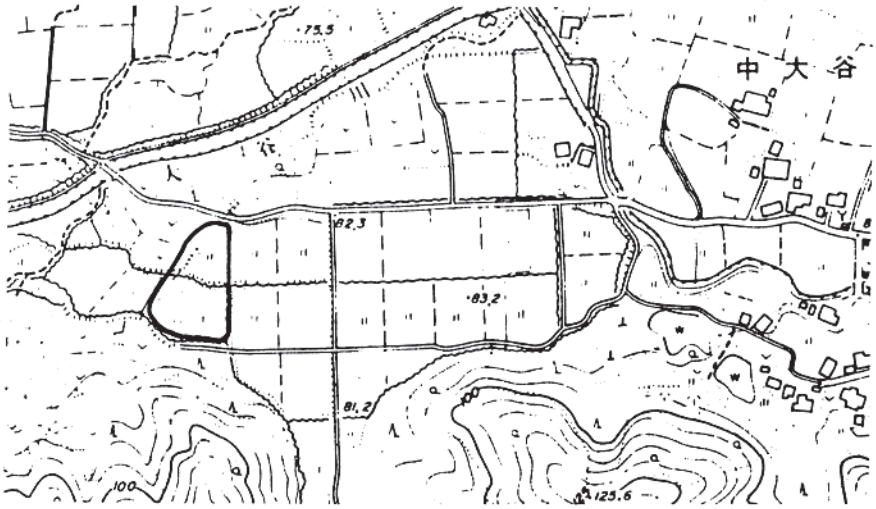
2　遺物包含地
3　宮寄上字小俣2597～2604
　　2707～2718
4　山麓台地、北向きの舌状台地の端部。現況は山林。
5　50×60m
6　石器（磨製石斧、礫石斧、スクレイパー、フレーク）
7　縄文時代
8　加茂市民俗資料館





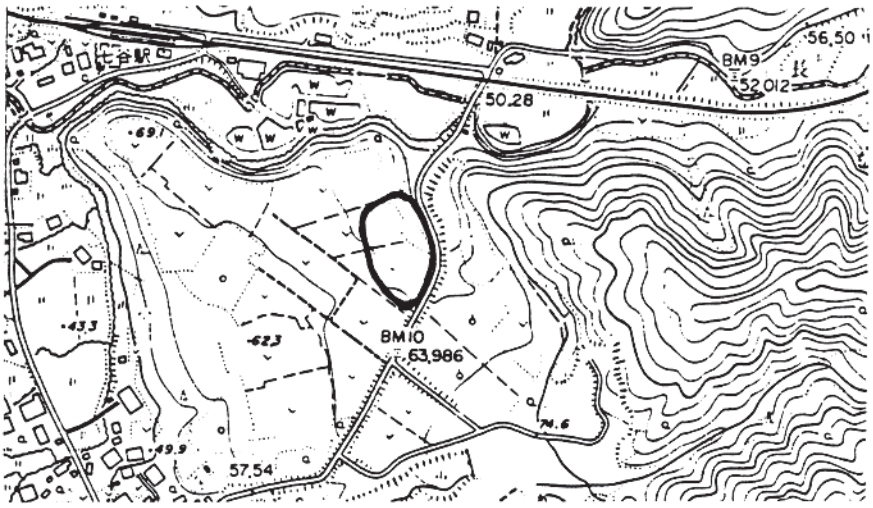
24　草生津遺跡

2　遺物包含地
3　中大谷字草生津 436～438
4　大谷川左岸の段丘上。畑。
5　約30×40m
6　フレーク
7　縄文時代
8　加茂市教育委員会
10　近世石造物１基あり。



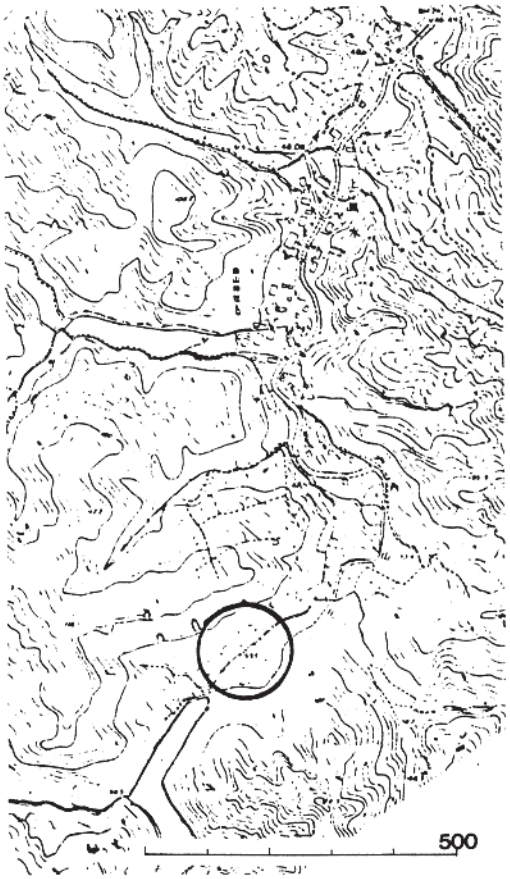
25　岩野原Ｄ遺跡

2　遺物包含地
3　黒水字岩野 306-1～310
4　山麓台地。いわゆる岩野原台
　地の北側平坦地。現況は畑。
5　約50×90m
6　石器（くぼみ石）
7　縄文時代
8　加茂市民俗資料館



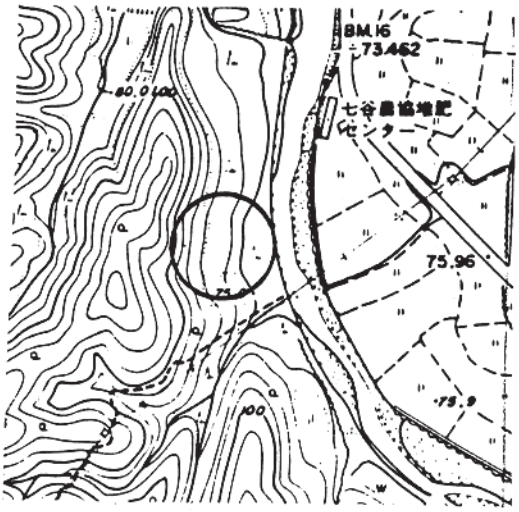
26　上黒水遺跡

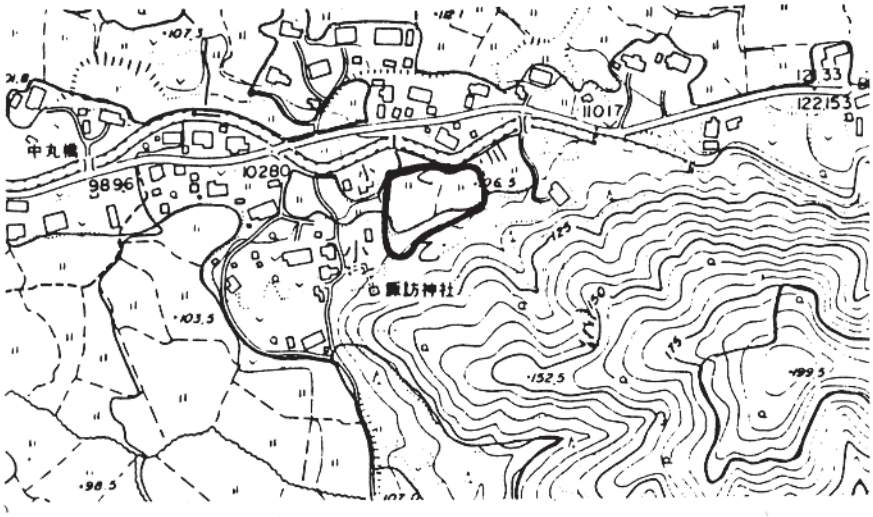
2　遺物包含地
3　上黒水字沢通1622
4　西山川左岸の河岸段丘上。畑。
6　石器（礫器、くぼみ石、他）
7　縄文時代
10　現在では明確な地点が把握できない。



27　川向遺跡

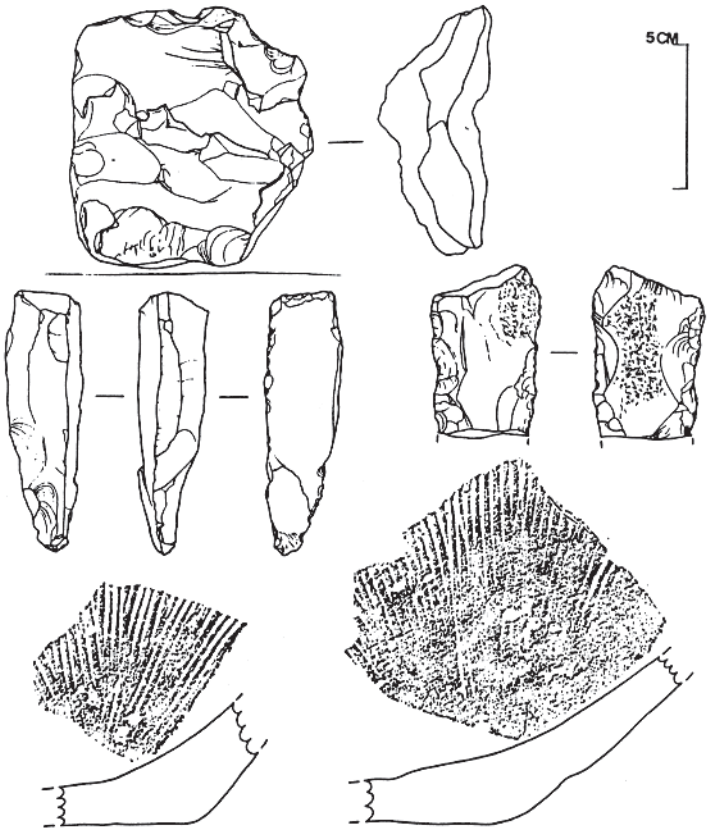
1　No.12
2　遺物包含地
3　下高柳字川向 844
4　加茂川左岸の河岸段丘上。山林。
5　不詳
6　縄文土器
7　縄文時代後期
9　「新潟県史蹟名勝天然記念物調査報告書第七集」
「加茂市史（上）」

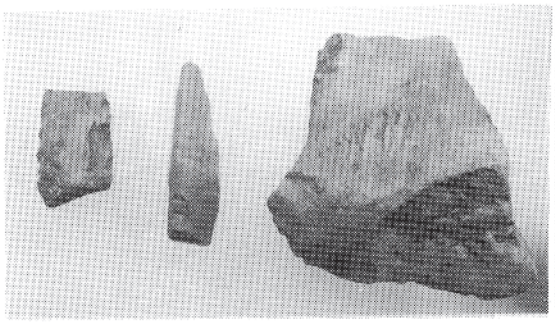


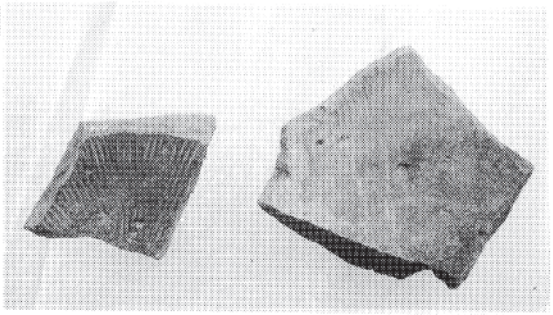


28　諏訪神社前遺跡

2　遺物包含地
3　宮寄上字小乙 414-2、 420-甲子、421 ～422 、422-子、424-1 ～3 、425 、426-1 、427 ～429 、298
4　小乙川左岸の台地。現況は水田、池泉。
5　南北60m、東西80mほど。
6　石器（石箆、礫器、石皿、フレーク）、須恵器系中世陶器（擂鉢）
7　縄文時代、室町時代
8　加茂市民俗資料館
10　縄文時代と中世の複合遺跡。隣接して宝生院址あり。その関連遺物か。

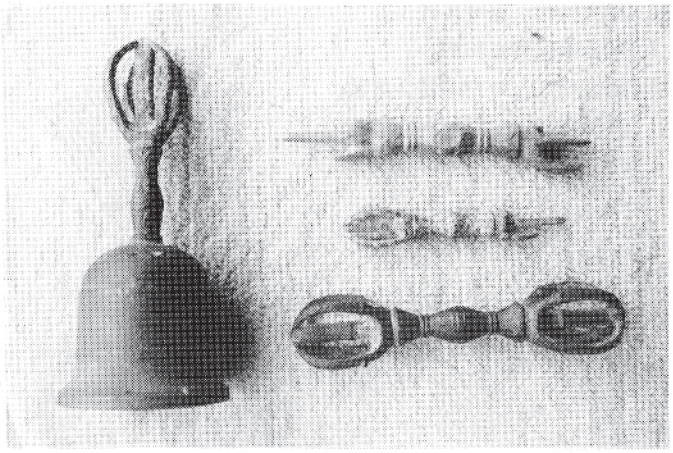


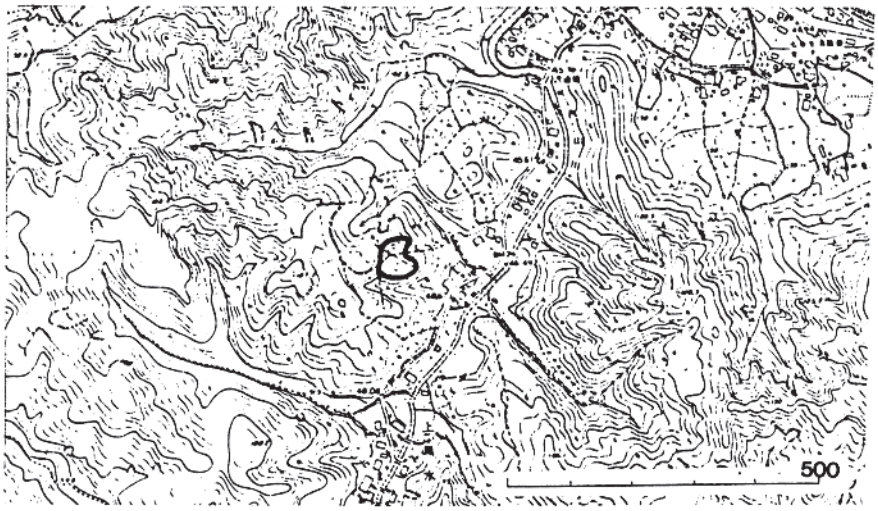




29　賢聖寺跡

2　寺院址
3　黒水字沢田2309～2315
4　上黒水背後の尾根上。南へ張り出した舌状台地。
5　東西15m×南北42mの台地を中心にして周辺の台地に広がるものと考えられる。
6　五鈷鈴１、五鈷杵２、三鈷杵（木製）１、六器４、花瓶１、木片１、陶製壷（容器）
7　室町時代
8　鶴巻肇氏
9　「加茂市史（下）」
10　出土した密教法具の容器は15世紀以降の所産であるが法具は13世紀、14世紀の各時代のものであろう。通称“寺山”。



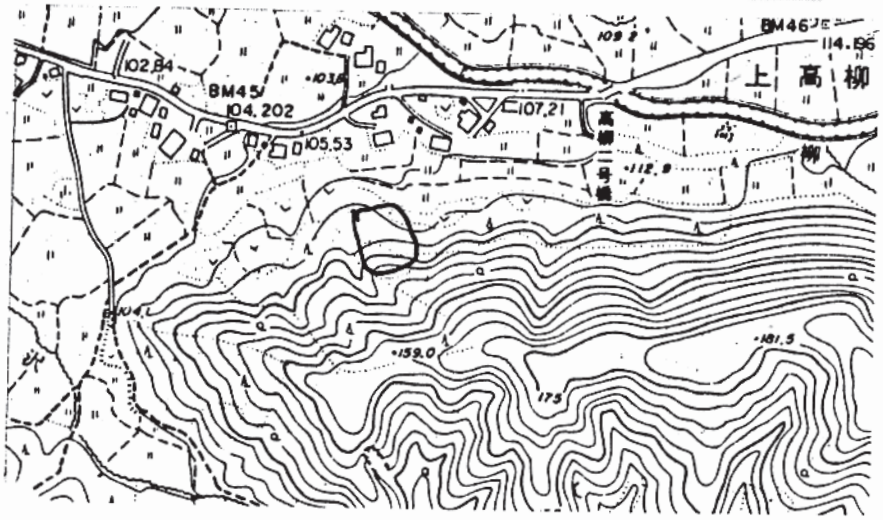


30　寺屋敷跡

2　寺院址
3　中大谷字飯山 442～444
4　西向きの山麓。現況は墓地、山林。
5　30×40mの平坦地
6　真言宗東龍寺跡といわれている。現在背後の斜面は旧墓地となり、村の半数程の古い墓塔がある。

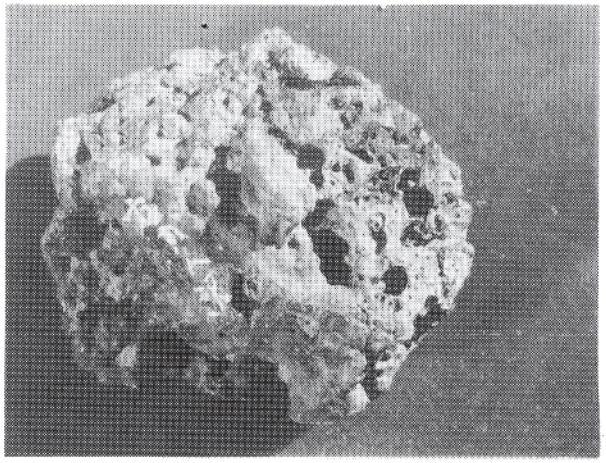
31　善興寺跡

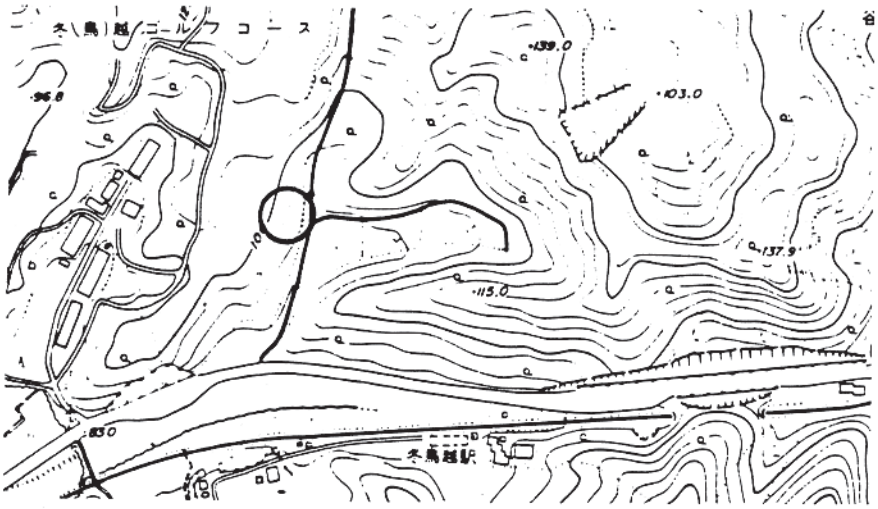
2　寺院址
3　上高柳字明毛 513～517
4　北向きの山麓。現況は畑。
5　40×50m程
6　槍、陶磁器（皿）
7　室町時代後半
9　「加茂市史（下）」
10　現在下高柳の高柳山善興寺跡
　　といわれている。



32　なかん沢遺跡

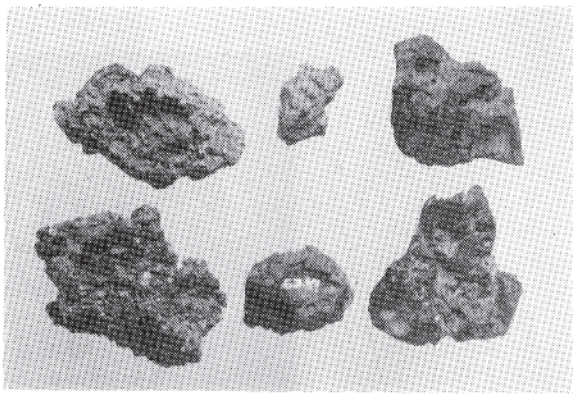
1　No.２９
2　製鉄遺跡
3　下土倉字中の沢 601-1
4　山麓に近い浅い谷間。
6　鉱滓
8　加茂市教育委員会
9　「ふるさと歴史散歩」
10　鋳物場跡といわれていたが、
　　現在開発等のため湮滅したと
　　思われ確認できない。

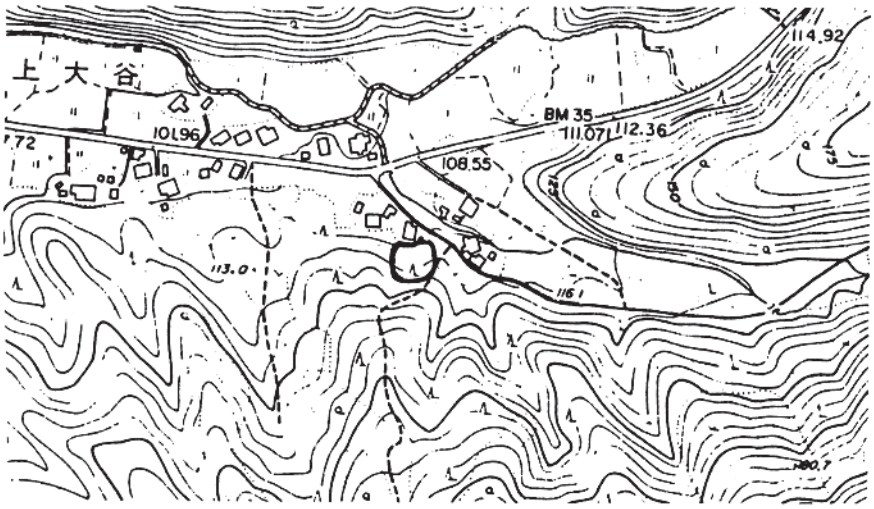




33　石五郎屋敷遺跡

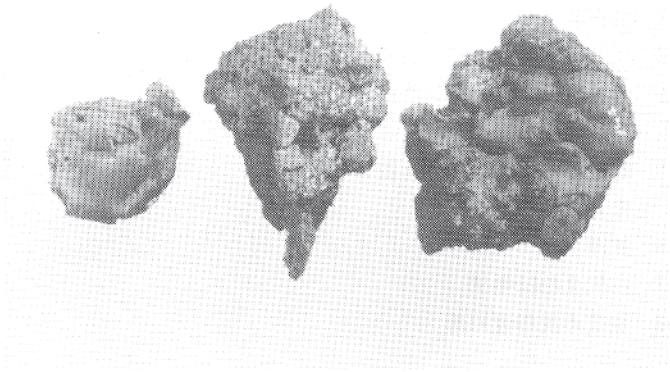
2　製鉄遺跡
3　上大谷字真木ノ入 271
4　大谷川左岸の山麓台地。北向きの緩斜面。現状は畑。
5　約20×20m
6　鉱滓、炉壁
7　古代または中世
8　加茂市民俗資料館
10　一次製鉄址と考えられよう。

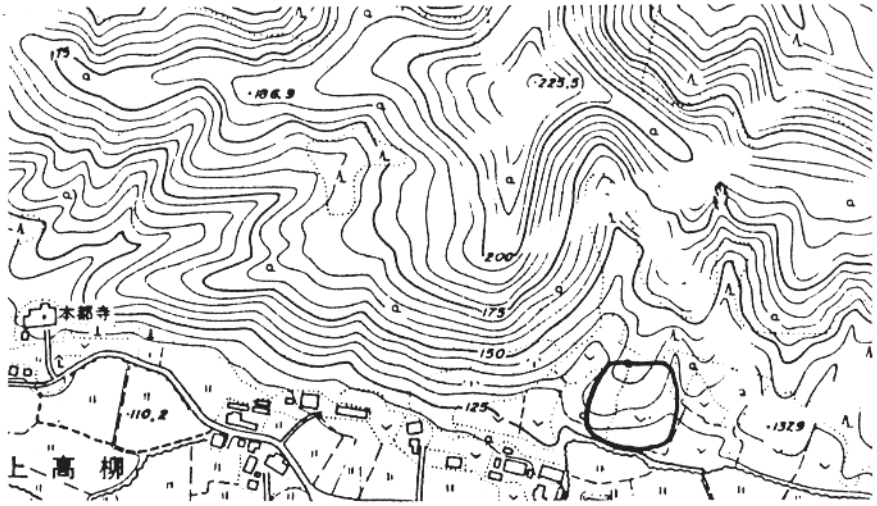




34　御所平遺跡

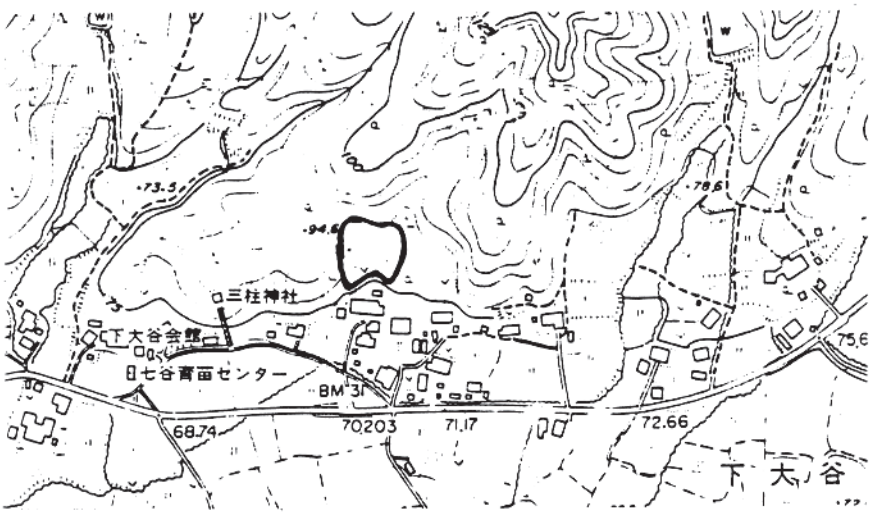
2　製鉄遺跡
3　上高柳字御所平1051～1064
4　高柳城址（山城）山麓の南向き舌状台地。現況は畑。
5　60m四方ほどに遺物が散在している。
6　鉱滓
7　古代または中世
8　加茂市民俗資料館
10　山城や居館址と当遺跡を関連づける資料はない。一次製鉄址であろう。





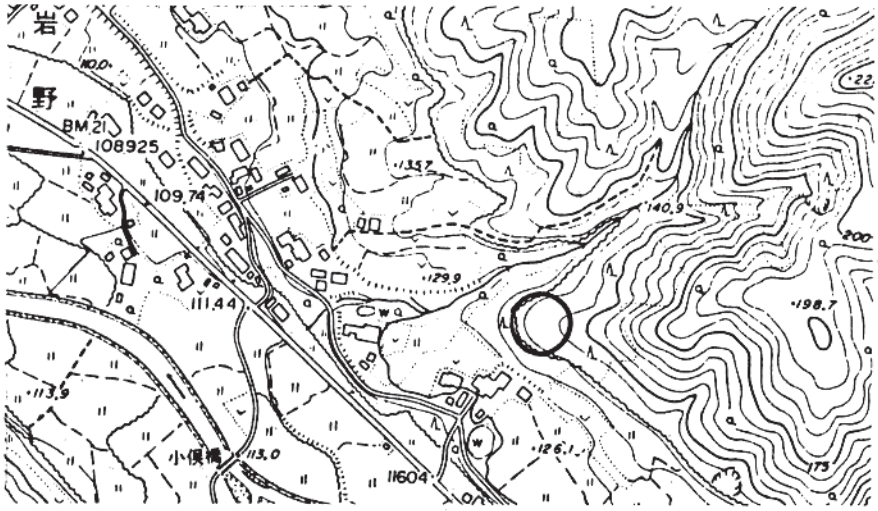
35　たて屋敷遺跡

2　製鉄遺跡
3　下大谷字岩野 593-1～594-1
4　大谷川右岸の山麓。南西へ延びる尾根の側面。現況は山林。
5　地形等の推測から40m四方と考えられる。
6　鉱滓
7　古代または中世
8　加茂市民俗資料館



36　岩野古銭出土地

1　№３１
2　古銭出土地
3　宮寄上字長瀬1086-1～2
4　加茂川右岸の段丘上。現況は宅地。
6　唐銭～明銭（開元通宝～永楽通宝、宜徳通宝）約17kg
7　室町時代
8　小柳利之氏
9　「加茂市史（上）」

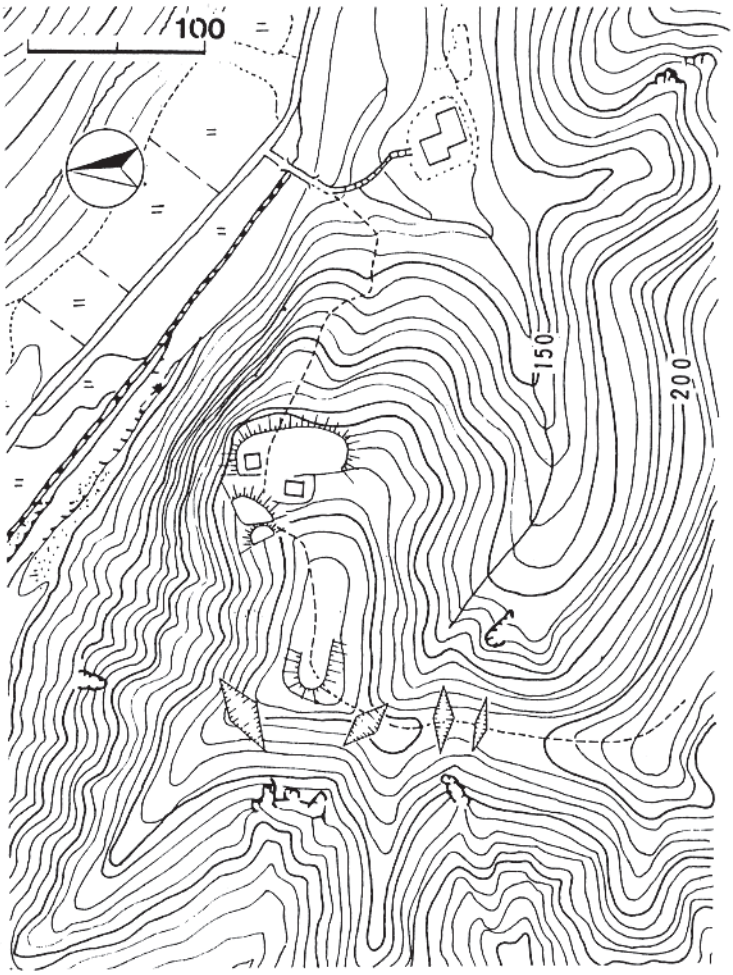


城　館　址

37	岳山城址	42	木戸口塁柵	47	西ヶ峯城址
38	薬師山城址	43	高柳城址	48	西ヶ峯塁柵
39	石高山城址	44	下大谷城址	49	西ヶ峯砦址
40	石山城址	45	上土倉城址	50	陣場跡
41	出戸塁柵	46	西山城址	51	下屋敷館址

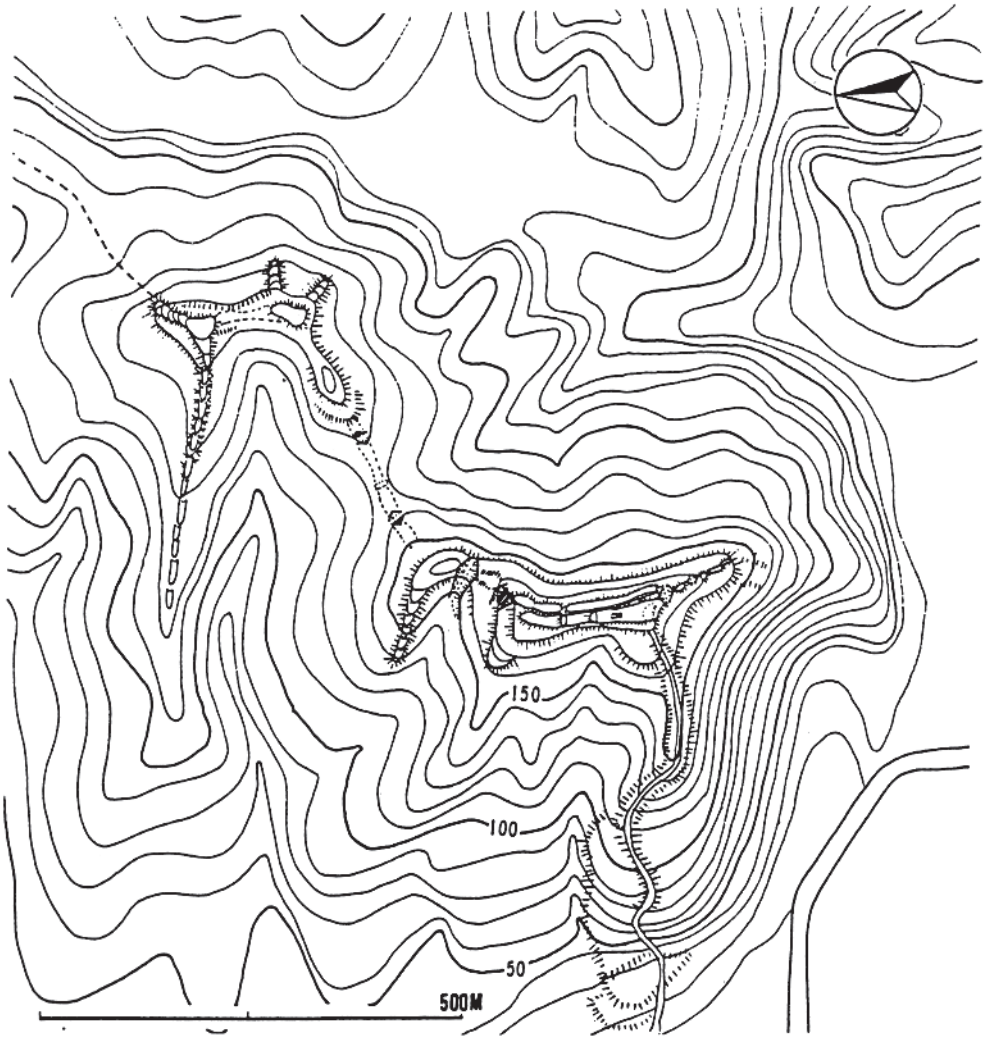
37　岳山城址

1　No.２５
2　山城
3　宮寄上字長瀬1555
4　加茂川最上流左岸の険しい山陵。
6　空堀４条、主郭、腰郭あり。
7　中世
9　「加茂市史（下）」
　「ふるさと歴史散歩」
　「加茂市の文化財」
10　西側は長瀬神社の削平によって原形をとどめない。新田義宗がたてこもり越後北辺の敵に対した所といわれている。



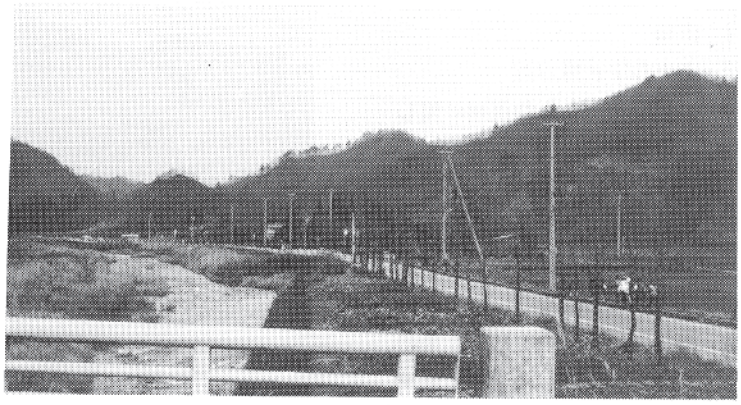
38　薬師山城址

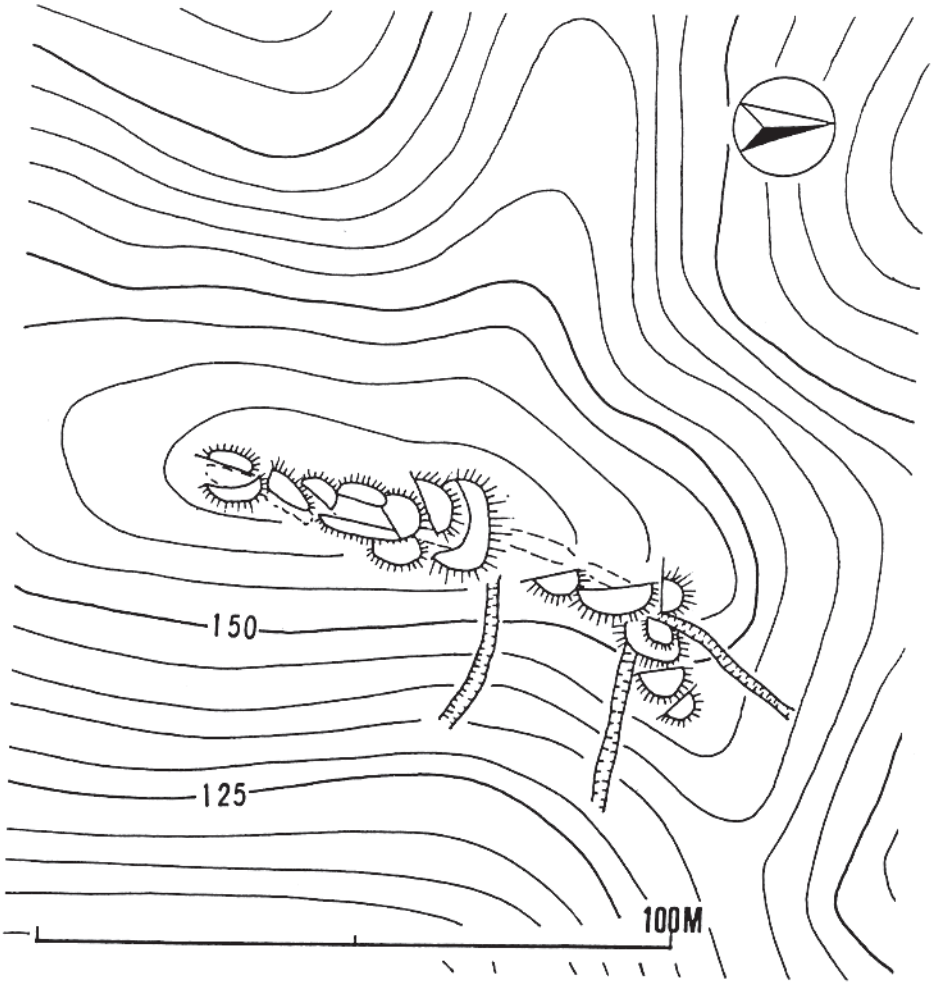
1　No.２８
2　山城
3　黒水字岩野 349
4　加茂川右岸に聳え立つ山頂。
5　二重式空堀を含めて６条。郭は大小２箇所に別れ、北方に主郭を要する。
7　中世
9　「加茂市史（下）」
10　黒水城、虚空蔵山城の別名あり。佐々木盛綱の一族長谷修理の居城という。



39　石高山城址

1　No.２７
2　山城
3　下大谷字虫谷 674
4　標高 168mの山頂にあり、深い沢道（旧街道）を隔てて南側の石山城址と相対する。
5　狭い山陵に16の郭と３条の縦堀を見る。
7　中世
9　「加茂市史（下）」
10　山麓より渡金銅製品（火舎香炉）が出土。南側中腹に出戸塁柵あり。





40　石山城址

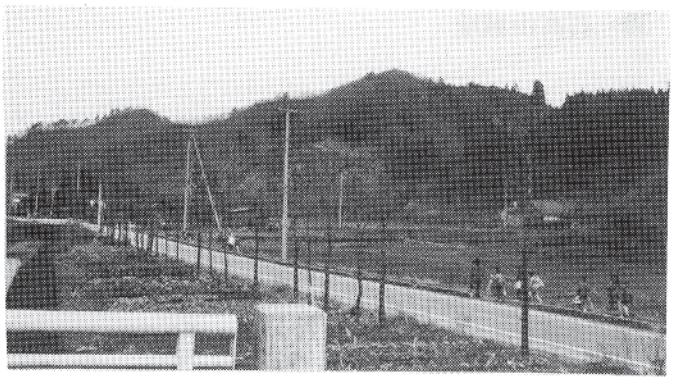
2　山城

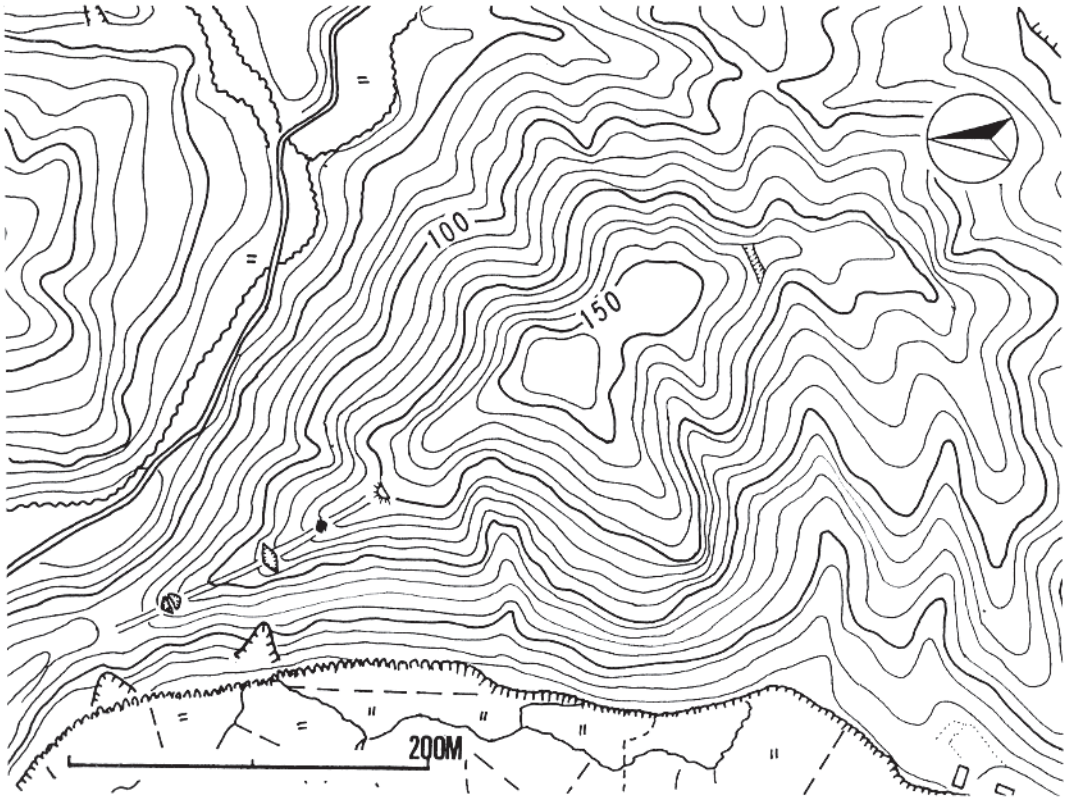
3　下大谷字岩野 777

4　出戸口北側から加茂川に面して延びる狭い山陵。北に旧土倉道、南に大谷口、西に加茂街道を見おろす。北側対岸に石高山城、南側対岸に木戸口塁柵と相対する。

5　北西尾根に３条、南に１条の大規模な空堀と小郭１を有するが、主郭と思われる山頂は人工を加えない。

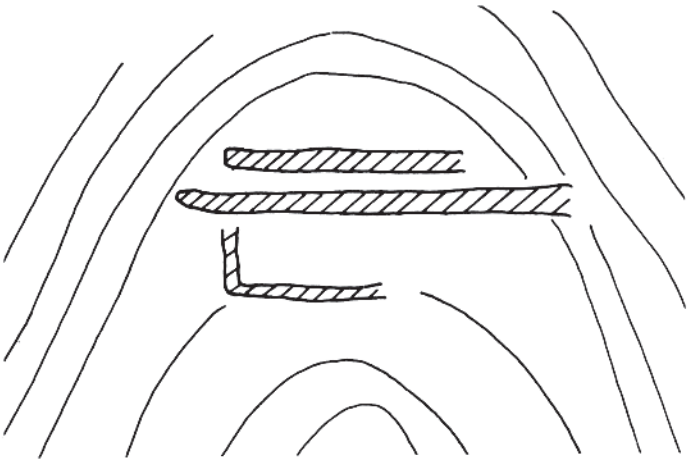
7　中世





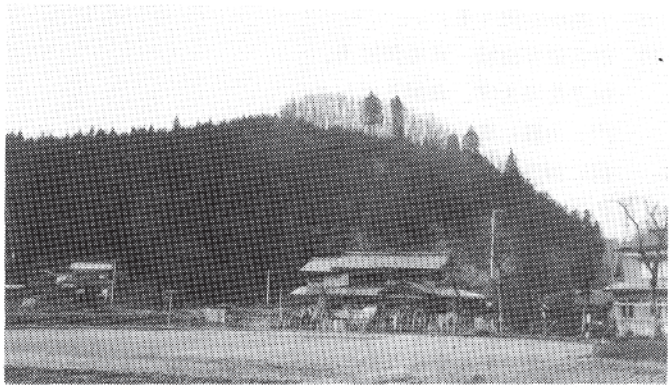
41　出戸塁柵

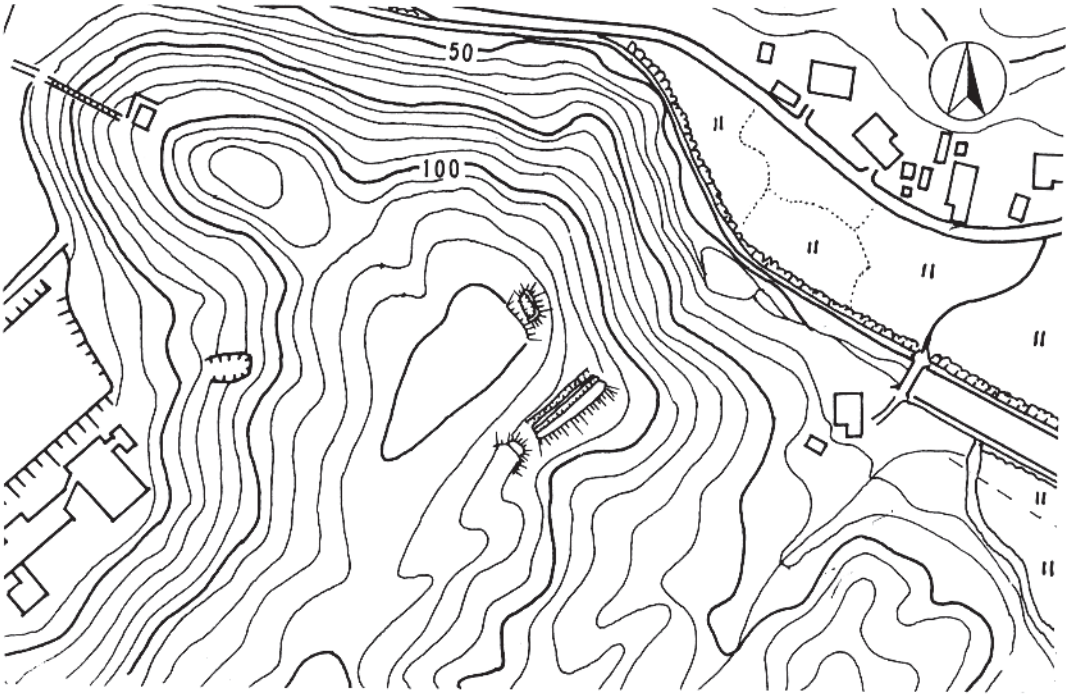
2　要害
3　下大谷字虫谷 677
4　石高山城址南側の中腹斜面。
　背後は急斜面となる。
5　小沢の頂部に３条の石積の塁
　柵。96m、28m、15mを計る。
7　中世
10　石高山城に関連するものか、
　別個の要害か？



42　木戸口塁柵

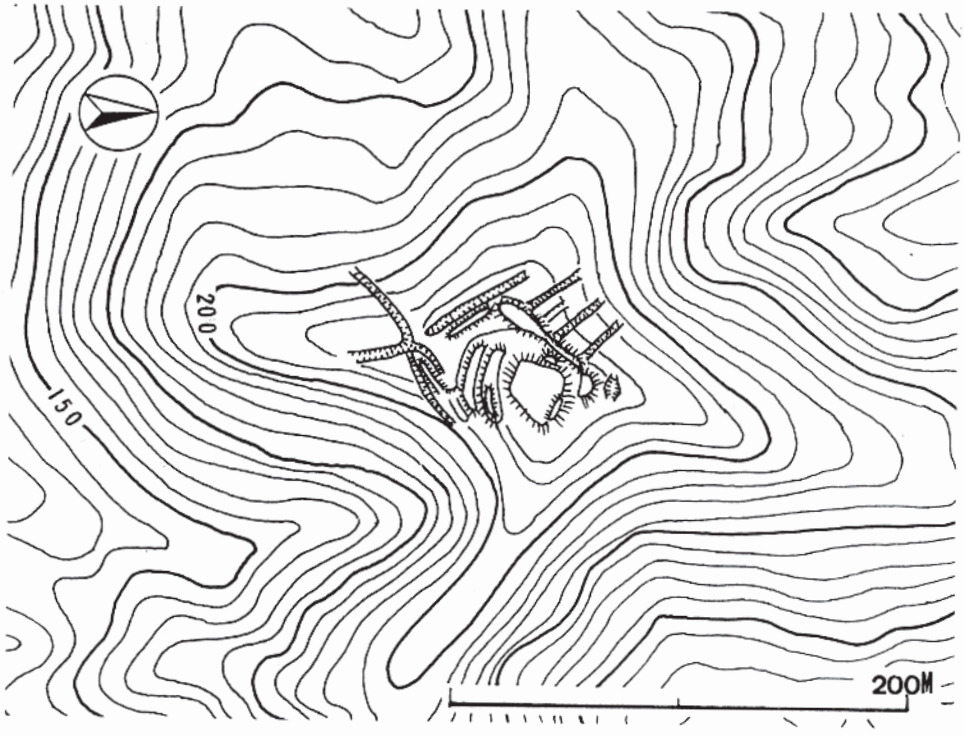
2　要害
3　下大谷字菅ノ谷地
4　出戸口南側の山頂直下にある。
　北側に石山城址と相対する。
5　南北53mの２段の土塁を要し
　て 306㎡の窪地をつくり、北
　側には小土塁を有する方形の
　竪穴状遺構がある。
7　中世
10　村要害的なものと考えられる。





43　高柳城址

1　No.２６
2　山城
3　上高柳字要害1012　他
4　標高 225ｍの山頂から山腹にかけて遺構が見られる。
5　最長 104ｍを測る空堀を主とし、６条の縦堀、 273㎡の主郭を始め13郭を有し各所に土塁を見る。その他土橋、穴を見る。
7　中世
9　「加茂市史（下）」
10　別名要害山城、通称御殿山、城主北川大学、森岡五郎左エ門。山腹に御前清水あり。山麓に御所平、下屋敷、番馬田の地名あり。



44　下大谷城址

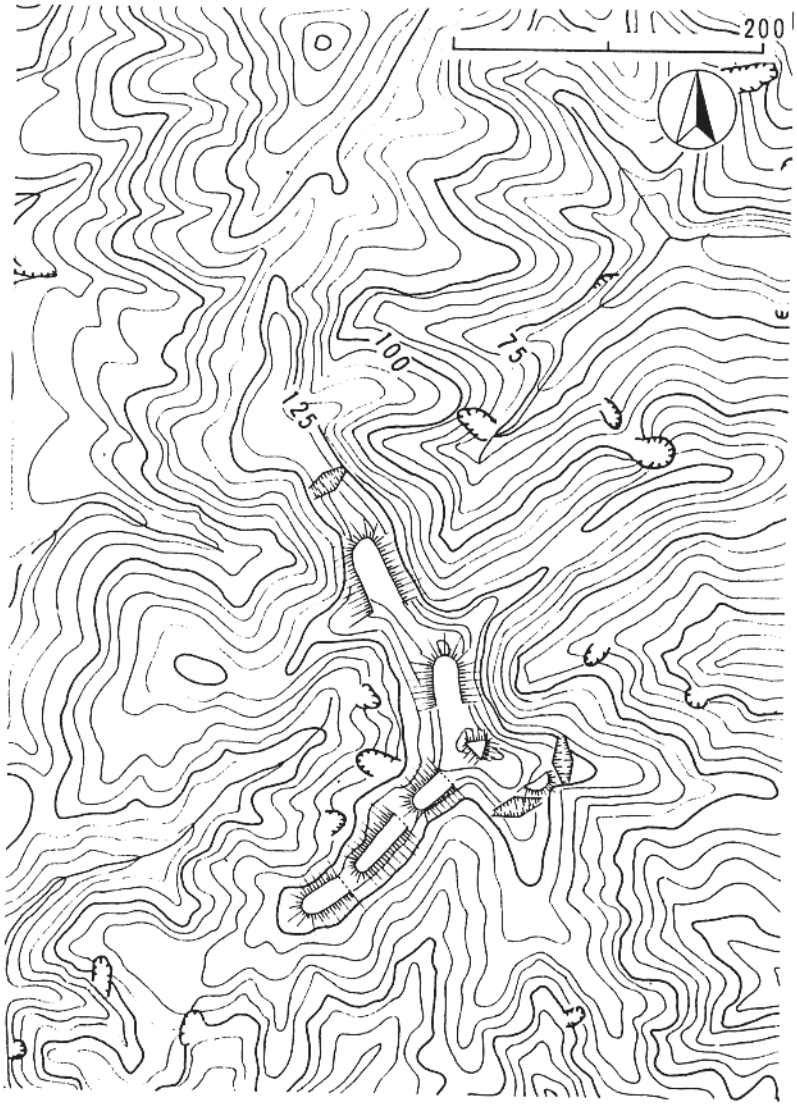
2　山城

3　上黒水1080-1、1081、1074、1076　他、下大谷字住岡1111-1、1112、1113、下高柳字川向（または諏訪の沢）968-1　他

4　加茂川左岸の標高 147mの険しい山頂から山陵、西側眼下に西山街道を望む。

5　空堀３条、主郭を含め７郭。

7　中世



45　上土倉城址

2　山城

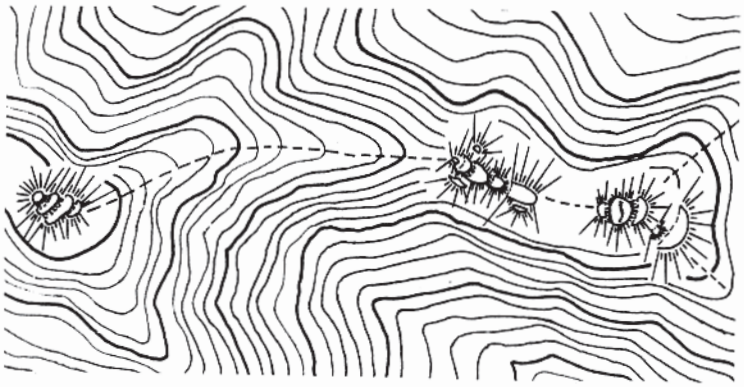
3　上土倉字入山33、51-1、53、65、上土倉字上山 220-1、221 222-2 、下土倉字イハンカ沢 53、54、61、63、64

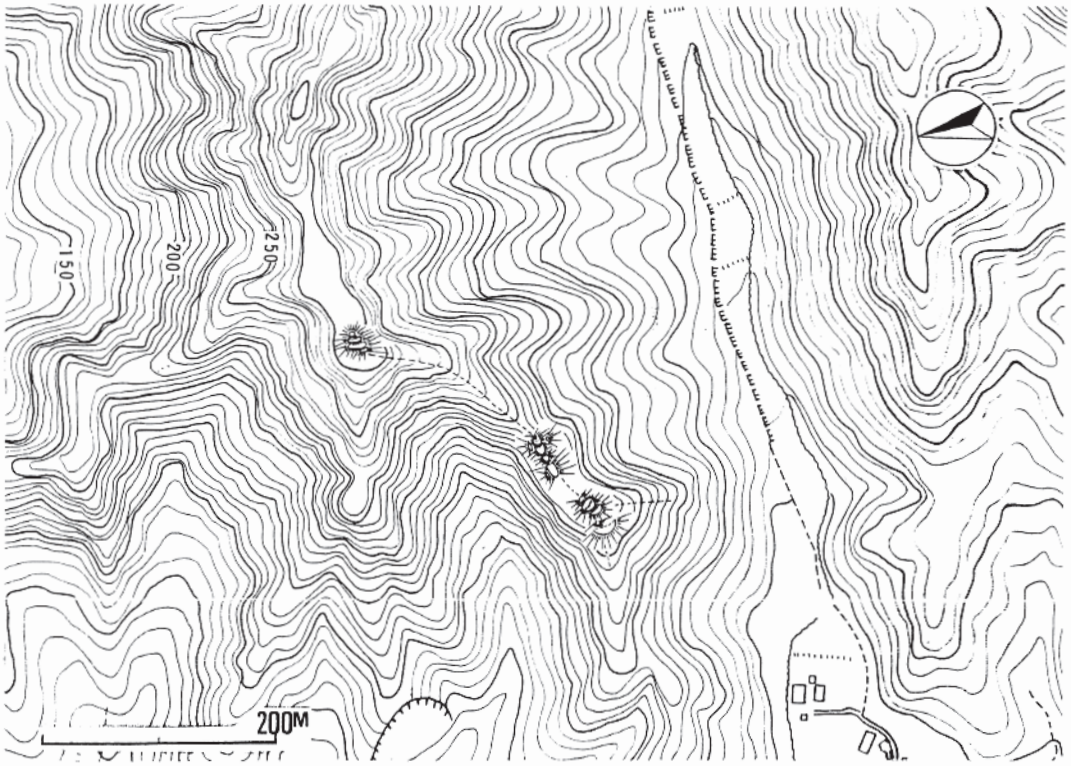
4　上土倉東方に聳える峻険な山陵にあり、眼下に村松ルートを望む。

5　山頂に近い郭群と尾根先端部に位置する郭群とに分離するが、総計18郭を数える。

7　中世

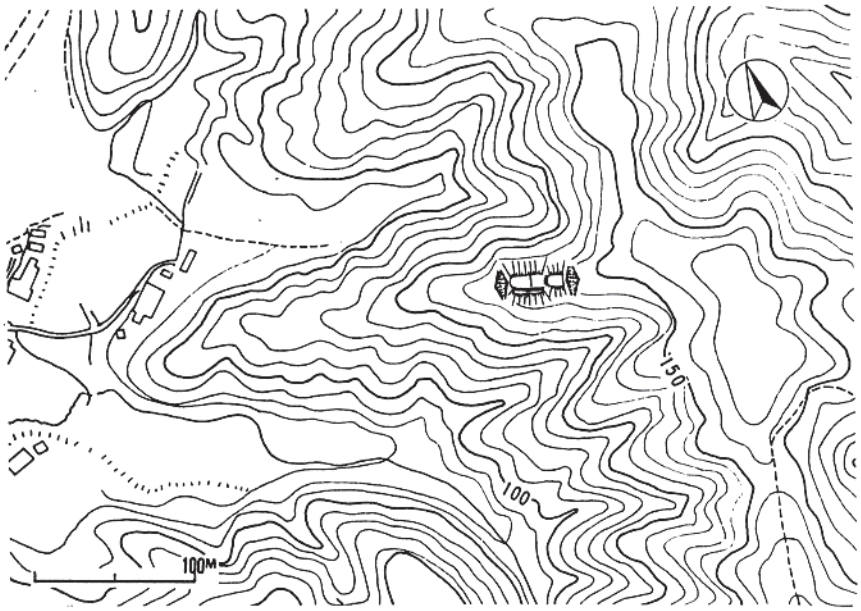
10　現存の調査では堀跡等の確認に至っておらず、空堀を含めてさらに多くの遺構が発見されることであろう。





46　西山城址

2　山城
3　西山字大柵屋614-甲
　西山字釜ノ入677
4　西に延びるやや緩やかな尾根の中間に立地する。北西前方に古い街道跡が遠望される。
5　前後２条の空堀と３郭を見る。
7　中世
10　西方に陣場、山麓に舞台の地名あり。写真は西山城址。



47　西ヶ峯城址

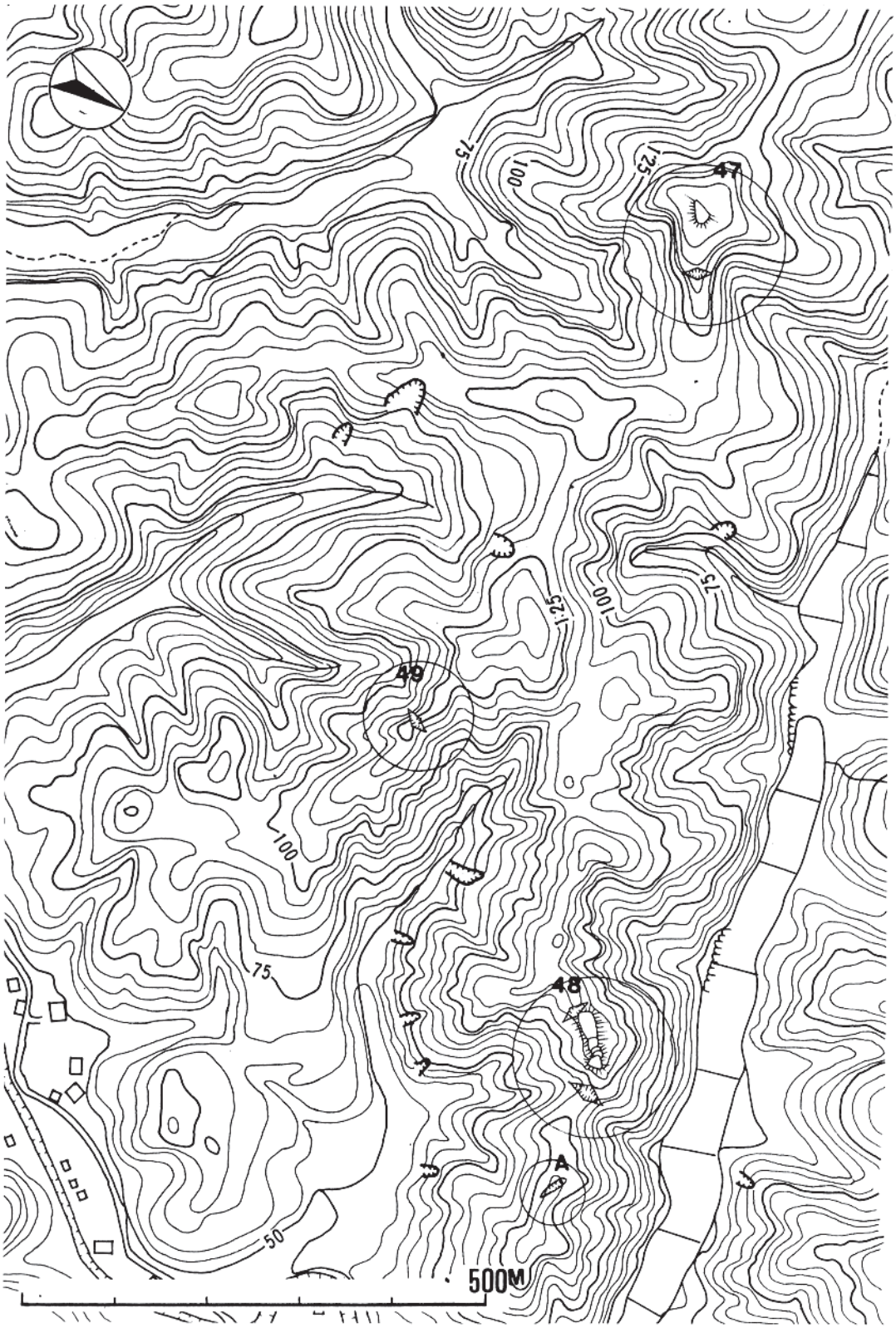
2　山城
3　字黒水1333-1（通称西ヶ峯）
4　上黒水部落の西方1100m地点で標高 150mの山頂。
5　空堀１条、三角形の主郭
7　中世

48　西ヶ峯塁柵

2　要害
3　字黒水 1325-乙、 1348-子
4　黒水部落の西方 500mの緩やかな尾根の中腹部に位置する。
5　空堀２、大小10の郭を見、北側に広い窪地を有する。
7　中世
10　村要害か。Ａは土坑遺構である。

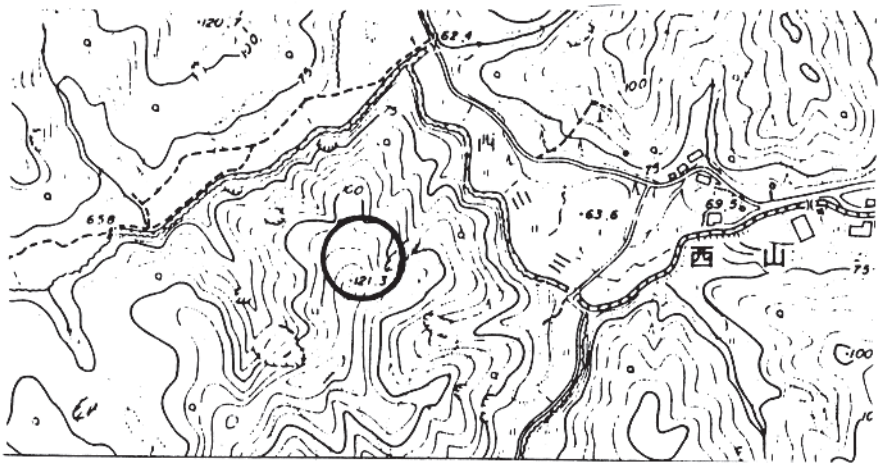
49　西ヶ峯砦址

2　山城
3　字黒水1341、1346
4　西ヶ峯城址の北東陵線上約 600m地点に位置し、峻険な山地である。
5　空堀１、主郭は特に人工を加えていない。
7　中世
10　西ヶ峯城の出城的存在と思う。


47
48
49
A
125
100
75
50
500M

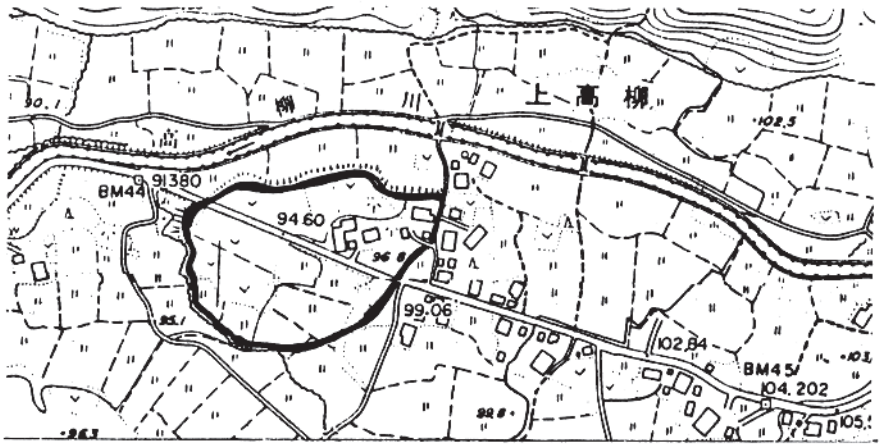
50　陣場跡

2　史跡
3　西山字見田沢
4　西山川左岸の尾根上、旧西山街道が直角に曲がる角地前面に立地する。
5　特に人工的遺構はないが平坦地である。
7　中世
10　西山城の出城か。地元の口碑に残る。



51　伝下屋敷館址

2　居館址
3　上高柳字中丸 343-1、344-15、579、580
4　高柳川左岸の河岸段丘。畑。
5　60×60m
7　中世
10　高柳城主の居館址の口伝あり。

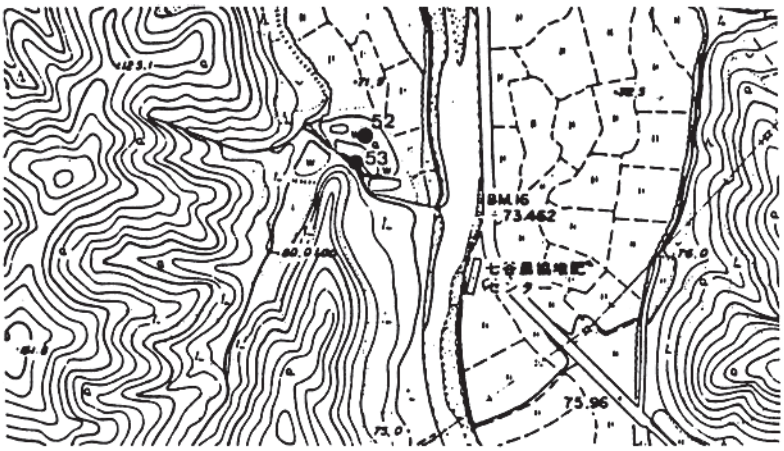


52　七聖１号塚

1　No.３７
2　塚
3　下高柳字川向 865-1
4　加茂川左岸の河岸段丘上。水田脇に位置する。
5　直径 3.8m、高さ 0.6mの円形、 0.7m幅の周溝あり。
7　中世
9　「加茂郷土誌(10)」
　「ふるさと歴史散歩」
10　威徳院と称する山伏外七人の従者の伝承や、後白河上皇の第二王子以仁王の伝承がある。
　１号、２号塚は別名江の沢古墳とも呼ばれている。

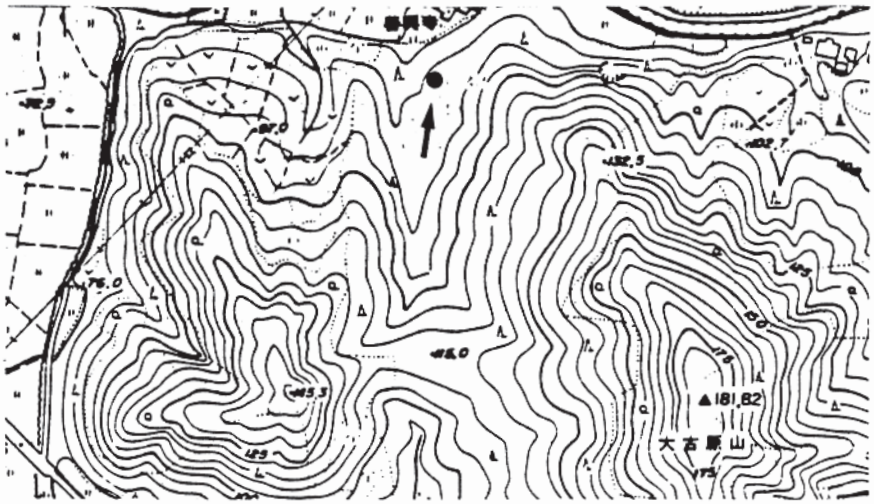
53　七聖２号塚

1　No.３７
2　塚
3　下高柳字川向 853、 854
4　１号塚に同じ
5　直径 7.3× 7.7m、高さ 1.0mの円形。浅い周溝の痕跡あり。
7　中世
9　１号塚に同じ
10　盗掘により中央部破壊。
写真上１号塚、下２号塚



54　七聖３号塚

1　No.３７
2　塚
3　下高柳字谷地 627-1,2
4　太古原山北側の山麓
5　直径 7.4m、高さ 1.2m。円形。
6　頂部に相輪３、笠（宝篋印塔）
7　中世末期
9　１号塚に同じ
10　石造物と塚との関連は不明。



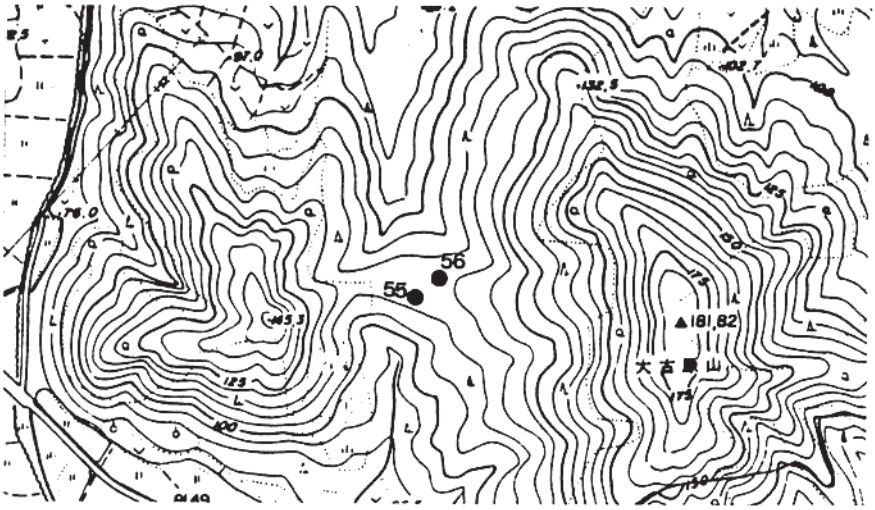
55　七聖４号塚

1　No.３７
2　塚
3　宮寄上字三場 62-13
4　太古原山西方の尾根の鞍部
5　直径 6m、高さ 1.4m。円形。
7　中世末期～近世
9　１号塚に同じ
0　頂部に小砂利多数あり。石経塚か。

56　七聖５号塚

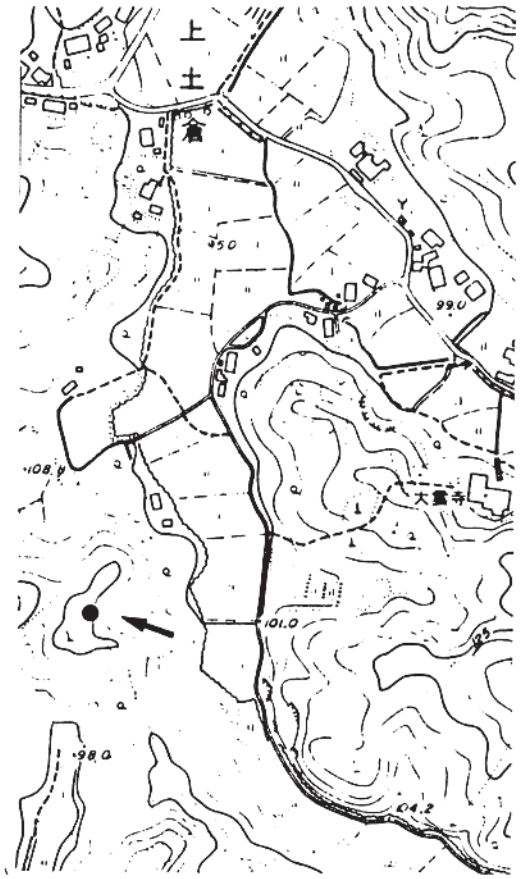
1　No.３７
2　塚
3　下高柳字赤毛 702-2、709
4　４号塚東方の尾根の緩斜面
5　直径 7.5× 8.6m、高さ 1.5m。円形プラン。頂部に人頭大の石あり。
7　中世
9　１号塚に同じ
10　頂部に直径 2m、深さ 0.4m の窪みあり。盗掘穴であろう。

写真上４号塚、下５号塚。



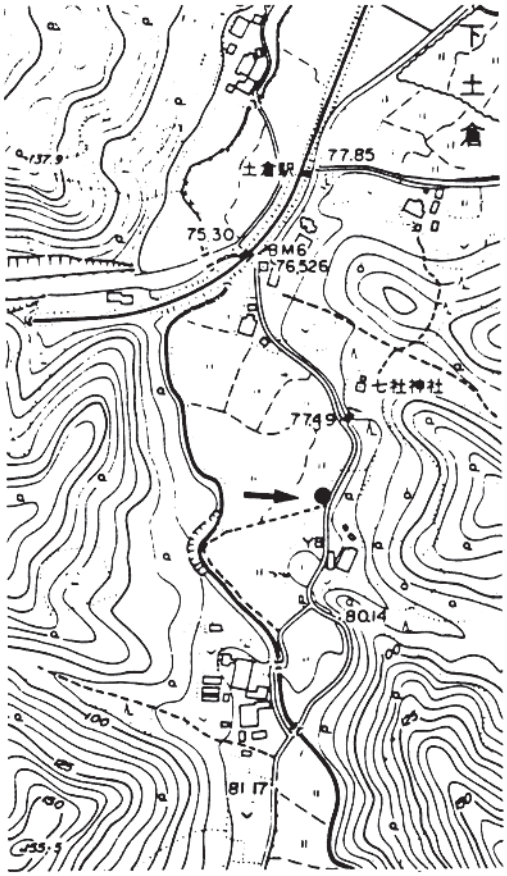
57　芹沢の塚

2　塚
3　上土倉字芹沢 551
4　沢に面した尾根の淵。眼下を街道が通る。
5　直径 5.5× 6.0m、高さ 1.0m、山側にかけて幅 1.5～2.2mの浅い周溝が見られる。
7　中世？



58 灰 塚

2 塚
3 下土倉字灰場 584-1
4 山麓台地端
5 直径 4m、高さ 0.7mの円形。マウンドの上部へ大石２個を積重ねている。下石径 115cm、上石径80cm。
10 加茂次郎義綱の茶昆にふされた地に所以するものと伝えられている。

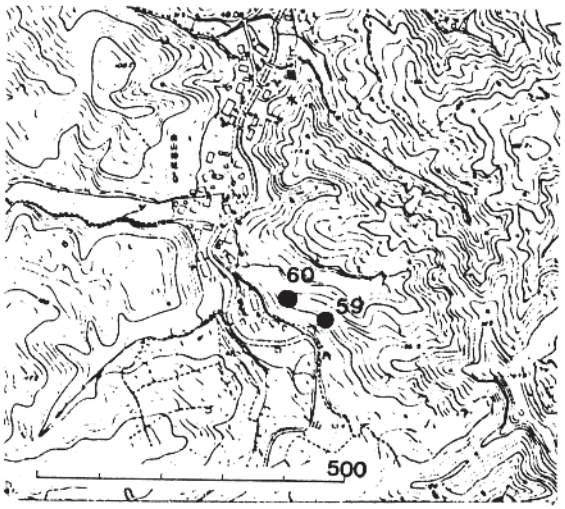


59　上黒水１号塚

2　塚
3　上黒水字沢通1106
4　旧西山街道（沢通道）沿いの狭い痩尾根の陵線上にある。
5　北側は沢に向かって一部崩壊しているが、直径 4× 4.5mの円形で幅 1.5m、深さ 1.0mの周溝がある。
10　地元では昔から塚の口伝がある。写真上１号塚。

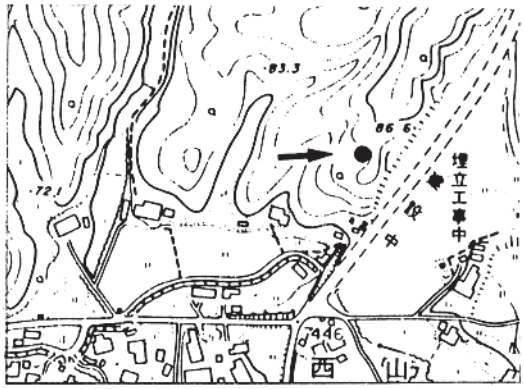
60　上黒水２号塚

2　塚
3　上黒水字沢通1106
4　１号塚に同じ尾根の先端部にある。
5　残存直径 3.4× 4mの円形。南側に深い土坑状の遺構があり、沢につながる。
10　現状では崩壊がはげしく塚遺構とは見られないが、地元民は昔から１号塚と共に塚との口伝がある。写真下２号塚。



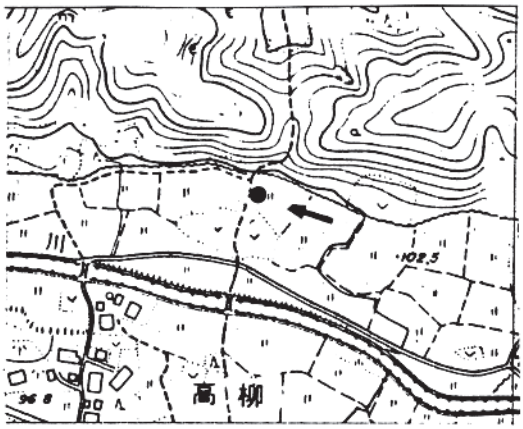
61　谷地田の塚

2　塚
3　西山字谷地田 553-6、574-27～56
4　尾根先端部、西側に旧街道の峠道がある。
5　4.0× 4.6mの一辺を測る方形で、高さは 1.0m。頂部は円形を呈す。
6　古銭、石造物基台
7　江戸時代？
10　近年まで３～５基の塚が存在していた。これらの内より石塔、五輪塔が出土したが散逸した。



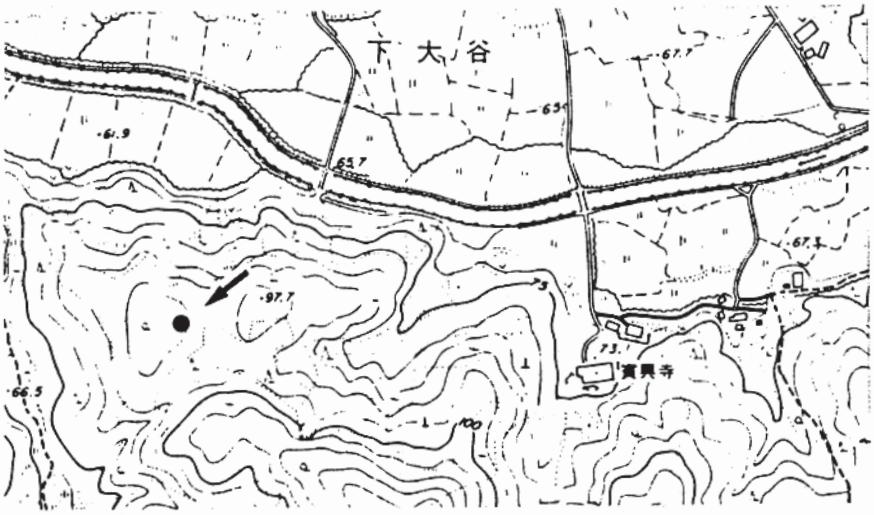
62　寺下の塚群

2　塚及び石塔群
3　上高柳字寺下 285
4　高柳川右岸の河岸段丘上で水田の一角。
5　昔あった塚はその遺構を消滅しており、現在では石塔11基が建立する。
6　「南無妙法蓮華経寒念佛供養塔　文正５年天九月吉日」「南無妙法蓮華経寒念佛塔　天保六乙未年　講中（略）」「南無妙法蓮華経寒念佛　文化□□九月□日（人名略）」「南無妙法蓮華経大乗妙典日本廻國塔　□□□五□天□□　講中□月」「南無妙法蓮華経寒念佛塔　文久元酉年十月吉六日　講中（略）」「南無妙法蓮華経寒念佛供養塔　大正六丁巳年十月備吉日（略）」「南無妙法蓮華経庚申塔　□□元□酉十月吉日」「南無妙法蓮華経庚申塔」「南無妙法蓮華経馬頭観世音塔」「光明塔　昭和四年六月」「南無妙法蓮華経寒倉供養塔　昭和五年十月　願主茂野勝弘」
7　江戸時代～昭和



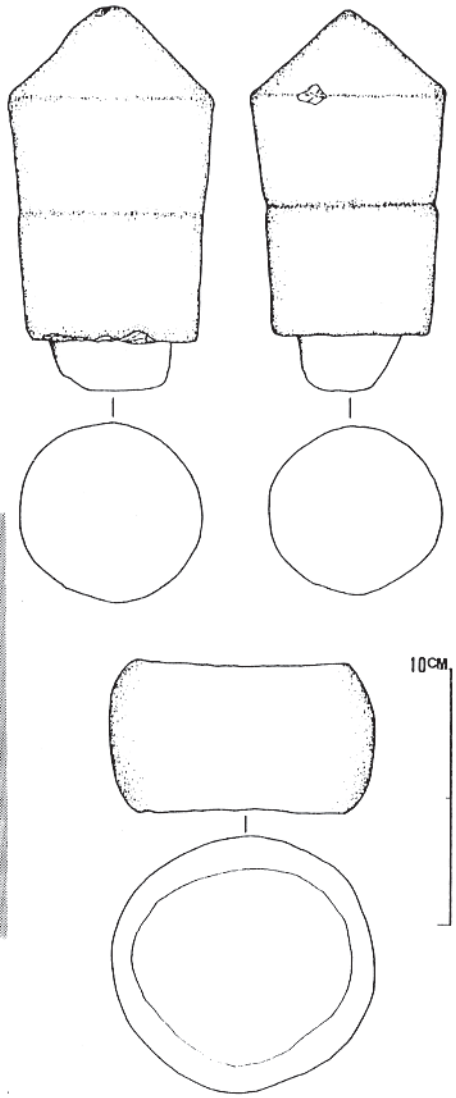
63　菅ノ谷地

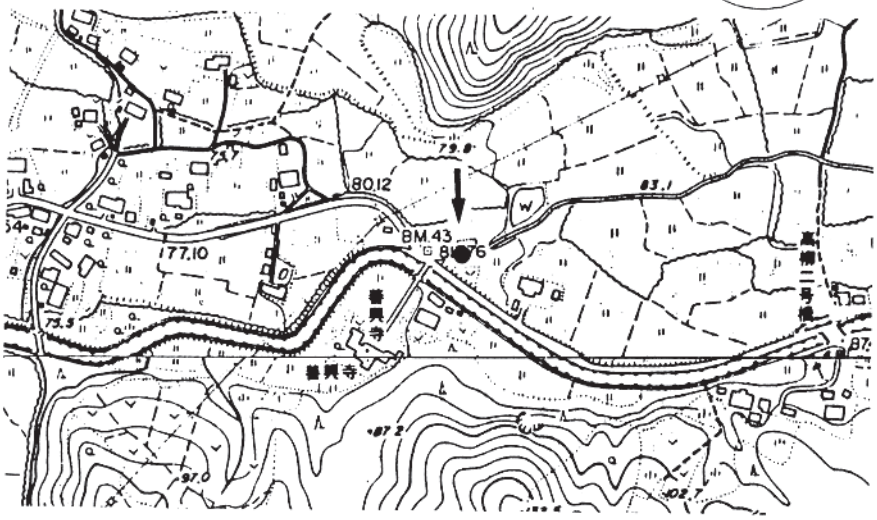
2　塚
3　下大谷字菅ノ谷地 116、117
4　尾根中段の広い台地、山林。
5　径 4.1× 2.8m、高さ 0.7m、
　　楕円形の円塚、一部欠壊。
10　一部削平された痕跡あり。



64　笹淵の塚

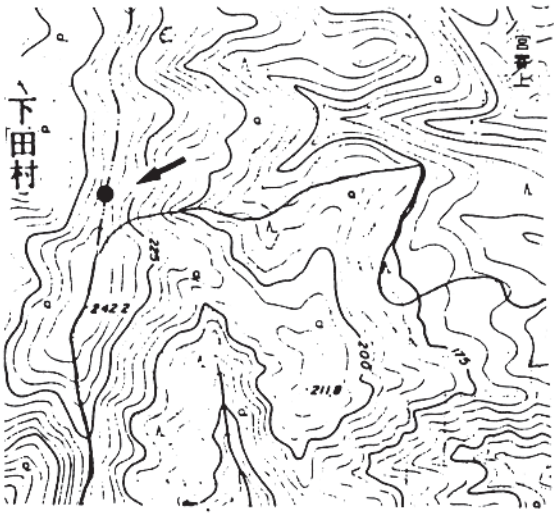
2　塚
3　下高柳字笹淵
4　高柳川の河岸段丘の水田地帯。現況は畑、雑種地。
5　現在遺構は削平されて不明だが径７～８ｍ程の塚が存在したと考えられる。
6　空風輪２、水輪１
7　室町時代末期～
8　加茂市民俗資料館
10　土取りにより塚は削平されたが、内部遺構の残存が考えられる。





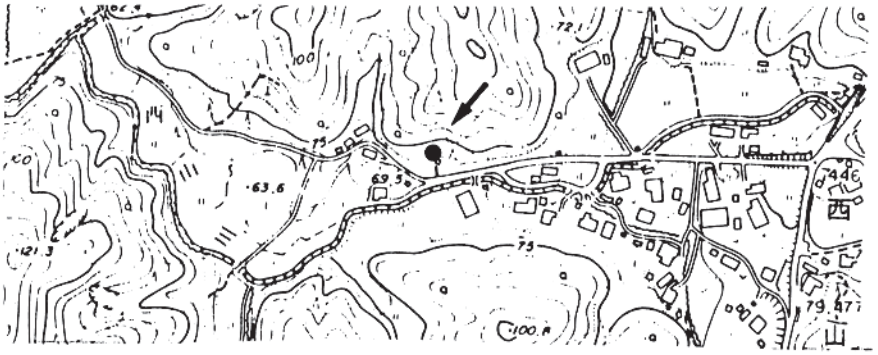
65　かご掛松の塚

2　塚
3　宮寄上字広田2266、2337
4　標高 240mの嶺線上で「殿様街道」と呼ばれる旧道に添う。
5　底辺 5m、頂部 2.5m、高さ 2.5mの方形である。
7　江戸時代？
10　旧道の休息地点であったという。



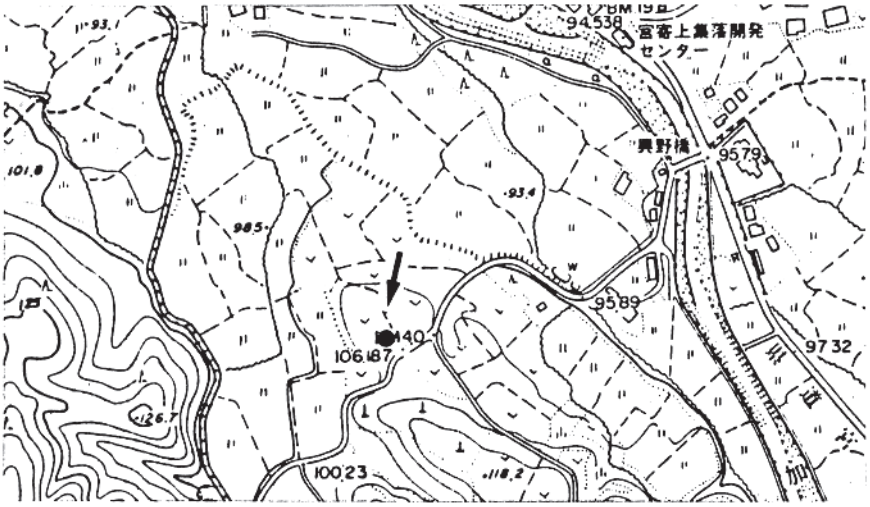
66　行　塚

2　塚
3　西山字行塚
4　山麓に近い急斜面。現況は墓地、山林。
5　一辺 4.5m、高さ 2mの基壇の上に方丈の地蔵堂宇あり。その基壇が塚だという。
6　石造地蔵尊
10　周辺に土取りの痕跡あり、さらに調査を要する。
疫病から西山部落を守るため六部が生仏となったという。



67　広田の塚

2　塚
3　宮寄上字広田2012-1
4　山麓台地端、旧道沿い。現況は畑、山林。
5　直径 6m、高さ 1mの円形。礫を多量に内蔵する。
6　宝篋印塔２、地蔵１
7　南北朝時代、室町時代末期
10　塚の時代は不明であるが宝篋印塔の１つは南北朝、他は室町末期のものであろう。

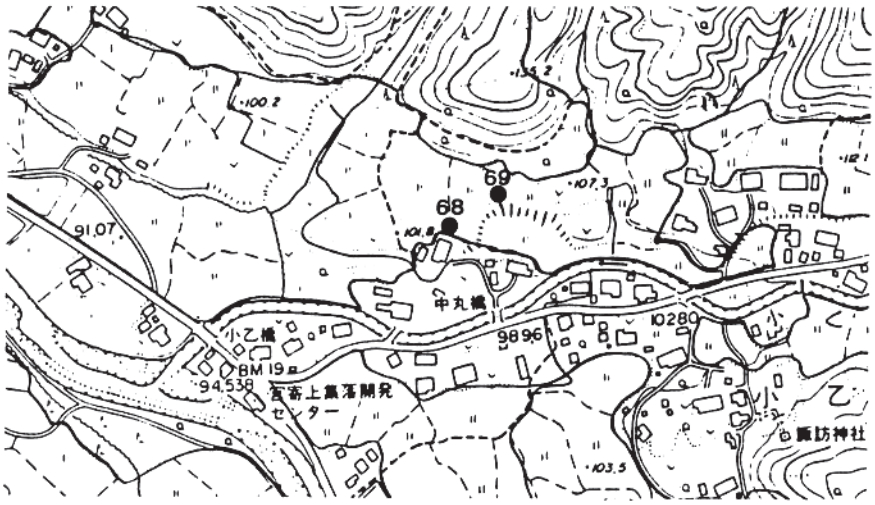


68　上の田板碑Ａ

2　板碑
3　宮寄上
4　加茂川右岸の河岸段丘。墓地内。
6　山形板碑。下部欠損、(18.5)×22.5×　9.5㎝、方形線刻、天蓋。
7　南北朝時代
10　下部欠損のため種子は不明だが天蓋と共に深い薬研彫や突起額部等古い形態を呈する。写真上。

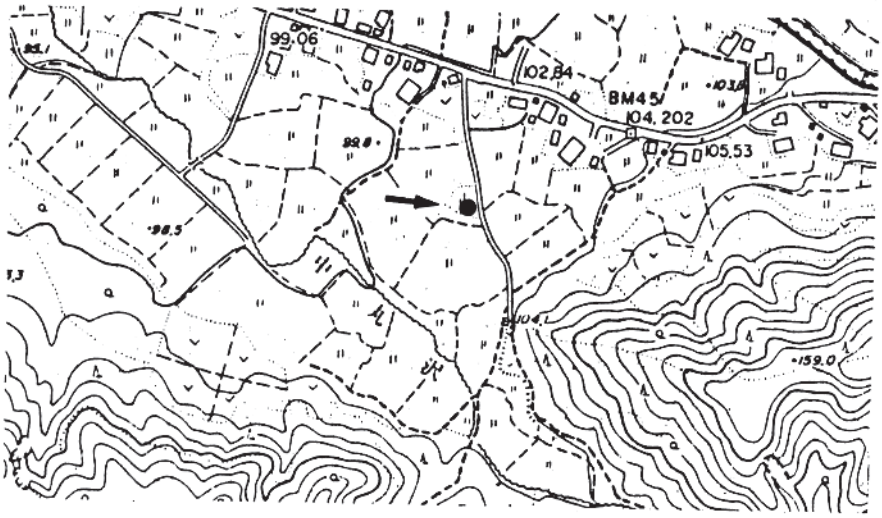
69　上の田板碑Ｂ

2　板碑
3　宮寄上
4　河岸段丘、水田内の墓地。
6　山形板碑。突起額部と二条線を有し、梵種子、76×31×13㎝。
7　南北朝末期～
10　碑面風化によって不明瞭だが３～４行の文字あり。写真下



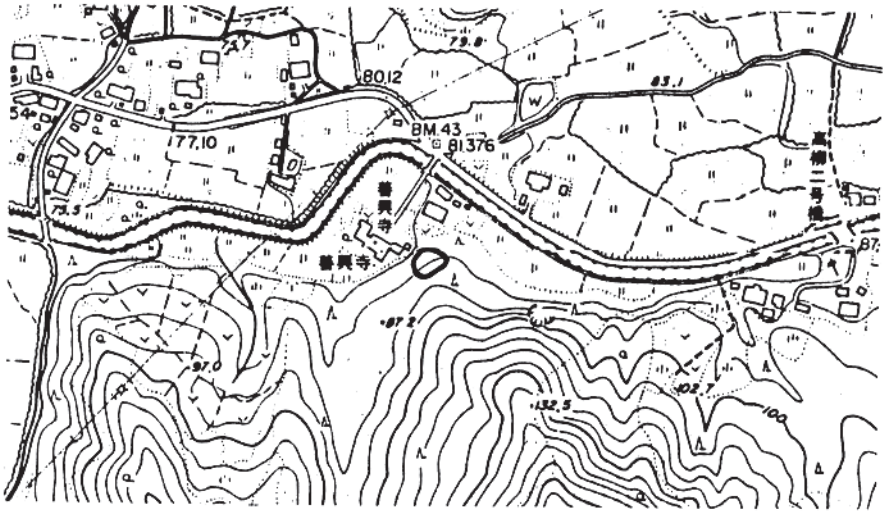
70　中丸の板碑

2　板碑
3　上高柳字中丸600
4　高柳川の扇状台地。水田内の墓地
6　山形板碑。二条線と柄を残す。50.5×18.2×7.5 ㎝（凝灰岩）
7　室町時代
10　碑面風化のため文字見えず。当墓地は移転前の善興寺の旧墓地と伝える。周辺に墓標と思われる石仏（地蔵尊）４体あり。



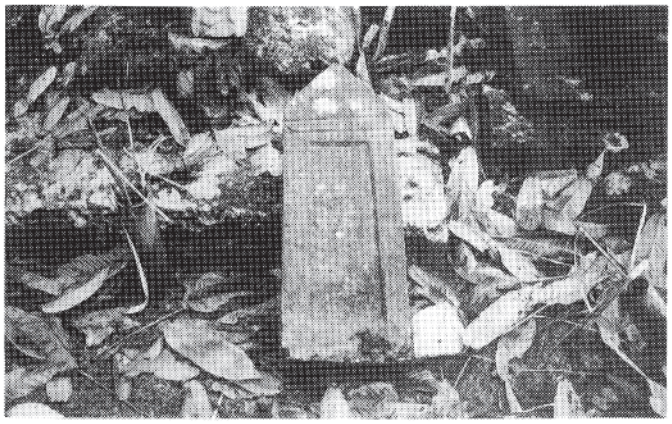
71　善興寺の石造物

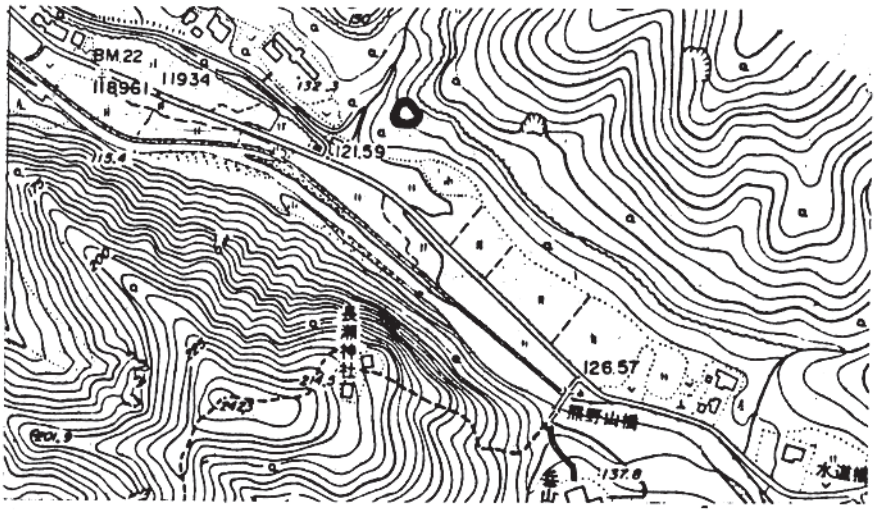
2　石造物群
3　下高柳字笹淵627-1
4　山麓の墓地
6　イ．石仏（阿弥陀如来坐像半肉彫花崗岩磧石仏）
　　ロ．板碑（山形板碑、二条線、下部欠損、ぎか？）
　　ハ．相輪（宝篋印塔相輪残欠、高さ50㎝）
　　ニ．笠（宝篋印塔笠部残欠）
7　イ～ハ南北朝時代、ニ室町時代



72　段の平の石造物
（新田義宗一族の墓）

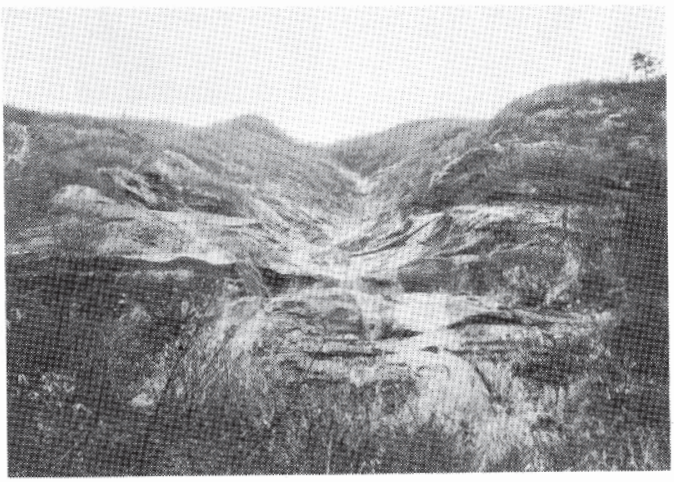
1　№２４
2　石造物
3　宮寄上字長瀬1208　通称“段の平”
4　山麓の狭い舌状台地。墓地。
5　20×30m内に古式の墓塔が並ぶ。
6　宝篋印塔各部残欠（約10基分）板碑（山形、二条線）高さ40cm
7　室町時代
9　「加茂市史（下）」
10　ここでは中世と考えられる石造物を取り上げたが、その他の石仏・石塔等はすべて江戸時代のものである。写真上の宝篋印塔は小規模な塚状マウンドの上に建つ。

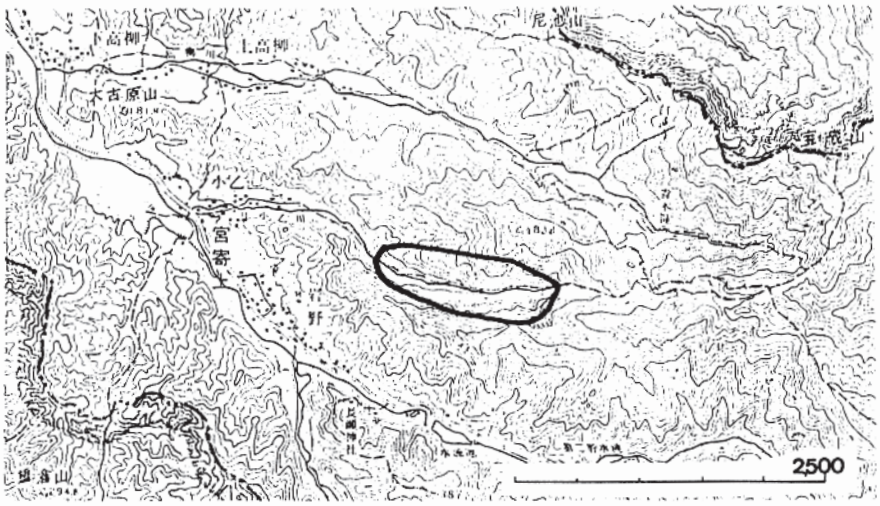




73　小乙鉱山

1　No.３６
2　鉱山跡
3　宮寄上字三場 355、367
　　宮寄上字岩野 401～404
4　深い沢の両面。山林。
5　鉱口７、選鉱場等。
7　江戸時代（安永８年）～明治時代
9　「ふるさと歴史散歩」
10　関連資料は加茂市民俗資料館等にある。



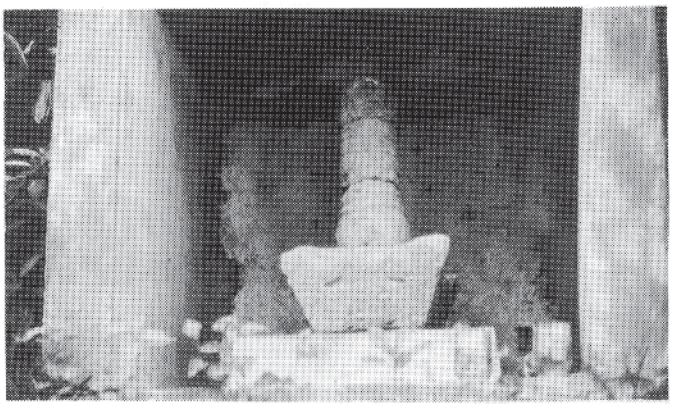


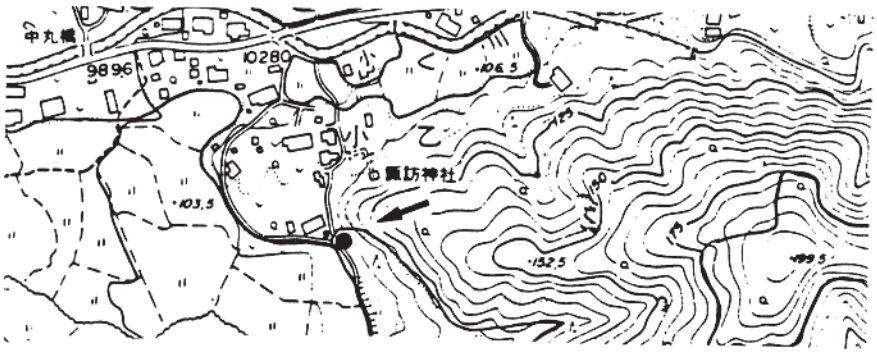
74　爪切り不動尊

2　石仏
3　宮寄上字長瀬1556-1
4　断崖中腹
6　不動明王立像（舟形後背）
　33×18×　8㎝
8　嶽山寺管理
9　「ふるさと歴史散歩」
10　位置図は“106 嶽山寺の庚申塔”参照。

75　小乙の宝篋印塔

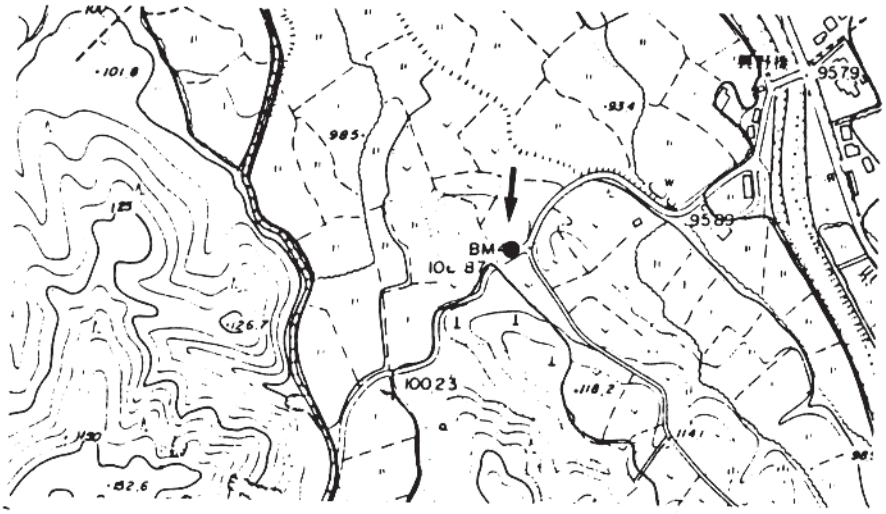
2　石塔
3　宮寄上字岩野716
4　山麓。路傍の堂宇内に安置。
6　宝篋印塔残欠。笠、相輪。
7　室町時代～
8　小乙部落管理
10　地先の道路拡幅工事の際出土。北方に伝宝生院址あり。関連品か。





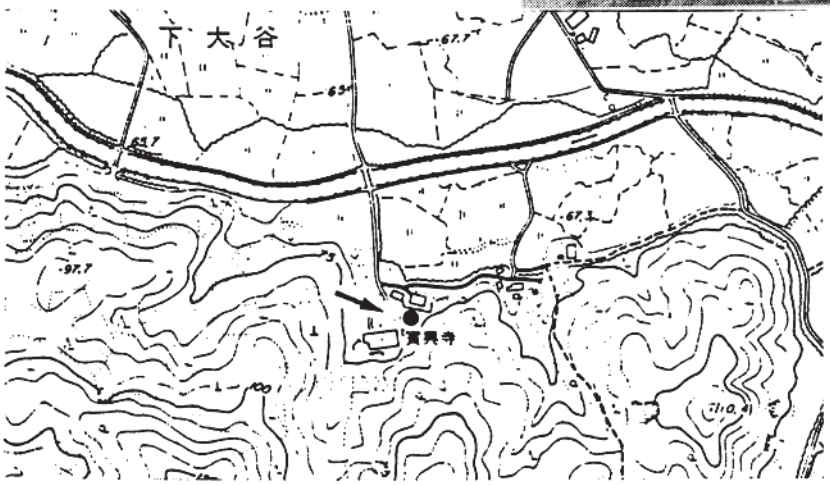
76　広田の石塔群

2　石塔
3　宮寄上字広田2024-1
4　山麓台地端、旧道脇。畑。
6　「𑖀南無阿□□天保三年一月吉日」「𑖀光明真言□」
7　江戸時代
10　六字名号塔は土中に深く埋まり下部の文字不明。自然石。



77　宝興寺の石塔群

2　石塔
3　下大谷字熊ノ沢
4　山麓。谷城山宝興寺境内。
6　「[illegible]」「弘法大師一千年忌塔　天保四巳年八月大一日　当寺現住栄仙代」その他笠塔婆形供養塔１、地蔵菩薩８、観音菩薩２。
7　江戸時代～
10　梵字塔アビラウンケンは大日如来（胎蔵界）真言。

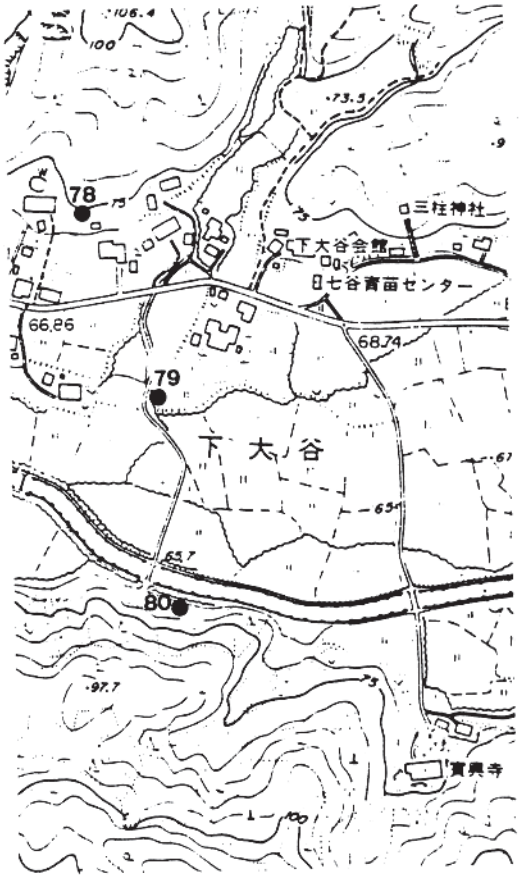


78　薬師堂の宝篋印塔

2　石塔
3　下大谷字岩野813-2
4　山麓台地。薬師堂境内。
6　宝篋印塔残欠（相輪１、笠３、塔身１）
7　室町時代末期～
10　遺物は堂の周辺から集められたものらしい。薬師堂には元治元年の御神燈一対建立。

79　旧墓地の石塔残欠

2　石塔
3　下大谷字宮の下320-3
4　大谷川右岸の河岸台地。水田内の墓地。
6　宝篋印塔残欠（相輪１）。高さ43㎝。
7　室町時代末期～
10　旧墓地で比較的古い墓塔があり、当遺物も墓塔として祀られている。



80　菅ノ谷地供養塔

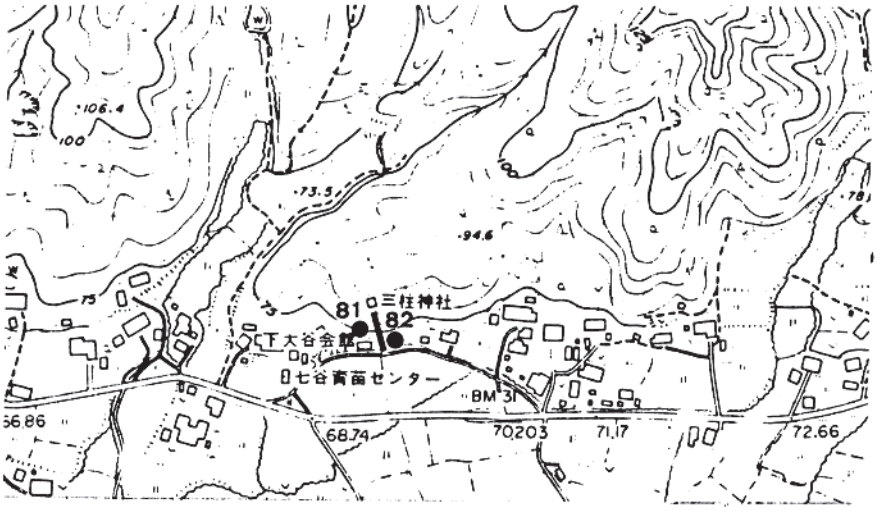
2　石塔
3　下大谷字菅ノ谷地105-1
4　山麓台地。旧街道脇。
5　笠塔婆形石塔１、総高97㎝。
7　江戸時代
10　碑面摩耗で不明、墓標か。位置図は前ページ参照。

81　三柱神社供養塔

2　石塔
3　下大谷字岩野591-1
4　山麓。三柱神社境内地、中大谷集会所脇。
6　笠塔婆形石塔１
7　江戸時代
8　「加茂郷土誌（9）」
10　碑面摩耗で不明。位置図は次ページ参照。

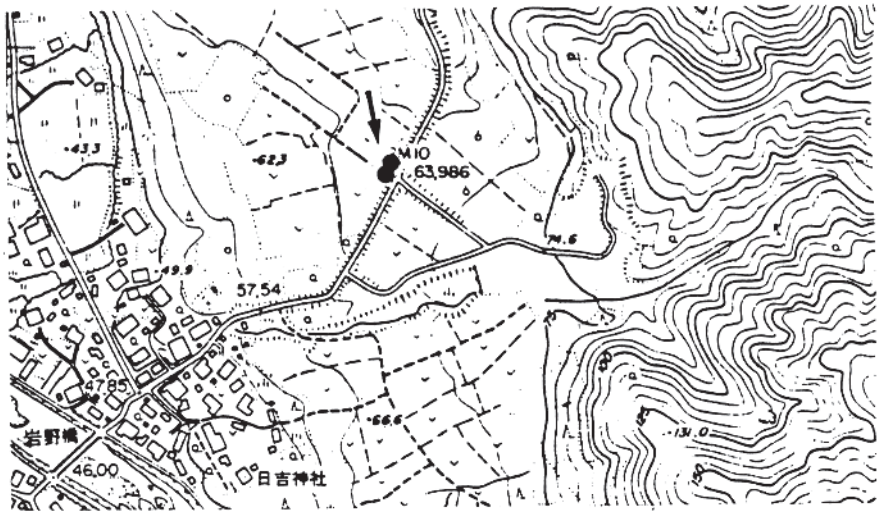
82　三柱神社の石塔群

2　石塔
3　下大谷字岩野591-1
4　山麓。三柱神社境内、石段脇。
6　「寒念佛塔□年」「寒念佛塔 大正十五年 」「寒念佛塔」「寒念佛供養塔 文化三年三月二七日 」「寒念佛塔 宝暦三癸酉年 」「　庚申塔□年」「庚申塔 宝暦三年□□□日 」「光明真言塔」「光明真言塔」その他不明塔２。
7　江戸時代～
8　「加茂郷土誌（9）」



83　岩野原の庚申塔

2　石塔及び庚申塚
3　黒水字岩野原
4　山麓の台地。旧道脇、畑、山林。
6　イ．方形塚（5.5×3.5 m、高さ 2.0m）「庚申塔 文化十二年乙亥九月六日」「月待供養塔」地蔵尊１。
　ロ．「青面金剛像 慶応元甲子年八月十五日 願主（略）」
7　江戸時代
8　「加茂郷土誌（9）」
10　ロは庚申塔唯一の像塔で笠塔婆形である。

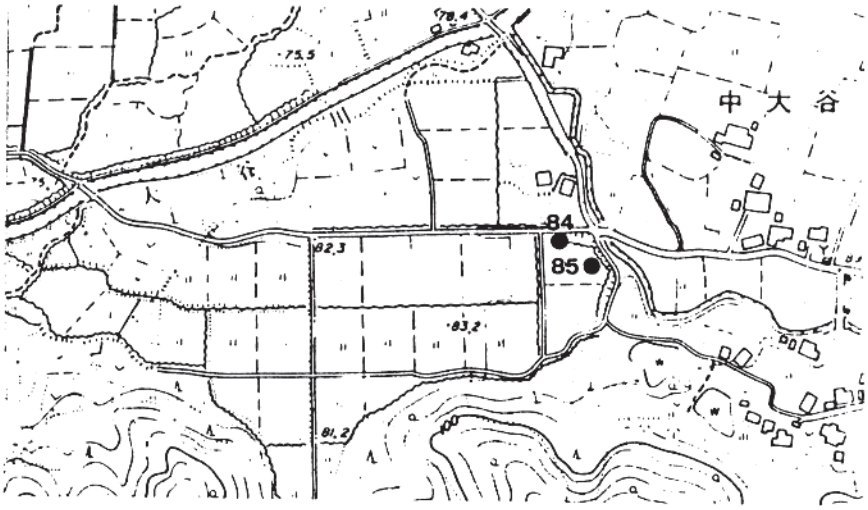


84　草生津の石塔群Ａ

2　石塔
3　中大谷字草生津381-寅
4　山麓台地。水田、旧道脇。
6　「光明真言塔」「光明真言塔」
　「寒念佛願主（略）」「飛寒
　念佛供養塔　明和五年十月 願主長野源私　」
　「庚申塔　願主 □□ 雪村中 十月十八日　」
　「庚申塔」「青面金剛塔」
　その他石灯籠残欠。
7　江戸時代～昭和５年

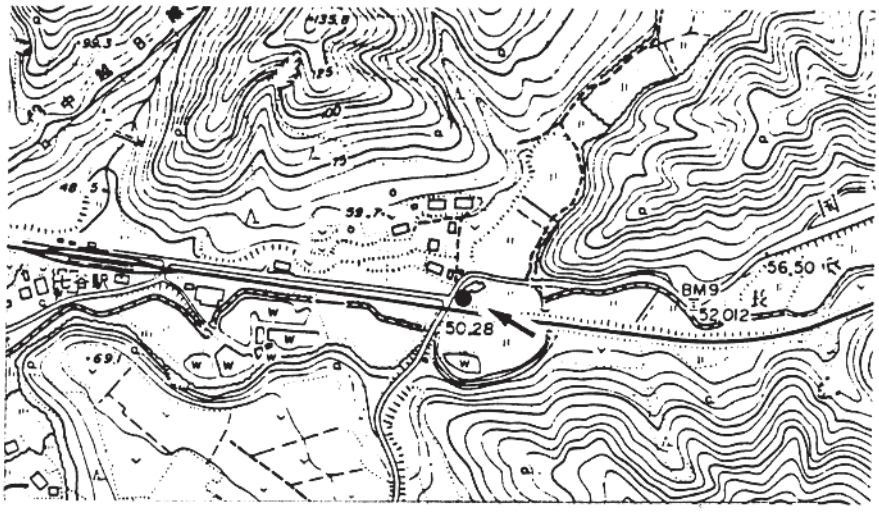
85　草生津の石塔群Ｂ

2　石塔
3　中大谷字草生津381-1
4　84に同じ
6　「飛寒念佛塔　明和□□年 八月吉祥　」
　「庚申塔　明和□□□　」
7　江戸時代（明和年間）
10　写真下



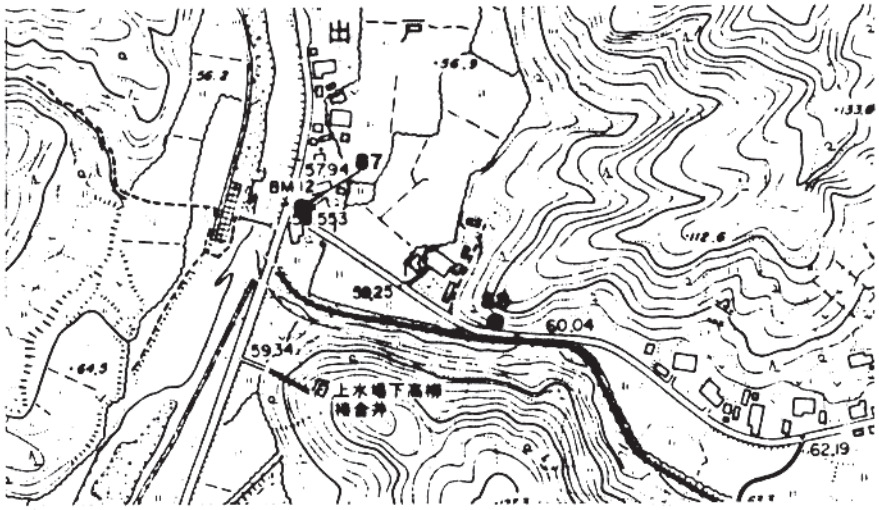
86　あきどおりの地蔵尊

2　石仏
3　長谷字
4　扇状地。旧街道脇、宅地。
6　地蔵尊坐像（台座とも総高2.35m）「文政元 戊寅天　建立願主　長谷山慈眼寺　現住法印良息　八月吉祥日」「右ハ加茂ちか道　□□□至」「左ハ 鶴水 下田 道」
7　江戸時代（文政元年）
10　堂宇内に安置



87　出土の地蔵尊

2　石仏、石塔
3　下大谷字出土956
4　集落内三叉路
6　地蔵尊坐像２、笠塔婆形供養塔「[illegible]」
7　江戸時代
10　石塔の側面等不明
　　観世音菩薩ご真言

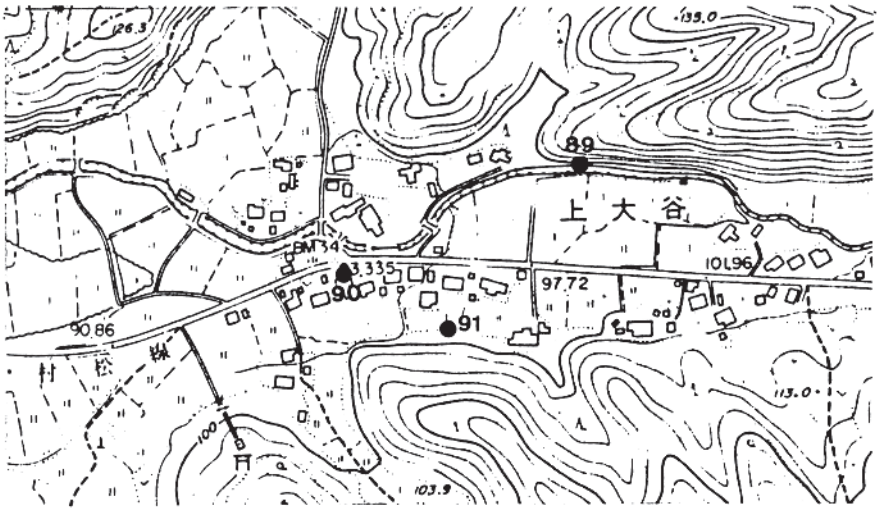


88　金華様

2　石祠
3　下大谷字岩野949-1
4　山裾。道路脇。
6　小型の石祠。板石を合せたもの。
10　地元では道祖神だという。位置図は前ページ参照。

89　鳥越の不動尊

2　石仏
3　上大谷字鳥越179-乙
4　山裾の岩屋
6　不動尊３（凝灰岩）
8　部落及び長沢政範氏の管理
10　人工の岩屋内に安置



90　鳥越の地蔵

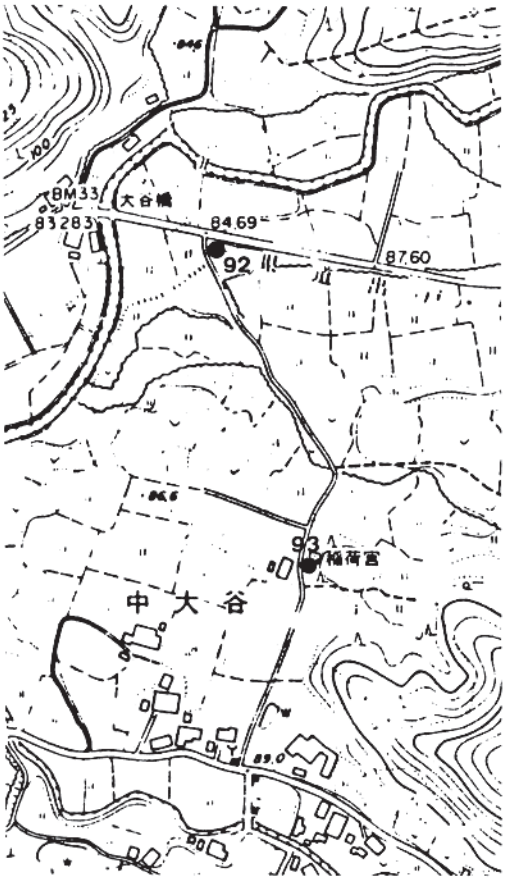
2　石仏
3　上大谷字鳥越332-1
4　集落中央の道路脇
6　地蔵尊立像１（頭部欠損）
　(65)×59㎝
7　江戸時代～
10　昭和59年頃前面の河川改修工事の際出土したもの。地元では道祖神様と呼んでいる。位置図は前ページ参照。

91　十二様

2　石祠
3　上大谷字鳥越７－丑
4　山麓、10×15ｍの人工でつくりだした台地。
6　石祠１、湯殿山塔（欠損）１
10　石祠には十二様（山の神）を祀る。部落及び長沢政範氏の管理。位置図は前ページ参照。

92　田中の地蔵尊

2　石仏
3　上大谷字中道395
4　村外れの県道脇。地蔵堂宇内。
6　地蔵菩薩坐像。台座とも96×27㎝
7　近現代？

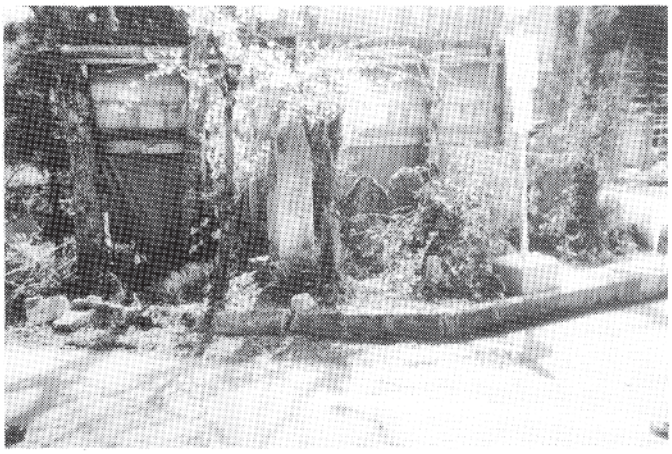


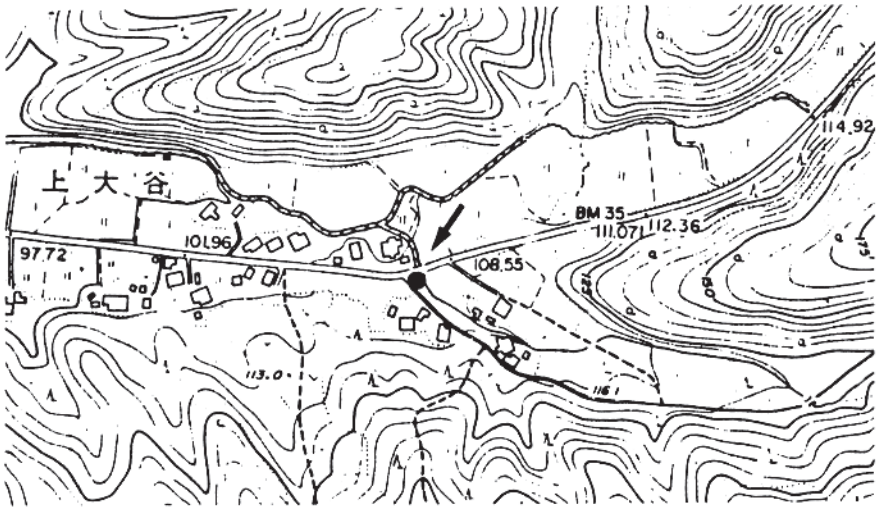
93　諏訪神社の石造物

2　石塔
3　中大谷字蚊口太244
4　丘陵。諏訪神社境内。
6　記念碑２、「至誠会創立二十周年記念」
7　明治時代

94　上大谷の石塔群

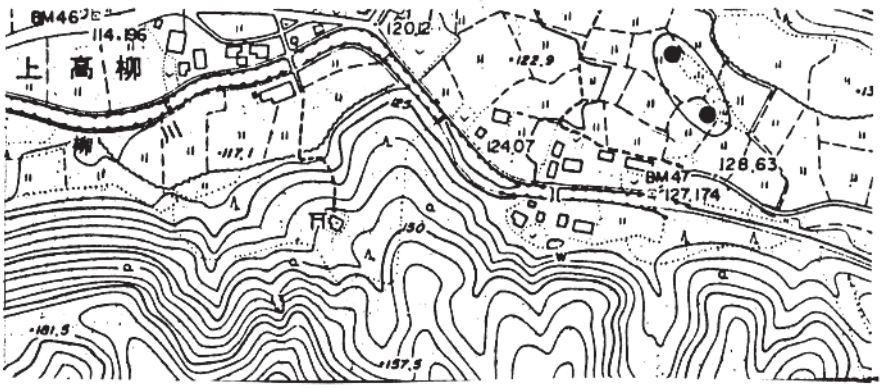
2　石塔
3　上大谷字鳥越270
4　集落内の道脇。
6　寒念仏塔６、庚申塔３、光明真言塔１、湯殿山塔１、石仏その他。
「庚申供養塔天明八年」「寒倉供養塔」「庚申塔」「𑖨寒念佛元治元年」「地蔵」像「𑖨寒念佛天明年」「不明」塔　「光明真言□□百一十万辺」「寒念佛塔」「湯殿山大神」「不明」塔　「庚申塔天明年」「寒念佛」　その他石祠２
7　江戸時代（天明年間）
10　地元ではこの地を庚申様と呼ぶ。





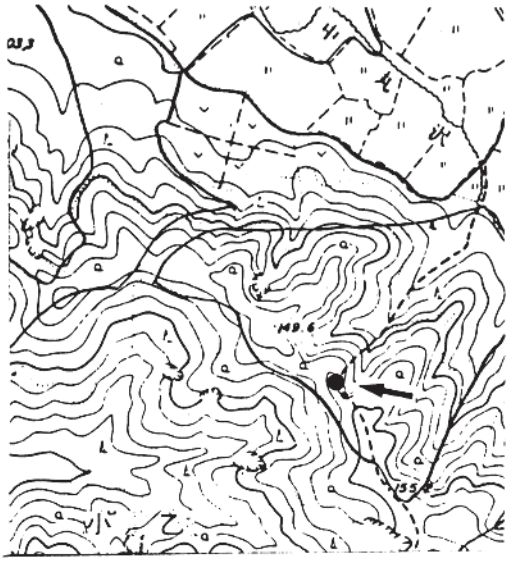
95　金平の石仏

2　石仏
3　上高柳字金平1011-1
4　水田内の旧墓地（２ヶ所）
6　地蔵菩薩４
7　近代？
10　10×　5m程の墓地域に石仏や古い石塔が散在する。



96　湯殿山碑

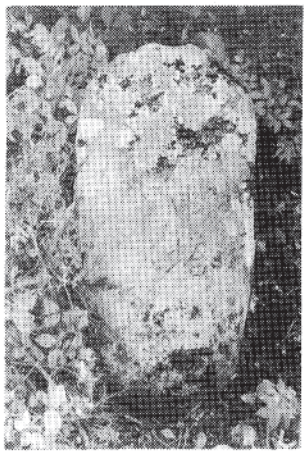
2　石塔
3　上高柳字坂上、坂下676
4　山頂。旧街道脇。
6　「奉湯殿山　□□□　」70×45㎝
10　宮寄上より上高柳へ越える峠の頂上に位置する。

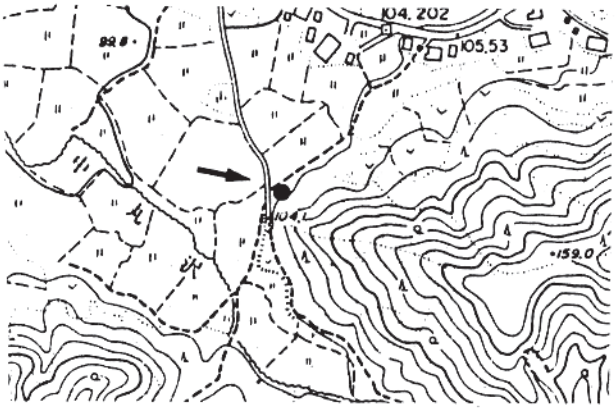


97　明毛の庚申塔

2　石塔
3　上高柳字明毛692
4　山麓。旧道脇。

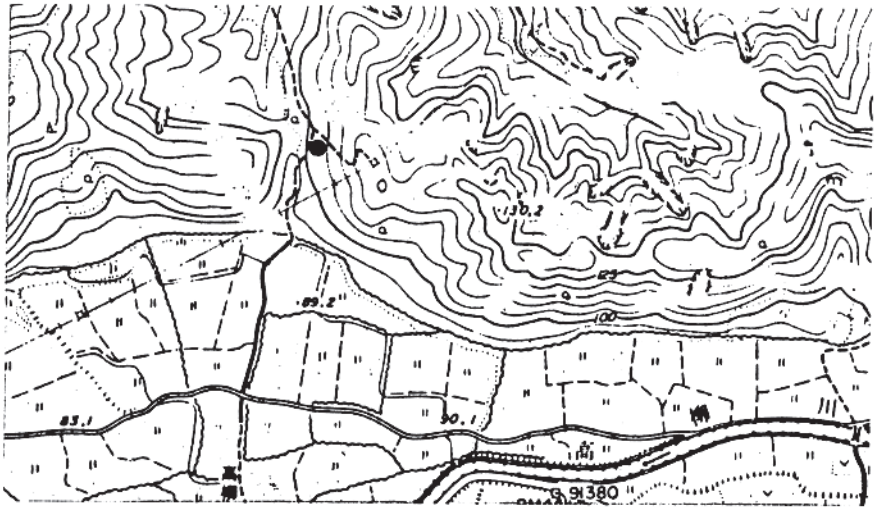
6　「月 庚申塔 文化十□□□ 九月廿六日」
107×58.5×32cm
7　江戸時代（文化10年頃）
10　文化12、13年と推定される。





98　御前清水の石祠

2　石祠
3　下高柳字山王原67
4　山麓台地。山林。
6　石祠



99　日吉神社の石塔群

2　石塔

3　下高柳字山王原54

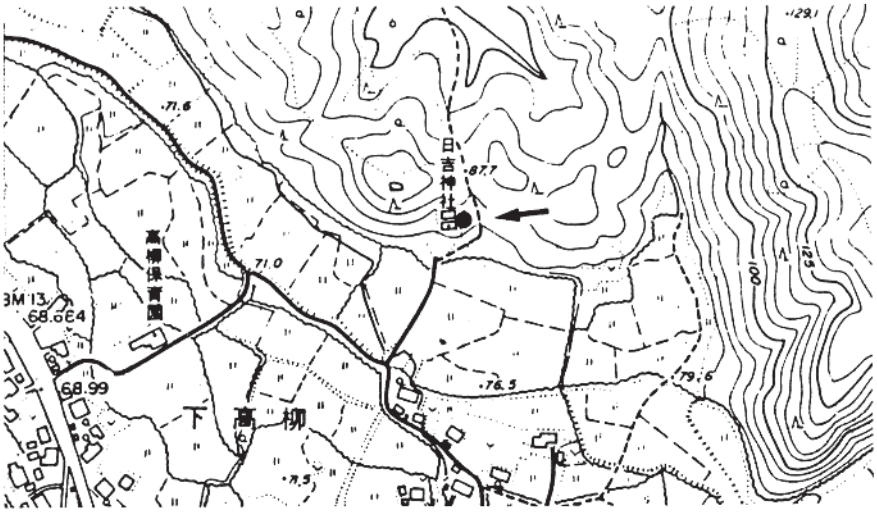
4　神社境内

6　「大穴牟遅神 子持明治四年 歩平九月吉日」（願主略）103×65　「寒念佛供 羅塔 文化六年 巳十月吉日」70×31　「光明塔」36×16.5　「寒倉塔 文久□元年 □□九月吉日」68×45　「金神」46×32　「山の神」62×43　「寒念佛供養塔 慶応元乙丑年 九月二十三日天」103×61　「庚申塔 文久元年 歩四九月八日」113×104　「蓋青面（土中）」(47)×44　（単位㎝）

その他不明塔３基、石祠１

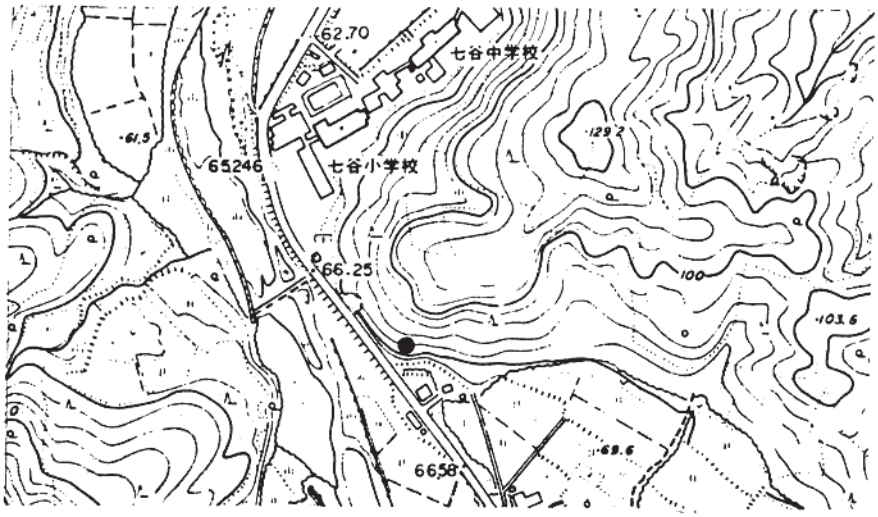
7　江戸時代～明治時代（文化６年～明治４年）

9　「加茂郷土誌（9）」



100　牛転坂の石塔群

2　石塔
3　下高柳字山王原38-1
4　山麓。山林。
6　「四生供養塔 天保十二年 庚子九月吉日 」62.5×42　「光明真言□」56×50
「庚申塔 寛政十二年未十月十二日 」55×48
「庚申塔 天保十一年 庚子九月吉日 」84×60
（単位cm）
7　江戸時代（寛政11年～）
8　「加茂郷土誌（9）」
10　それぞれ当地へ寄せ集められたもので、かつては橋のたもと、牛転坂の頂上、岩清水場等にあった。



101　太古原の石塔群

2　石塔

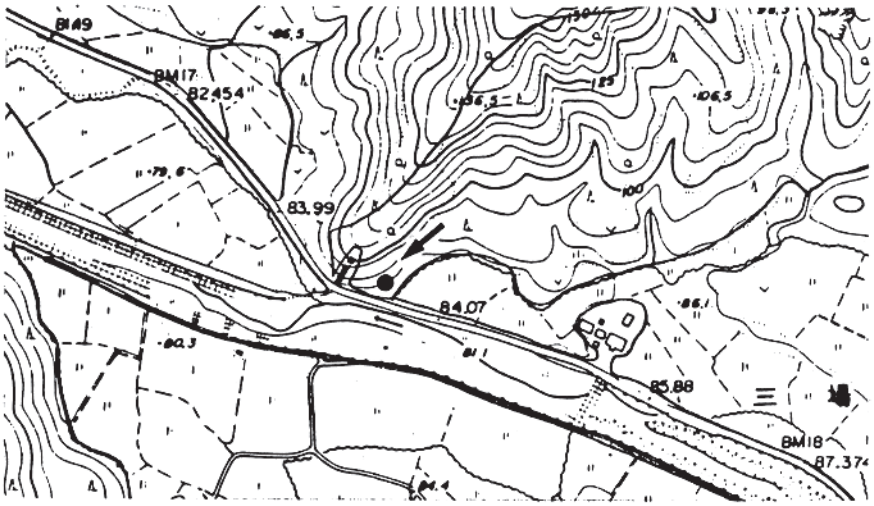
3　宮寄上字三場41

4　国道脇

6　「馬頭観音塔」44×26.5「寒倉供養塔　明治二十九年九月五日建立」98×54「寒倉供養塔　昭和三年九月吉日講中一同」143×36　「庚申塔　万延元年十月吉祥日　当村講中」78×57　「観音塔　万延元歳申丁日吉日」61×40　「寒念佛塔　万延元申年十月吉祥日願主（略）」　82×42「観念佛供養□　大正十年四年八月二十六日　地主（略）　130×52　（単位cm）

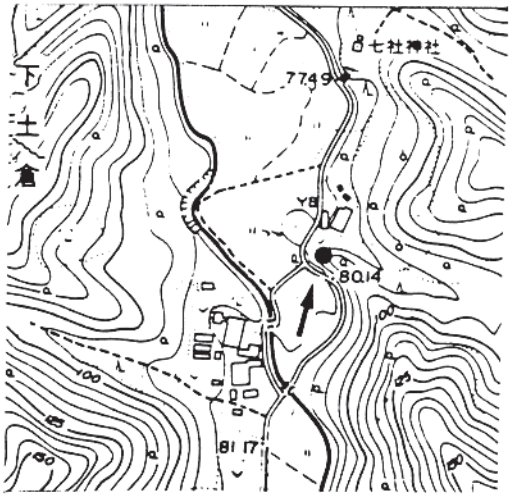
7　江戸時代～現代（万延元年～昭和３年）

10　昭和61年国道改良工事のため移転した。



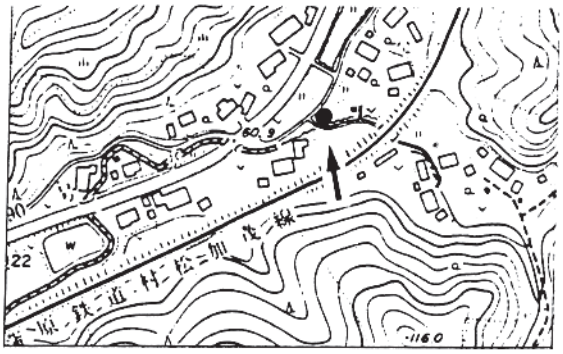
102　乃木神社の祠

2　石祠
3　下土倉字灰場197
4　山麓、尾根の先端。山林。
6　大岩石の一部分を抉って祠にしたもの（ 190×140 ㎝、祠 24㎝）
7　近代のものか？



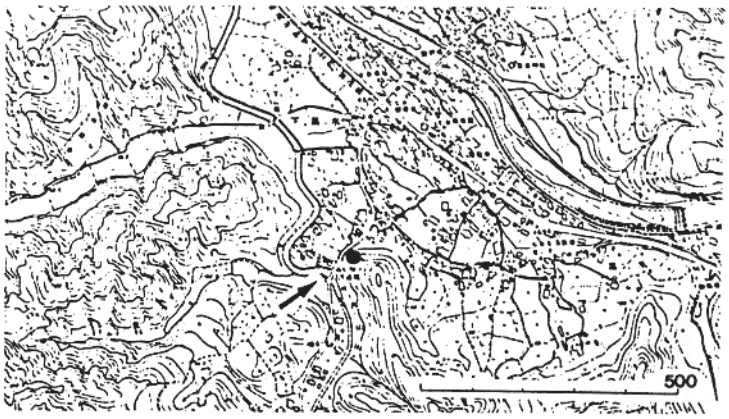
103　寺屋敷の石塔群

2　石塔、石仏
3　長谷
4　宅地。ふ化場。寺院址。
6　「慈庚申塔 □□□十月青神日 」「慈青面金剛」　その他地蔵菩薩６
7　江戸時代～
10　配列中の中央のものは台座のみが残る。



104　沢通の石塔群

2　石塔
3　下黒水字沢通986-1
4　道路脇。山林。
6　「寒念佛塔　天明三癸卯年四月十一日　」「寒倉供粮塔」「光明塔」「三界萬霊塔　享保□□□　」「冒青面金剛尊塔　□□□　」
7　江戸時代（享保年間～）



105　嶽山寺の石造物

2　板碑、石塔
3　宮寄上字長瀬1553
4　嶽山寺境内地
6　「[illegible]」（大日如来真言）高さ 120㎝　「[illegible]二十三夜塔」　宝篋印塔２（天保３年銘）　五輪塔残欠　地蔵菩薩
7　江戸時代
10　宝篋印塔の内１基は記銘のものより古式のものである。位置図は次ページ参照。

106　嶽山寺の庚申塔（石塔群）

2　石塔

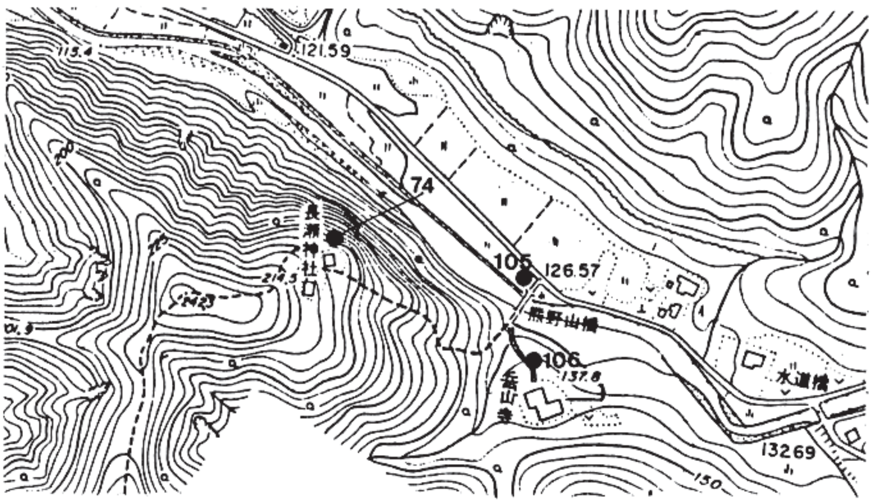
3　宮寄上字長瀬1169-2

4　県道脇。境内地。

6　笠塔婆形供養塔（不明）「[illegible]光明真言供養塔 文政元戊寅歳 謹 九月吉祥日 中」「日月青面金剛塔」「[illegible]寒念佛供養塔」「寒念佛供養塔」「寒念佛供羪塔 昭和四年十月 願主長野勝弘」「□祖大・・・」

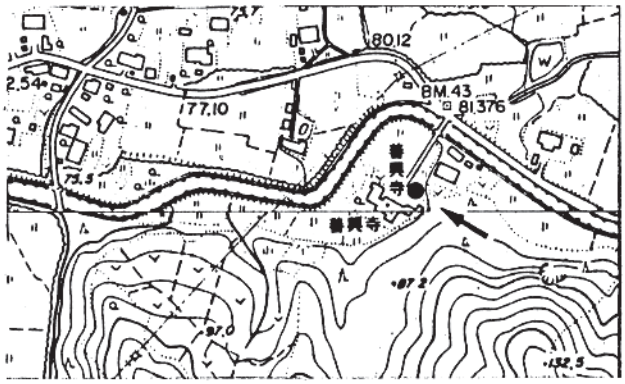
7　江戸時代～現代（文政元年～昭和４年）

10　笠塔婆形供養塔は碑面摩耗のため文字不明。その他の塔は磧石塔である。



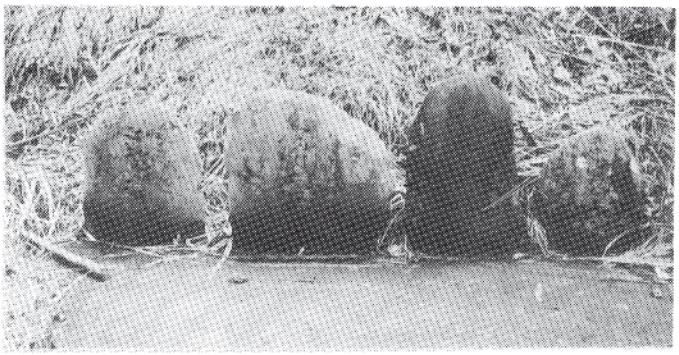
107　善興寺の石塔群

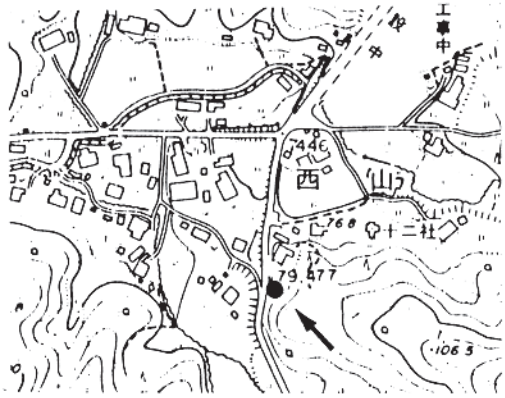
2　石塔、石仏
3　下高柳字笹淵632
4　善興寺境内地
6　「湯殿山」　「庚申塔 宝暦九巳卯年十月吉日」「光明真言供養塔 天明五巳年十月□□」「□□回供養 □□□九月□□」　地蔵菩薩坐像１
7　江戸時代（宝暦９年～）
9　「加茂郷土誌（9）」



108　西山の庚申塔

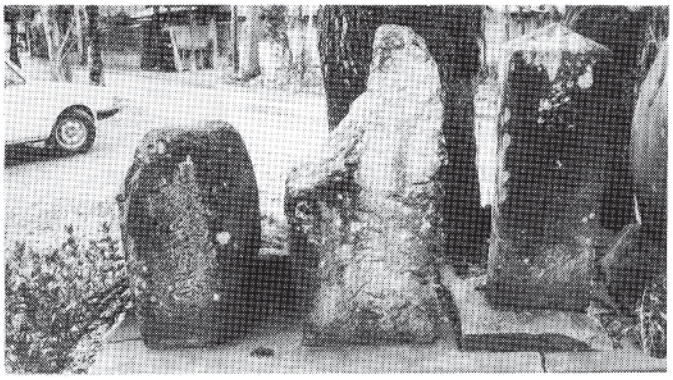
2　石塔
3　西山字宮ノ前651-5
4　国道脇
6　「月日 庚申塔 寛政五年□十月」「念佛之師□小野甚 明治二十四年」「寒倉大権現 大正八年十二月廿四日建行年」「寒倉供養塔 昭和五年十月 願主長野勝弘」
7　江戸時代～昭和（安政５年～昭和５年）
10　国道改良工事により現在地に移転したもの。

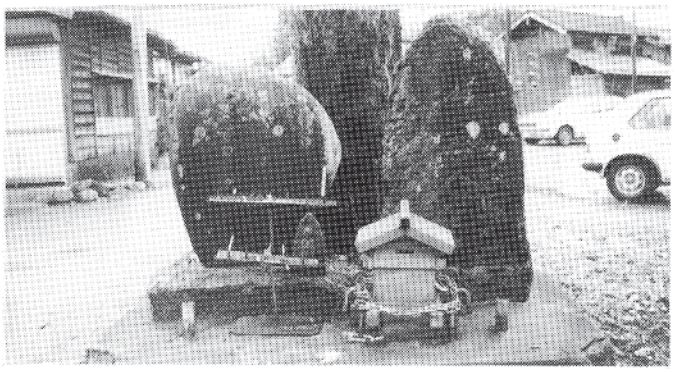




109　賢聖寺門前の石塔群

2　石塔
3　黒水字丸山679-1
4　集落内の道路脇
6　「光明塔」「光明塔」「□女人供養□」「寒倉供粮塔」「寒倉供養塔 明治廿三年一月一日」「寒念佛 文化一五年二月四日」　石仏１
7　江戸時代～明治時代



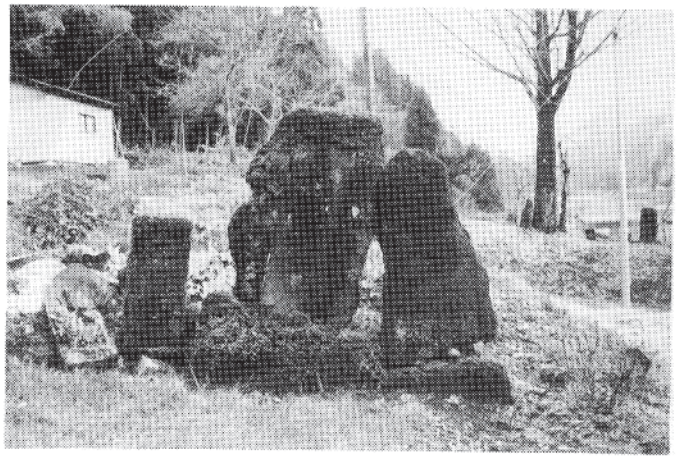


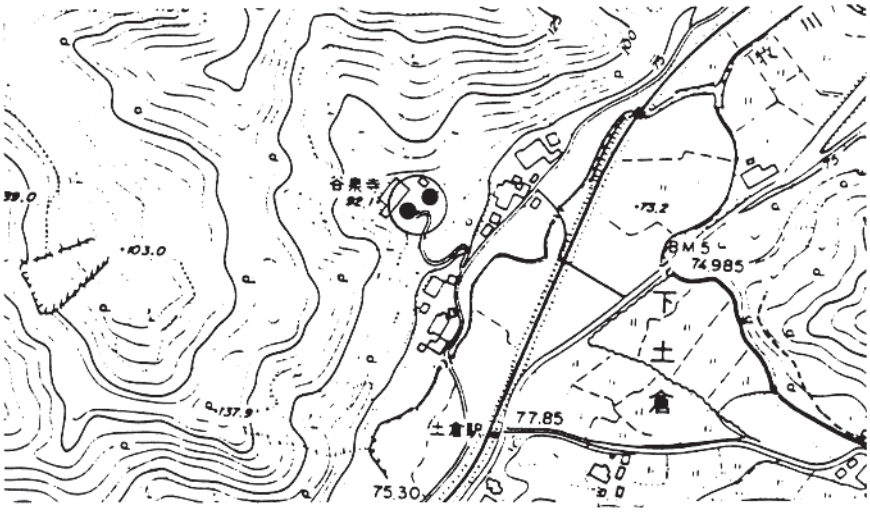
110　賢聖寺の石造物

2　石塔、石仏
3　黒水字丸山686
4　賢聖寺境内地
6　「庚申塔」「寅卯艮干塔 寛政六申寅歳」　地蔵菩薩２
7　江戸時代～
10　地蔵は現代のものか？

111　谷泉寺の石塔群

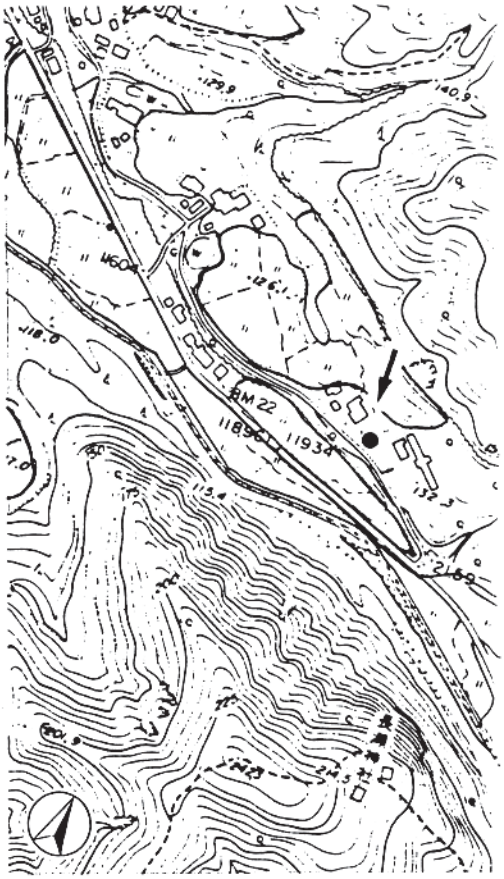
2　石塔
3　下土倉字中田778
4　谷泉寺境内地
6　石塔７基（内容不明だが文化年間のもの１基あり）　そのほか地蔵菩薩
7　江戸時代
10　境内４ヶ所に点在する。

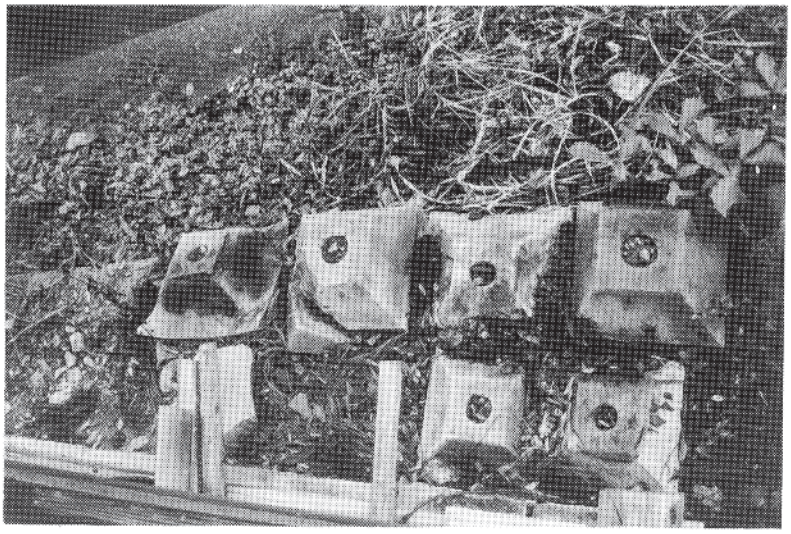




112　粟ヶ岳神社の石塔残欠

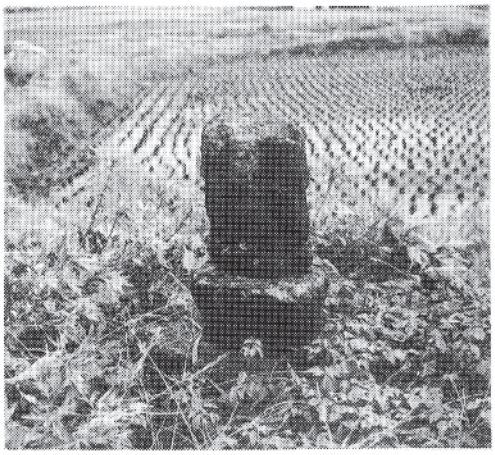
2　石塔、石祠
3　宮寄上字長瀬1089
4　宅地
6　石塔笠６、石祠（金毘羅大権現）
7　江戸時代～
8　相田栄二氏所有、管理。
10　粟ヶ岳山頂より移転した社といわれている。

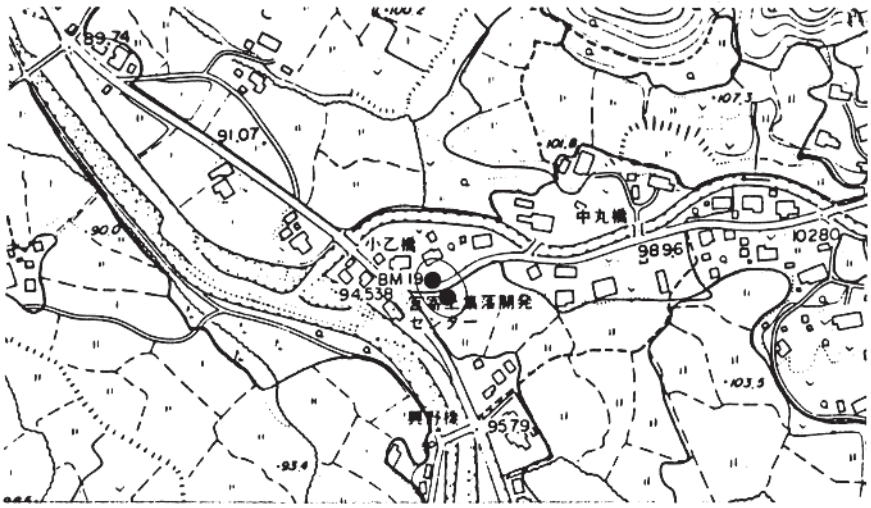




113　日限地蔵尊

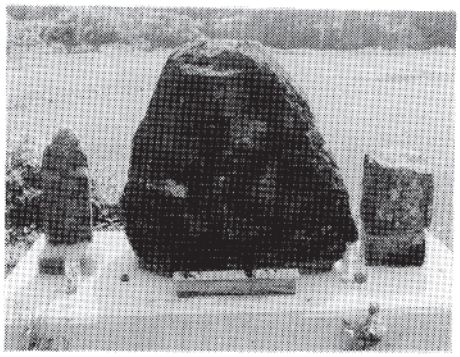
2　石仏
3　宮寄上字小乙581-1 、511-9
4　集落内三叉路脇
6　地蔵菩薩坐像１、堂宇内に安置。対岸路肩に地蔵菩薩立像１、小規模ながら塚状を呈している。
7　江戸時代～
10　日を限ってお参りをすると立願成就すると伝えられる。

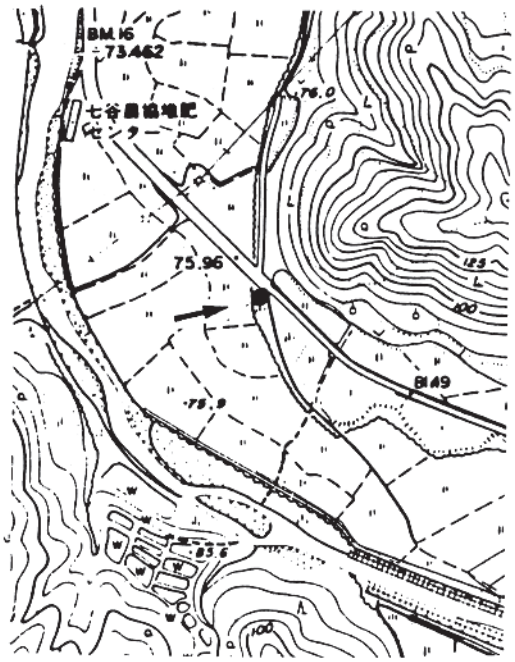




114　七聖の石塔群

2　石塔、石仏
3　下高柳字七聖772-1
4　県道脇。路肩。
6　「奉納大乗□ 願（欠損）」
　「庚申塔 文政五年□月□日」 地蔵菩薩立像1
7　江戸時代（寛政年間～）
8　「加茂郷土誌（9）」





115　丸山の庚申塔

2　石碑
3　黒水字丸山
4　河岸段丘上。明治初期までの旧道脇。
6　自然石「青面金剛 明和元年甲申九月十一日 願主敬白」　土壇の上に建立。
7　江戸時代（明和元年）
10　位置図は次ページ参照。

116　茂野家の山の神祠

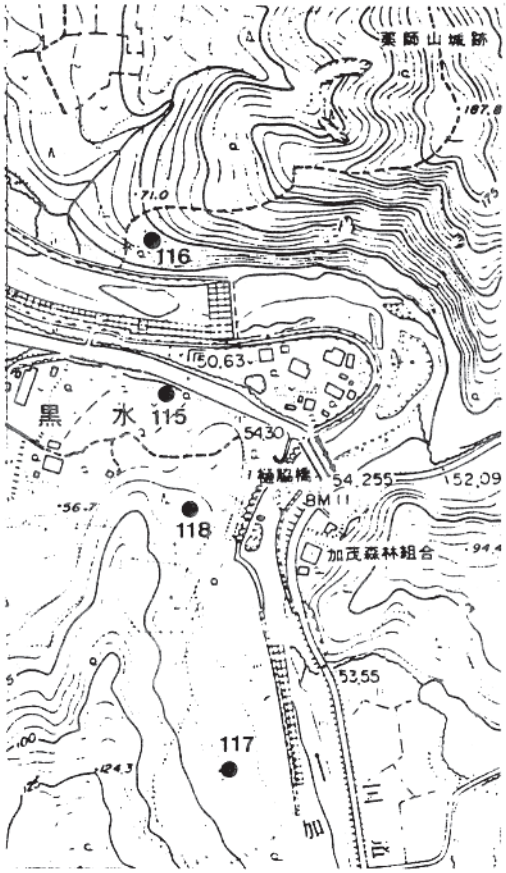
2　石祠
3　黒水字岩野439
4　薬師山南西の山麓台地端部。現況は山林だがかつては畑地だった。
6　凝灰岩製の石祠（高さ80cm）「享和三 癸亥 年二月十二日 願主茂野傳内」（祠銘）
7　江戸時代（享和三年）
10　数年前まで磨製石斧が祀られていたという。位置図は次ページ参照。

117　トリアゲ地蔵

2　石仏
3　下大谷字出戸（通称トリアゲ）
4　加茂川左岸、岸壁の岩屋。旧道脇。
6　地蔵菩薩坐像「願主下大谷村坂上久三良　□母妙全　西潟市十良　□時　母　嘉永元年　九月日」（台座銘）
7　江戸時代（嘉永元年）
10　旧道はこの辺りで加茂川を渡渉した。

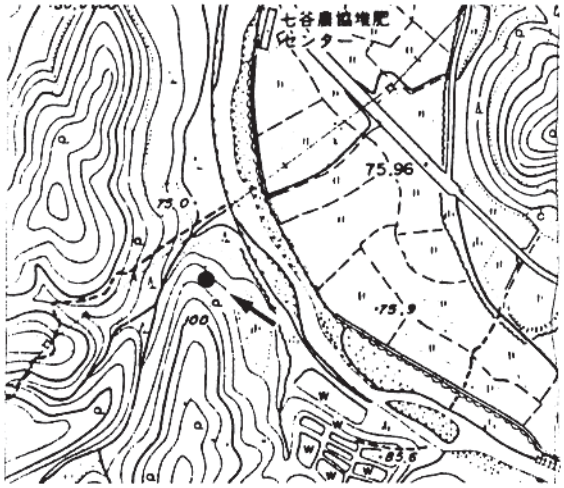
118　丸山の塚

2　塚、石仏
3　黒水字丸山974-甲
4　河岸段丘、山陵端部。七谷忠魂碑遺跡の背後、明治初年以前の旧道添い。
5　直径 5m、高さ 1.4mの円形プランで、一部分に礫を見る。
6　塚上に石造地蔵菩薩建立。
7　江戸時代～
10　写真下



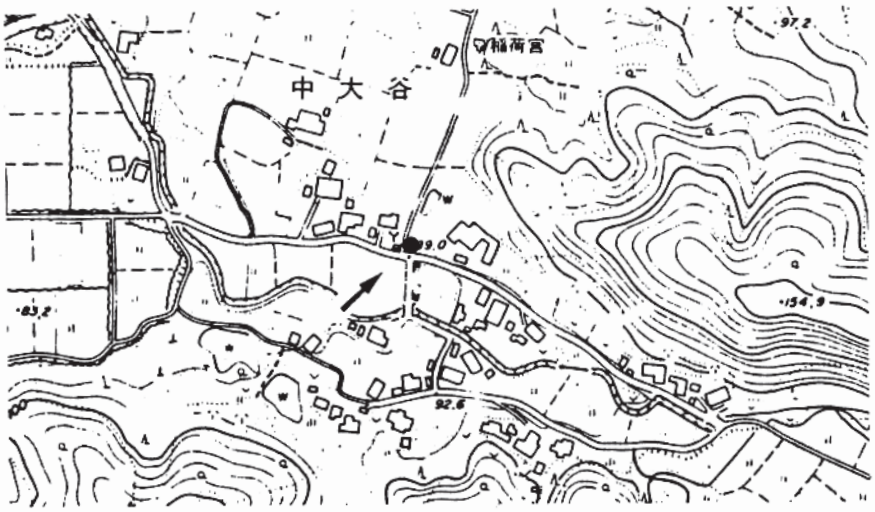
119　ナメ坂の塚

2　石塔群
3　下高柳字ナメ坂口833
4　加茂川左岸、山麓台地。山林。
6　宝篋印塔残欠、相輪７、笠部２　他
7　中世
9　「加茂郷土誌(10)」
10　昭和57年頃土取りにより塚の覆土が湮滅した。



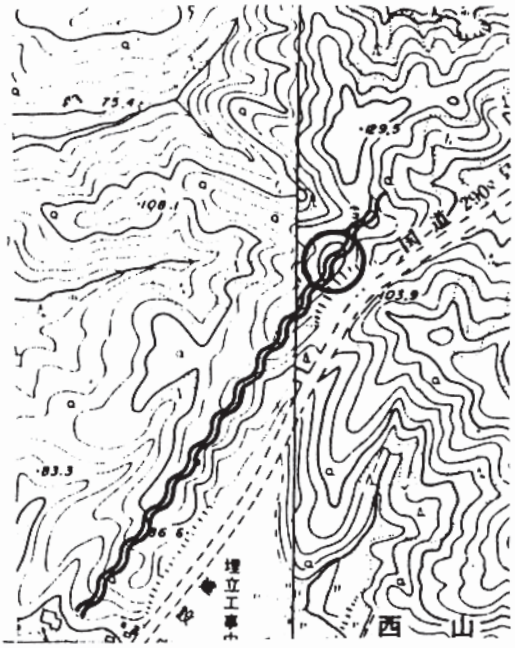
120　中大谷の石祠

2　石祠
3　中大谷
4　集落内の道路脇
6　石祠、相輪残欠２
7　中世～江戸
10　地元ではキンカ様と呼んでいる。



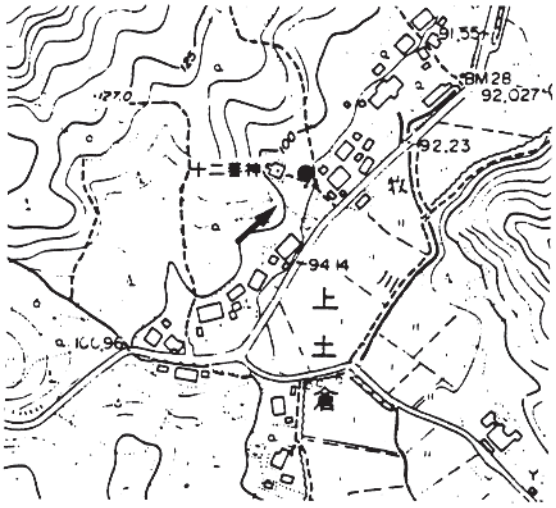
121　旧街道、花立峠

2　史跡
3　西山字谷地田ほか
4　尾根、山嶺。
5　地形によって様々だが、上幅10m、底幅 4mの山中の道路が 400m程続く。山頂は花立峠、松、イタヤの大木があり杜として祀事の地であった。
10　各所にのこる旧街道以前の古い道路らしい。



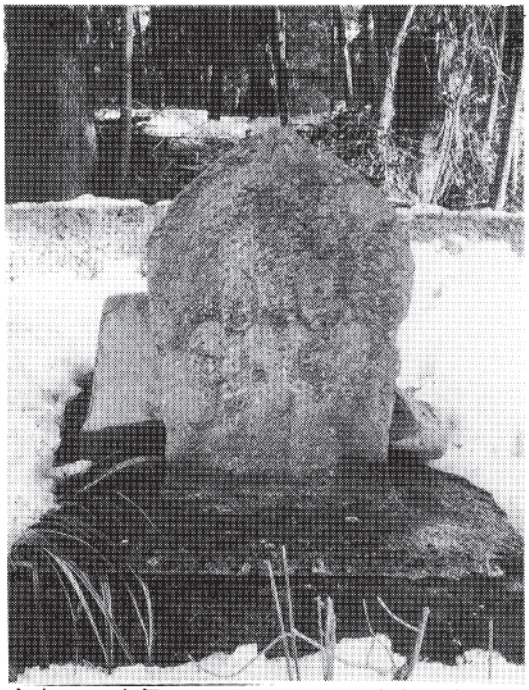
122　十二神社の石塔群

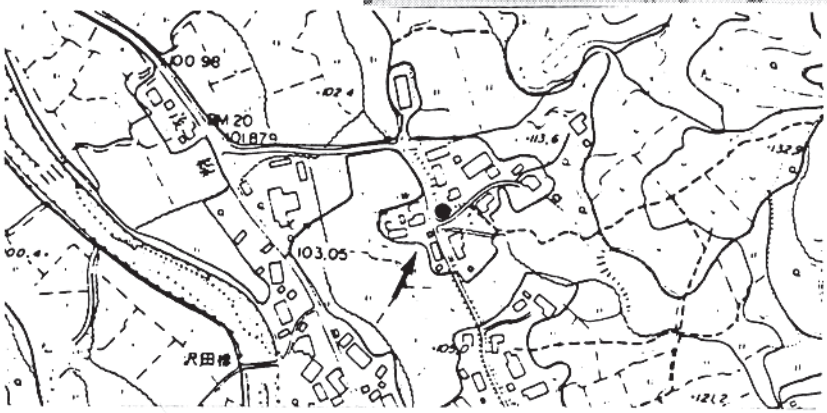
2　石塔
3　上土倉　十二神社入口
4　十二神社境内地
6　「寒念佛供養塔　文化十五年九月　日　」
　「庚申塔　天保四年二月日　」
7　江戸時代



123　岳の道祖神

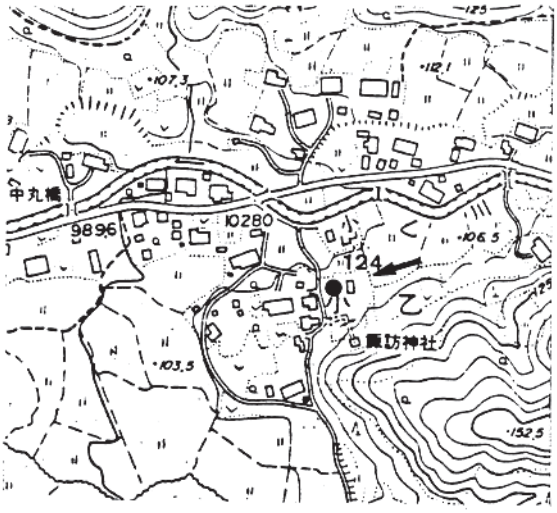
2　石像
3　宮寄上字岩野
6　双体道祖神。舟形後背を有する半肉彫像　59×41㎝
9　「ふるさと歴史散歩」
10　地元ではキンカ様の愛称で呼ばれている。





124　旧宝生院の石塔

2　石塔
3　宮寄上字小乙
4　宅地
6　「南無□天保三年一月吉日」
　「光明真言□」
7　江戸時代（天保三年）
10　宝生院は寺院址らしい。

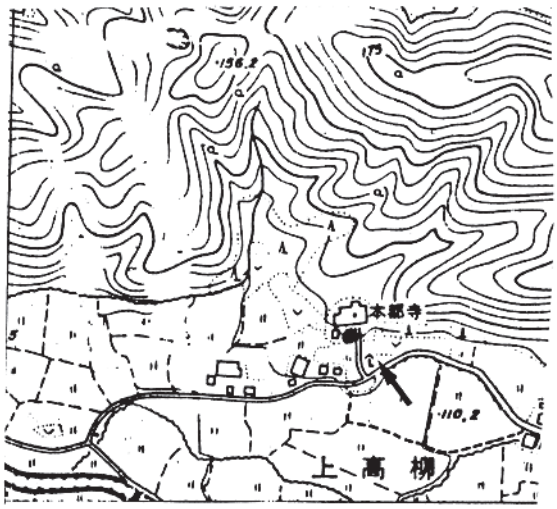


125　宝生院址

2　寺院址
3　宮寄上字小乙（諏訪神社前）
10　No.７５の宝篋印塔もこの関連か？　位置図は 124参照。

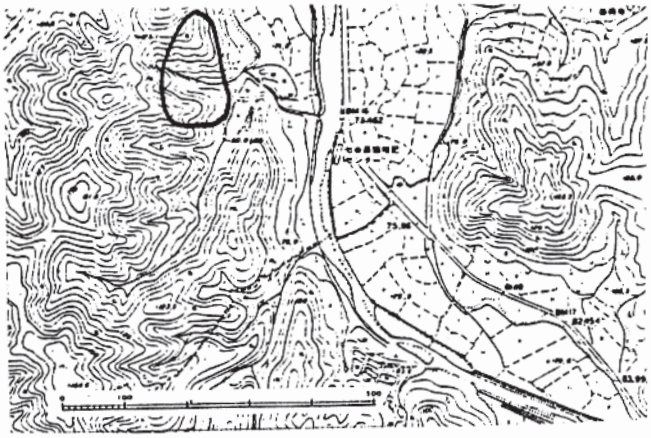
126　本都寺の石塔群

2　石塔
3　上高柳
4　寺院境内地
6　「奉納大乗妙典供養塔　干時文政三月十六日　十一度子年　日願主当村六歳　」「馬頭観音」「光明真言供養塔　九月吉日　」「青面金剛塔」「青面金剛塔　□月十二日」「無縁供養塔」「庚申塔　八月大吉日　」
7　江戸時代（文政11年）



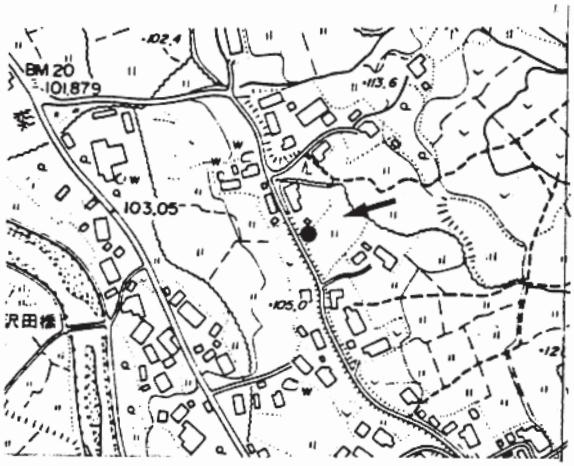
127　二左衛門山墓址群

未確認だが通称二左衛門山（ニーゼン山）一帯に、中世末期の石塔が散在しているのを古くから地元民によって発見されている。中世墓址群と思う。



128　上道の石塔群

宮寄上字岩野地内旧墓地に供養塔４基あり。積雪のため内容未確認。



129　朴坂の庚申塔

上土倉から中大谷へ通じる林道に庚申塔１基（71×45×25㎝）との報告あり。加茂郷土誌(2) 参照。

130　六部塚

中大谷諏訪神社付近に六部塚と呼ばれる塚あり。六部が生き埋めになったと言い伝えられる。

131　その他の遺物

須恵器系中世陶器甕１（中世陶質土器）　出土地は下高柳の善興寺付近というが、地点は不明である。現在加茂市民俗資料館所蔵。14世紀。

Ⅳ 小　　結

（１）はじめに

本調査は表題のごとく、国営加茂東部地区総合農地開発事業に伴う予定地域周辺においての新遺跡の発見を主目的とし、併せて既存の遺跡台帳の補訂を試みたものである。昭和54年度新潟県教育委員会がまとめた新潟県遺跡地図によれば、市内の遺跡数は38箇所が数えられている。この内当開発予定地域内に所在するものは50％に当たる19遺跡があり、このことは加茂川の上流地帯であり且つ豊かな丘陵、山岳地帯という地の利の所以と考えられていた。しかるに当分布調査の結果、その数値は第１表のごとく、その総数は近世石造物を加え 129 箇所にのぼる。

時　代・種　別		先土器	縄文	弥生	古代	中世	城館	塚	生産	石造物（中世）	石造物（近世）	その他	計
既存の遺跡	加茂市全域	0	13	0	4	2	8	9	2	0	——	0	38
	うち七谷地区	0	10	0	0	2	4	5	2	0	——	0	※ 23
当調査により確認		1	27	0	0	6	15	8	5	11 (23)	52 (181)	1	129

［註］①石造物の（）内の数字は遺物の数量　②※23箇所のうち開発地域内は19箇所　③遺跡・石造物等に重複するものあり

第１表　遺跡比較表

以下それぞれの時代あるいは種別についての概略を記してまとめに換えたい。

（２）先史時代の遺跡

唯一の旧石器の出土を見た山王原遺跡は、加茂川流域における最古の遺跡である。採集遺物が一点であることから、この加茂川右岸の台地がいますぐ旧石器（先土器）時代の遺跡ときめつけることはできないが、少なくとも当時の人々がこの地に活躍したことには違いない。今後のより密度ある踏査や確認調査を期待したいところである。縄文時代の遺跡は加茂川の河岸段丘である岩野台地をはじめ広田、三場、岩野原の台地上に集中して位置し、その他山麓や扇状台地に点在している。これまで発掘調査の行われた遺跡は七谷忠魂碑遺跡のみで、その他立会い調査が行われた水源池遺跡がある。前者は祭祀遺跡という特異性のためか土器の採集は非常に少なく、多くを語れない。過去の記録をもかりて言えば、これらのうち縄文前期の土器を見るものは下土倉遺跡が唯一で、水源池遺跡をはじめ岩野原Ａ、牛ヶ沢遺跡等々中期のものが多い。これらも概ね中期前半に位置づけられよう。縄文後期の遺跡は中期の遺跡と重複するものと、単独のものとがあるが、大方が後期初頭の土器を見るにすぎない。そのうち岩野原Ｃ遺跡が後期から晩期の土器を含んでいた。なお三場Ａ刈干場遺跡採集の磨石斧は往々にして縄文時代早期の所産に見られるものであるが、ここではなおも今後の課題としたい。

弥生時代の遺跡は発見することが出来なかったし、また市内平野部においても同様である

（３）歴史時代の遺跡

加茂市内における古墳時代の遺跡として平野部における千刈、石川遺跡がありその一部の土器（土師器）は市の文化財に指定されている。また近年下条地区における福島古墳群の発見も加茂の古代史にとって画期的な進展要素となろうが、当調査地域におけるこの時代の遺跡、遺物共発見されなかった。さらに古代即ち奈良、平安時代に比定される遺跡及び遺物も同様であった。

塚や城館址を除いて中世の遺跡は８箇所を数えたが、これらは寺院址と遺物の単独出土地が主体である。寺院址のうち賢聖寺跡は山頂に近い俗世から掛離れた位置にあり、また出土した一括資料としての密教法具（鎮壇具）の中には平安時代を偲ばせるものも認められ、第一級の資料といえよう。さらに遺跡としてその地点を確認出来なかったものの、加茂市民俗資料館蔵の中世須恵器甕も高柳地区の中世を語る貴重な遺品である。

（４）塚

これまで七聖の塚５基が報告されていたが、当調査においてはこれらの所在地の修正を合わせて行い、17基の発見となった。塚の時代推定は不可能であるが、遺構の大きさ・形態及びその立地等によって大まかな推測は出来よう。また塚頂に建立された石造物等は必ずしも塚の造営当初のものとは推定出来ないまでも、その石造物の建立時代を降ることはあり得ない。塚の立地は台地端部や尾根の陵線上にあるもの、古い街道沿いのもの、集落内または田畑周辺にあるもの等に分類される。これらの立地と形態等から比較的古い時代の経塚をはじめ、あるものは古墳、墳墓等の性格をもつものもあろう。塚にはこれらのほか里程塚等があるが、塚の多くが“祭祀にかかわるもの”であること以外にその性格を把握することが難しいのが現状である。

（５）城館址

やや問題の提起にすぎないものもあるが14箇所の数にのぼった。この他口碑では“下屋敷館址”や“下殿屋敷”等がある。城址はすべて山城であり周知の薬師山城址以外はすべて踏査した。これまで県内における山城は累々たる遺構を遺すもののみが取り上げられて来たが、ここでは西ヶ峯城址をはじめ同砦址等、ごく単純な遺構のものも当然山城の一角に加えねばならないものであるし、出戸塁柵、木戸口塁柵、西ヶ峯塁柵等は戦闘的なものよりいわゆる“むらようがい”的要素が考えられるものであり、この部類とした。この村要害に関してはさらに今後の課題としたい。陣場跡は現在のところ伝承の範疇を脱し得ないが、位置的にみても何らかの形で実際に使われた場所であると思われる。

（６）中世の石造物

市内における中世石造物は、これまで西光寺裏山の墓地にある中世末期の一連の遺物を見るに過ぎなかったが、当調査でわずかながら発見することが出来た。それらは石仏、板碑、宝篋印塔残欠品であるが、時代的に二分することが出来る。下高柳曹洞宗善興寺の石仏はこの地方に唯一のものであり、その時期も一応14世紀後半（南北朝）としたが、もちろん14世

紀前半の可能性もある。またこの石仏は形態上全国的に見られるものではあるが、その石材、手法等から後世における搬入品であることも考えられよう。同寺の板碑、上の田板碑Aの2基は同じく14世紀後半のものとしたが、比較出来る県内資料が乏しいために一般論であり、地域的特色を把握出来る時点になれば、おそらく鎌倉期まで遡り得る可能性も出てくるものである。その他の板碑に関しても2期に分離することができ、碑面に彫り込みのあるものは室町中期が考えられ、その他のものは一応室町前期以前のものと推定されよう。宝篋印塔も同様であり、その形態から3分され、広田の塚頂にある古式のものは14世紀後半、同所に点在するものはやや時期を下げ、さらに小乙の塔を始めとする大方のものは室町中期から江戸時代初頭の所産と考えられるものであろう。

（7）近世の石塔、石仏

近世の石造物に関してごく特異なものの他は新潟県教育委員会の遺跡調査対象となっていないようである。ここでは遺跡というよりも路傍の文化財ということで、これらも対象とした。しかしながら明らかに墓標と考えられるものはこれを除外した。これらに関しては寺院境内や個人の管理に帰するものの把握が難しく、網羅出来たとは考えていないが、一応49箇所 178基を記録した。内容的には庚申塔、寒念仏塔、光明真言塔の石塔と石仏として地蔵、観音、不動、道祖神、及び石祠等である。石塔は文字塔が主体で、唯一の青面金剛像が岩野原に所在した。また宮寄上の双体道祖神も貴重な存在といえよう。いまこれら近世の石塔群に見られる最古の紀年銘は沢通りの“三界萬霊塔”の享保年間のものであり、新しいものでは近世塔に併立した昭和5年の同一人の祈願による塔が4箇所に見られた。いずれにせよこの地域における民間信仰の盛大さが目の辺りに出来よう。

（8）その他

時代区分として不明ながらも中世とした遺跡の中に石五郎屋敷遺跡、御所平遺跡等の製鉄遺跡4箇所がある。越後における製鉄遺跡はしばしば奈良、平安時代の窯業遺跡と重複して発見されることがあるが、中世末期における戦国時代のものもより密度の高い状態であらねばならない。製鉄関連遺跡としては、1次的産業である製鉄、2次的な精錬、3次的な加工業がある。既存の遺跡であるなかん沢製鉄遺跡は3次的と考えられ、その中でも鋳物場跡との報告がある。他の遺跡に関しては時代もさることながら、考古学的発掘調査や化・科学的調査を期さねば云々出来ないところである。

生産遺跡としては他に小乙鉱山址がある。江戸時代中期の開鉱であり佐渡金山における金の精錬用として重要な役割を果たした遺跡である。

史跡として取扱ったものに旧街道がある。本書に記載したものはこの1点であるが実はこの地域に幾筋かの旧街道が知られている。西の下田村からいくつもの峠越えをして北方の村松方面へ抜けるルートである。これらは嶺を切り通し、山腹を抉って開発した大工事の痕を累々と残している。あるものは松坂街道、あるものは殿様街道と呼び伝えられてきたもので、せめてこれらを記録にとどめねばなるまい。

（９）おわりに

当開発事業は、田畑の土地改良面積 329ha、山地における農地開発面積 715haに及び標高差150mである。私達の調査は２ヶ年に及ぶものとはいえ日程的にはごく限られた時間であり、この結果をもってすべてとはいえないことを率直に認めるものである。特に山地における遺跡の発見は今後の開発事業と相対して行われることであろうし、水田地下におけるものも同様のことであろう。いま例言にも記した如く、開発区域の法線を現地において把握しかねることからより広い範囲を踏査の対象としたつもりだ。また開発予定地域外の未踏範囲も広大である。

第２表は遺跡と開発区域との関係を○×で示した。これをもって報告とするが、遺跡確認調査の結果を期すものである。

原　始	16 ×	31 ×	46 ×	61 ○	75 ○	91 ×	107 ×	123 ×
1 ○	17 ○	32 ×	47 ×	62 ○	76 ○	92 ○	108 ×	124 ×
2 ×	18 ○	33 ×	48 ○	63 ○	77 ×	93 △	109 ×	125 △
3 ○	19 △	34 △	49 ×	64 ○	78 ×	94 ×	110 ×	126 ×
4 ○	20 ×	35 ×	50 ○	65 △	79 ○	95 ○	111 ×	127 ○
5 ○	21 ○	36 ×	塚	66 △	80 ○	96 ○	112 ×	128 ×
6 ×	22 ○	城　館	51 ○	中世石造物	81 ×	97 ×	113 ○	129 ○
7 ○	23 △	37 ×	52 ○	67 ○	82 ×	98 ×	114 ○	130 ○
8 △	24 ○	38 ×	53 ○	68 ○	83 ○	99 ×	115 ×	
9 ○	25 ○	39 ×	54 ×	69 ○	84 ×	100 △	116 ×	
10 ○	26 ×	40 ×	55 ×	70 ○	85 ×	101 ○	117 ×	
11 ×	27 ○	41 ×	56 ×	71 ×	86 ×	102 △	118 ×	
12 ○	28 △	42 ×	57 ×	近　世	87 ×	103 ×	119 ×	
13 ○	中　世	43 △	58 ×	72 ×	88 ×	104 ×	120 ×	
14 △	29 ○	44 ×	59 ×	73 ×	89 ×	105 ×	121 ×	
15 △	30 ○	45 ○	60 ×	74 ×	90 ×	106 △	122 ×	

○開発区域内　×開発区域外　△境界周辺　数字は遺跡番号

第　２　表

七谷の名は地質学上における七谷層として世界的に知られている名称であり、部外者である私達にとっても古くからなじみの多い地名であった。そしてこの地域が歴史的にも天然の環境からもかくも恵まれた豊かな地であり、計らずも私達にこの地域の調査という栄誉が与えられたことをこの上なき喜びとするものである。当調査に当たり調査員、補助員をはじめ事務局と地元の多くの皆様方にお礼申し上げるものである。また、特にこれまで自力で山城を含むあらゆる遺物・遺跡の調査を行ってこられた波塚十一氏の業績を記して称えるものである。

参　考　文　献

「加茂市史（上・下）」	加茂市	昭和50年
「加茂市の文化財」	加茂市教育委員会	昭和55年
「加茂郷土誌 (2,3,4,7,9,10号）」	加茂郷土誌調査研究会	昭和55～60年
「ふるさと歴史散歩」	加茂市教育委員会	昭和61年
「加茂市歴史年表」	加茂市	昭和60年
「新潟県遺跡地図」	新潟県教育委員会	昭和54年
「七谷忠魂碑遺跡」	加茂市教育委員会	昭和60年
「加茂東部調査資料 (1,2,3)」	北陸農政局	昭和55～57年

1987年3月　発行

東部地区遺跡詳細分布調査報告書

編　　集　東部地区遺跡詳細分布調査団
代表者　川　上　貞　雄

発　　行　加茂市教育委員会
新潟県加茂市松坂1番3号
TEL 0256－52－0080

印 刷 所　株式会社サンプリント
新潟県加茂市柳町1-4-3
TEL 0256－53－0261

ワープロ　加茂市教育委員会